

一般国道181号（岸本バイパス）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡伯耆町

さか ちょう ぶ じ ら い せき
坂長ブジラ遺跡

さか ちょう しり た びら い せき
坂長尻田平遺跡

2016. 3

一般財団法人 米子市文化財団

一般国道181号（岸本バイパス）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡伯耆町

坂長ブジラ遺跡

坂長尻田平遺跡

2016. 3

一般財団法人 米子市文化財団

例　　言

1. 本報告書は、鳥取県が計画する一般国道181号（岸本バイパス）道路改良工事に伴い、平成24年度に西伯郡伯耆町坂長地内で実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、鳥取県の委託を受けて、一般財団法人米子市文化財団が実施した。
3. 本報告書における方位は真北を示し、表記した座標値は世界測地系の座標値である。またレベルは海拔標高を示す。
4. 本報告書第4図の地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「米子」を加筆して使用した。
5. 調査の実施に当たって、ラジコンヘリによる空中写真撮影をフジテクノ(有)に、基準点の設置をエースプランに委託した。
6. 出土石材の同定は、高橋章司氏の肉眼観察による。
7. 本報告書は、佐伯純也が執筆、編集した。
8. 発掘調査によって作成された図面、写真類は米子市教育委員会に、出土遺物は伯耆町教育委員会において保管されている。
9. 現地調査及び報告書の作成には、多くの方々からご指導、ご支援を頂いた。明記して感謝いたします。（敬称略）

榎原博英、高田健一、高橋章司、長田康平、橋本久和

凡　　例

1. 発掘調査時に使用した遺構名及び遺構番号は、報告書作成時に変更している。
2. 遺跡の略称は、坂長ブジラ遺跡1区・3区・4区が「ブジラ1・3・4」、坂長尻田平遺跡1区が「シリタ1」である。
3. 本報告書における遺物・遺構番号は次のように記す。

Po : 土器、土製品、陶磁器 S : 石製品 F : 鉄製品 B : 銅製品 R : 瓦類
4. 本文中、挿図中及び写真図版の遺構・遺物番号は一致する。
5. 遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗り、それ以外は断面白抜きで表示した。また、赤色塗彩された土師器と施釉された瓦は網掛けで表現した。
6. 遺物実測図の縮尺は、土器・陶磁器が4分の1、小型土製品が1分の1と2分の1、石製品が1分の1と3分の1。鉄製品が3分の1、銅製品が1分の1である。

坂長ブジラ遺跡 新旧遺構名対照表

新遺構名	旧遺構名
土 坑 1	SK3
土 坑 2	SK4
土 坑 3	SK6
掘立柱建物 1	SB10
河 川 1	SD8・15・17
水 路 1	SD14
敷 石	板石
水 路 2	SD1
水 路 3	SD20
水 路 4	SD21
水 路 5	SD18
水 路 6	SD19

坂長尻田平遺跡 新旧遺構名対照表

新遺構名	旧遺構名
土 坑 1	SK6
土 坑 2	SX13
土 坑 3	SX12
豎 穴 1	SI11・SD12
溝 1	SD9
溝 2	SD14
柱 穴 1	P3
溝 3	SD2
道 路 1	SS1
段状遺構 1	SS1・SS2
柱 穴 2	SS1西Pit
溝 4	SD7
土手状遺構 1	SD7土手部
凸凹遺構 1	SD7土手部
水 門 1	SX8

目 次

例言、凡例

目次

図版目次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	2
第3節 整理作業の経過	2
第4節 調査体制	4

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5

第3章 坂長ブジラ遺跡1区、3・4区の調査成果

第1節 調査の方法	9
第2節 遺跡の立地と層位	10
第3節 1区第3遺構面の調査	11
第4節 1区IV-2層の出土遺物	26
第5節 1区第2遺構面の調査	31
第6節 1区第1遺構面の調査	37
第7節 1区IV-1層の出土遺物	41
第8節 1区Ⅲ層の出土遺物	43
第9節 1区Ⅱ層の出土遺物	44
第10節 1区I層の出土遺物	45
第11節 1区の遺構掘削中に出土した遺物	49
第12節 3区第2遺構面の調査	50
第13節 3区第1遺構面の調査	57
第14節 3区の包含層出土遺物	61
第15節 4区の調査	61

第4章 坂長尻田平遺跡1区の調査成果

第1節 調査の方法	63
第2節 遺跡の立地と層位	63
第3節 検出した遺構と遺物	66

第4節 包含層出土遺物	77
-------------	----

第5章 坂長ブジラ・尻田平遺跡の調査の総括

第1節 遺構の変遷	81
-----------	----

第2節 平安時代の土師器坏について	81
-------------------	----

第3節 施釉瓦の窯道具について	82
-----------------	----

出土遺物一覧表	83
---------	----

写真図版

報告書抄録・要約・奥付

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、鳥取県西伯郡伯耆町坂長地内において計画された、一般国道181号（岸本バイパス）道路改良工事に伴い予定地内に所在する埋蔵文化財について実施したものである。

今回発掘調査を実施した坂長ブジラ遺跡、坂長尻田平遺跡は、平成21年度に一般国道181号（岸本バイパス）道路改良工事の予定地内に所在する遺跡について伯耆町教育委員会による試掘調査（註1）が実施され、溝状遺構や弥生土器が出土したことから当該期の遺跡の存在が確認された。

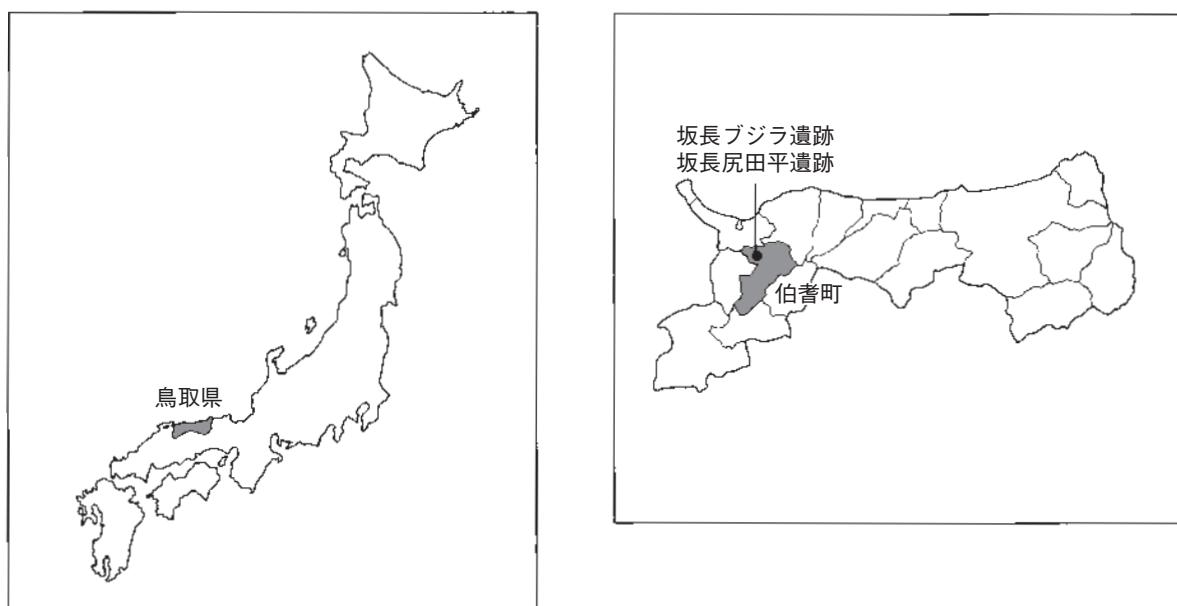
これに基づいて、平成23年度には工事予定地内の坂長ブジラ遺跡2区（2,250m²）および、坂長尻田平遺跡2区（1,920m²）を対象とした本調査が鳥取県教育文化財団によって実施され、弥生時代から近世にまで至る遺跡の内容が明らかにされている（註2）。

今回の工事予定地内の調査範囲については、平成24年度内における鳥取県教育文化財団、伯耆町教育委員会の事業量が両者とも膨大であり、年度内の調査実施が困難な状況であったことから、米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室（当時）が本調査を実施することとなった。このため、平成24年2月27日付で文化財保護法第92条の第1項に基づく発掘届を鳥取県教育委員会に提出し、平成24年4月1日に鳥取県と正式に契約を締結した。そして、平成24年4月18日から現地調査に着手した。

平成24年8月には、坂長ブジラ遺跡の西側で工事範囲が拡大されたため、改めて協議を行った結果、調査範囲を302m²広げることとなった。これに伴い、平成24年9月12日付で文化財保護法第92条の第1項に基づく発掘届を鳥取県教育委員会に提出し、坂長ブジラ遺跡4区として調査を行った。

（註1）2012年 長田康平『伯耆町内遺跡発掘調査報告書』伯耆町教育委員会

（註2）2012年 野口良也ほか『坂長ブジラ遺跡・坂長尻田平遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団



第1図 遺跡の位置図

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、工事対象区間に存在する坂長ブジラ遺跡1区・3区・4区（2,372m²）と、坂長尻田平遺跡1区（2,960m²）の合計5,332m²を対象としている。

現地での調査期間は、平成24年4月18日から開始し、平成24年12月13日までの約8ヶ月間を要した。

発掘調査は、排土置場の関係から坂長ブジラ遺跡1区の南側から調査を始め、尻田平遺跡1区、坂長ブジラ遺跡4区へと進め、最後に坂長ブジラ遺跡3区の調査を行った。これらの調査終了後には、専門業者によるラジコンヘリの空中写真撮影を実施した。

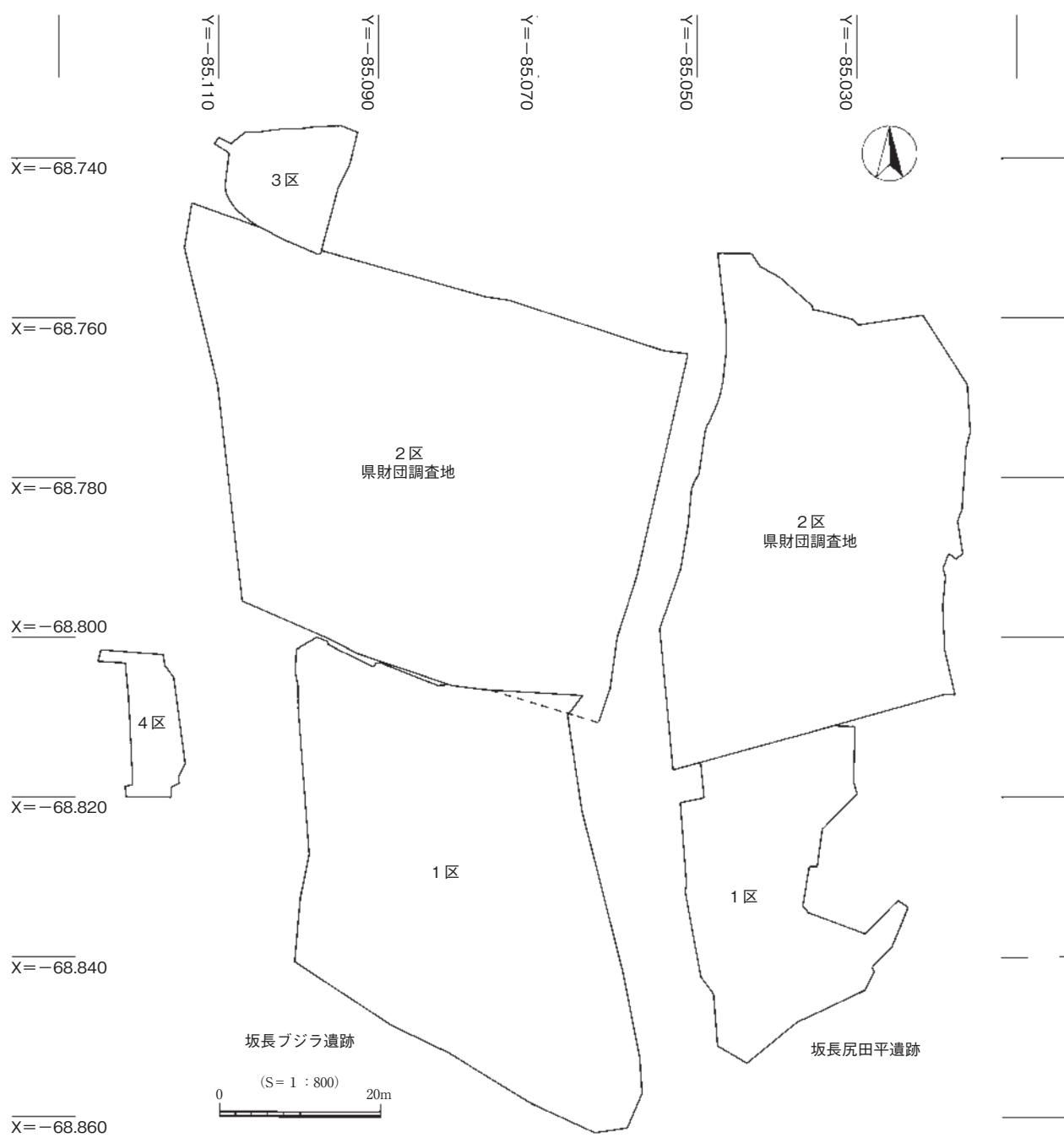
第3節 整理作業の経過

出土遺物の整理作業は、平成24年度は出土遺物の洗浄、注記作業と実測作業の一部を行った。

平成27年度には、残りの出土遺物の注記、接合作業を行い、遺物の実測、トレース、写真撮影を実施し、年度末までに報告書を刊行した。



第2図 調査地位置図



第3図 遺跡調査区割図

第4節 調査体制

平成24年度（2012年度）

事業主体 財団法人米子市教育文化事業団

理 事 長 杉原弘一郎

常 務 理 事 中村智至（財団法人米子市教育文化事業団事務局長）

埋蔵文化財調査室

室 長 岡 雄一（米子市教育委員会文化課長）

事務長兼調査員 小原貴樹

統括調査員 平木裕子

非常勤職員 田中昌子

事業担当 主任調査員 佐伯純也

調 査 員 影山和雅

調査補助員 永登朋子

平成27年度（2015年度）

事業主体 一般財団法人米子市文化財団（平成25年4月より名称変更）

理 事 長 杉原弘一郎

常 務 理 事 先灘達也（一般財団法人米子市文化財団事務局長）

埋蔵文化財調査室

室 長 岡 雄一（米子市教育委員会文化課長）平成27年4月30日まで

室長兼調査員 小原貴樹 平成27年5月1日より

次長兼統括調査員 平木裕子

非常勤職員 田中昌子

事業担当 主任調査員 佐伯純也

調査補助員 秦 美香

〃 永登朋子

調査協力・管理・指導・助言 米子市教育委員会・伯耆町教育委員会・鳥取県教育委員会

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

坂長ブジラ遺跡、坂長尻田平遺跡は、鳥取県西伯郡伯耆町坂長に所在する。

遺跡周辺の地形および地質は、日野川を挟んで大きく様相を変えることが知られており、日野川の右岸には、第四紀更新世に形成された、主に大山の火山噴出物からなる緩やかな台地である。一方、遺跡の所在する日野川左岸地域には、主に標高270mの高塚山と標高226mの越敷山を中心とした、南北8km、東西3kmにわたる起伏に富んだ丘陵地帯と、長者原台地と呼ばれる平坦な洪積台地によって構成されている。

丘陵地帯は、工事中の法面を見ると、第三紀鮮新世の粗面玄武岩を基盤とし、部分的に大山上中部火山灰に覆われている状況が窺える。洪積台地は、南側では安山岩質の砂礫層を、北側では火山碎屑物を主体とする古期扇状地堆積物を基盤とし、上部ではやはり大山上中部火山灰に覆われている。

この他に、日野川付近には低位段丘や扇状地などの地形も見られる。なお、日野川は中世までは岸本集落の北から東北方向に流れて佐陀川に合流していたが、天文19（1550）年と元禄15（1702）年の洪水により、現在のような西寄りの流路に転流したと伝えられている。

坂長尻田平遺跡は、越敷山から派生する丘陵先端部、坂長ブジラ遺跡は、坂長尻田平遺跡の西に隣接した谷部に位置する遺跡である。

第2節 歴史的環境

旧石器時代

鳥取県の西部に位置する大山の西麓地方では、旧石器時代の遺跡は検出例が少ない。今回調査した坂長ブジラ・尻田平遺跡の周辺では、長者原台地の東端に位置している諏訪西山ノ後遺跡(24)から、珪岩製のナイフ形石器がローム層中から出土した事例がある。また、坂長村上遺跡でも黒曜石製のナイフ形石器が1点出土しているが、ブロックを伴うようなまとまった遺跡の検出例が無く、旧石器時代の様相は不明な点が多い。

縄紋時代

縄紋時代には、草創期のものと見られる尖頭器が坂長村上遺跡からまとまって見つかっているほか、貝田原遺跡（61）や奈喜良遺跡（20）などでも単独で出土しており、この頃から遺跡が広範囲に広がっているが、土器を伴う集落遺跡の事例はいまだ確認されていない。

続く縄紋時代早期から押型紋土器の出土が鳥取県西部の各所で見られ、集落遺跡としてまとまりのある上福万遺跡（73）をはじめとして、大山西麓から越敷山周辺の遺跡に広がっている。

海進期を迎えていた縄紋時代前期には、目久美遺跡（8）をはじめとして、陰田第9遺跡（9）や鮎ヶ口遺跡など、海浜部から潟湖沿岸に分布する集落が活発化し、周辺地域にも影響を及ぼすようである。

伯耆町内では長山馬籠遺跡（71）から、西川津式土器の出土が知られており、縄紋時代前期の様相が窺える。

中期には、鳥取県西部地方全体で集落活動が低下したものと考えられ、特に中期中頃から後半期の遺跡の検出例が激減するが、この原因はよくわかっていない。

縄紋時代の後期後半期以降には再び、目久美遺跡などの中海周辺の遺跡で土器の出土が見られるようになり、再び集落活動が活況を呈するようになる。

縄紋時代晚期には、米子市の河原田遺跡（12）や井手跨遺跡（81）などで集落が展開するが、特に内陸部の河川周辺域での活動が顕著となっている。

弥生時代

弥生時代前期には、目久美遺跡をはじめ、米子市近郊の低湿地とそれに面する微高地上に集落が形成されているものと見られ、縄紋時代晚期から継続する遺跡も多い。これらの遺跡は初期の農耕集落と推測されるが、明確な建物跡などが見つかる事例は少なく、弥生時代前期の集落像を描くことは難しい。南部町の清水谷遺跡（17）や諸木遺跡（29）では前期の環濠が見つかっているが、これらの環濠でも建物跡などは見つかっていない。

伯耆町内における弥生時代の集落遺跡は、久古第3遺跡において前期の土器の出土が知られているが、この段階の遺構は確認されていない。中期には、下山南通遺跡（70）において中期中葉から後葉の堅穴建物、掘立柱建物、貯蔵穴が見つかっている。また、長山馬籠遺跡でも大型の掘立柱建物のほか、中期後葉段階の良好な土器資料が得られている。後期には、代遺跡において堅穴建物が見つかっているほか、父原地区では四隅突出型墳丘墓が確認されており、伯耆町内の各所に遺跡が点在している。

古墳時代

伯耆町周辺における古墳時代の様相は、古墳時代前期の首長墓として、三角縁神獣鏡が出土した南部町の普段寺古墳群（35）があり、画紋帶神獣鏡が出土した浅井11号墳（36）など、鏡を副葬する首長墓の系譜が辿れる。特に、中期には全長108mの前方後円墳である三崎殿山古墳（26）が造られており、鳥取県西部地域における最大首長の墓と目されている。

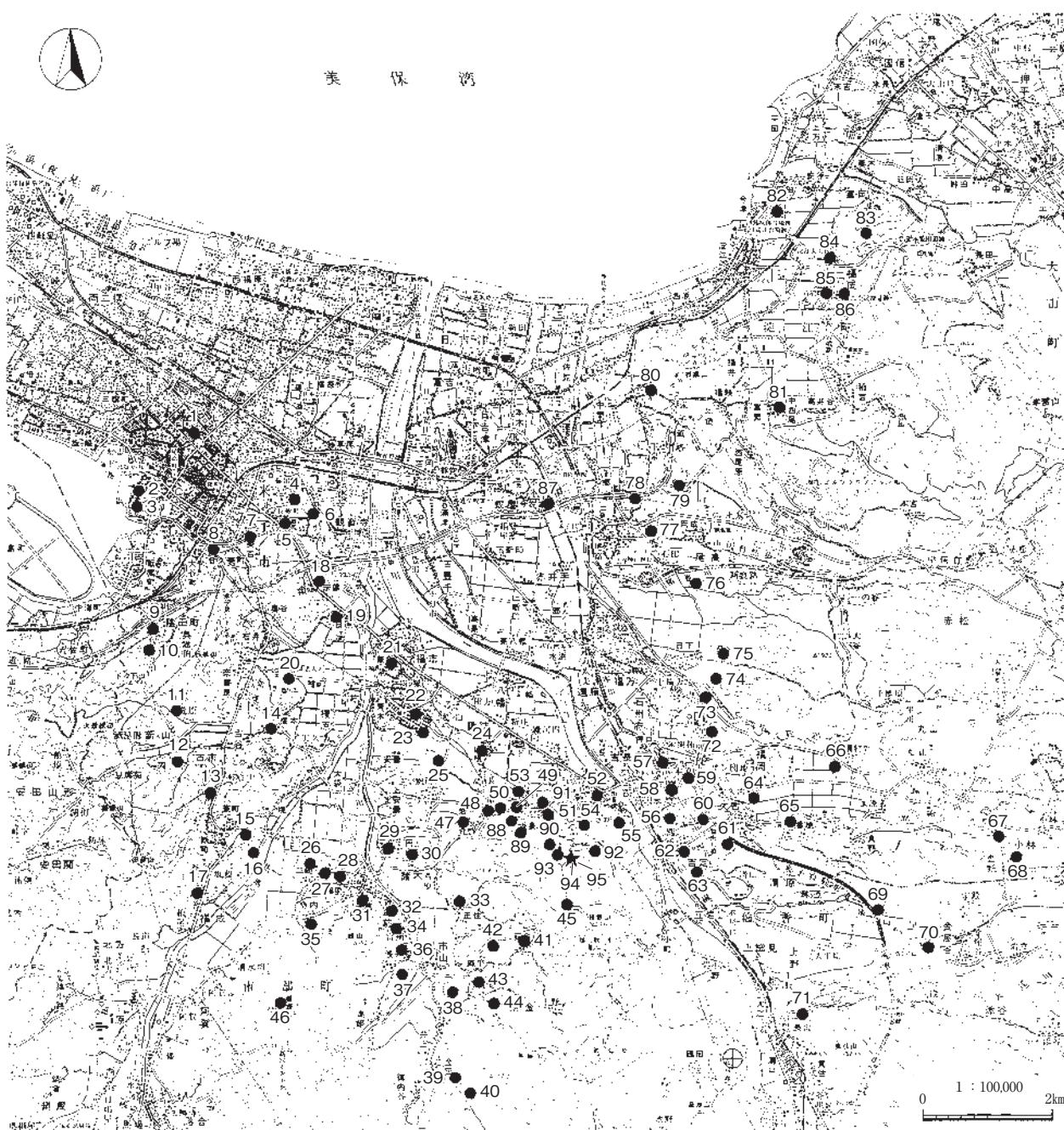
越敷山周辺では、明確な前期古墳は見られない。中期に至ってようやく越敷山古墳群が大規模な群集墳を形成していくが、これらの人々が生活していた集落は今のところ見つかっていない。越敷山古墳群の様相は不明な点が多いが、直径10～20mクラスの円墳が主体的であり、規模や副葬品の上で突出した古墳は少ない。これまでに調査された中で最大規模の越敷山51号墳でも、直径25mの円墳で、中心部の埋葬主体も箱式石棺を用いており、副葬品も鉄器と玉類・堅櫛が出土したのみで、鏡を持たないなどの特徴がある。

後期には、初期の横穴式石室が細見神社で見られるが、数は少なく、石州府古墳群（72）のような横穴式石室を主体部とする大規模な群集墳を形成する動きは見られない。越敷山古墳群でも80号墳で横穴式石室が確認されているが、石室の規模が小さく終末期に近い段階のものと考えられている。

終末期には、鳥取県西部地方では横穴墓が一般化し、各地で盛んに造られているが、伯耆町内では検出例が少ないとことから、横穴墓があまり積極的に導入されていなかった地域と見られる。



美 保 河



第4図 周辺遺跡分布図

1 錦町第1遺跡	17 清水谷遺跡	33 田住古墳群	49 坂長下屋敷遺跡	65 番原遺跡群	81 井出跨遺跡
2 久米第1遺跡	18 東宗像古墳群	34 宮前遺跡	50 坂長村上遺跡	66 須村遺跡	82 今津岸の上遺跡
3 米子城跡	19 日原古墳群	35 普段寺1号墳	51 坂中廃寺跡	67 真野ブヤ遺跡	83 妻木晚田遺跡
4 長砂第1・2遺跡	20 奈喜良遺跡	36 浅井11号墳	52 大寺廃寺跡	68 藍野遺跡	84 晩田遺跡
5 長砂第3遺跡	21 福市遺跡	37 浅井土井敷遺跡	53 長者原古墳群	69 林ヶ原遺跡	85 向山古墳群
6 水道山古墳	22 青木遺跡	38 天王原遺跡	54 坂中第5遺跡	70 下山南遺跡	86 上淀廃寺跡
7 池ノ内遺跡	23 橋ノ口第4遺跡	39 金田瓦窯	55 岸本大成遺跡	71 長山馬籠遺跡	87 今在家下井上遺跡
8 目久美遺跡	24 諏訪西山ノ後遺跡	40 両部太郎窯	56 岸本古墳群	72 石州府古墳群	88 坂長第7遺跡
9 陰田遺跡群	25 別所新田遺跡	41 萩名遺跡群	57 岸本遺跡	73 上福万遺跡	89 坂長第8遺跡
10 奥陰田遺跡群	26 三崎殿山古墳	42 田住松尾平遺跡	58 岸本要害跡	74 日下寺山遺跡	90 坂長下門前遺跡
11 新山遺跡群	27 天萬土居前遺跡	43 朝金古墳群	59 岸本下の原遺跡	75 日下古墳群	91 大殿狐谷遺跡
12 古市遺跡群	28 宮尾遺跡	44 朝金小チャ遺跡	60 久古第3遺跡	76 尾高浅山遺跡	92 坂長前田遺跡
13 吉谷遺跡群	29 諸木遺跡	45 越敷山遺跡群	61 貝田原遺跡	77 尾高城跡	93 坂長武寿羅遺跡
14 橋本遺跡群	30 後塔山古墳	46 手間要害跡	62 口別所古墳群	78 尾高御建山遺跡	94 坂長ブジラ遺跡
15 福成石佛前遺跡	31 天万遺跡	47 荒神上遺跡	63 吉定1号墳	79 泉中峰・前田遺跡	95 坂長尻田平遺跡
16 福成早里遺跡	32 宮前3号墳	48 長者屋敷遺跡	64 久古北田山遺跡	80 小波原畠遺跡	

古 代

古代の坂長地区には、会見郡の郡衙が置かれていたと推測されており、近くには駅家も設置されていた。これまでの調査で、会見郡衙跡とみられる大型の掘立柱建物が長者屋敷遺跡（48）において確認されており、周辺の遺跡からも会見郡衙関連の建物と見られる遺構がたくさん見つかっている。こうしたことから、長者原台地とその周辺に会見郡の郡衙が位置していたことは間違いないと考えられる。

白鳳期には、大殿地区に大寺廃寺（52）が建立される。この寺は、東向きの法起寺式伽藍配置で、瓦積基壇の金堂と舍利孔を持つ塔心礎が確認されている。また、大寺廃寺の瓦は、4タイプの八葉複弁蓮華紋軒丸瓦と2タイプの均整唐草紋軒平瓦、重弧紋軒平瓦で構成されている。また、福寿寺の境内に保管されている石製の鷗尾は、大山山麓に産出する安山岩を加工したもので、大寺廃寺の金堂の屋根に置かれていたとされる。また、平安期には長者原台地上に坂中廃寺（51）が建立されるが、正確な位置など詳細はよく分かっていない。

中 世

平安時代の終わりから鎌倉時代の初めには、坂長ブジラ・尻田平遺跡の周辺では紀成盛が活躍していた。紀成盛は、承安元（1171）年に焼失した大山寺の本堂を再建し、本尊の仏像とそれを納める鉄製の厨子を奉納した人物であり、これについては、鉄製厨子建立の由来を記した鍛造の鉄板3枚が現存しており、当時の様子が分かる。

南北朝時代には、大寺地区に安国寺という六十もの僧坊を持つ三千石を領する大寺院が所在したと伝わるが、永禄8（1565）年に杉原盛重により焼き討ちにされたという。また、伯耆町内では三部地区で野上城跡の調査が行われているほか、代遺跡において中世の城郭遺構が調査されている。

近 世

中世末期の西伯耆地方は、尼子氏と毛利氏の覇権争いの場となり、しばしば合戦が行われていたが、永禄9（1566）年には月山富田城が開城し、山陰地方の多くが毛利氏の支配下となった。天正19（1591）年からは吉川広家が隠岐国と出雲・伯耆三郡の領主となり、この地を統治していた。関ヶ原戦後の慶長5（1600）年には、中村一忠が伯耆国の領主となり、米子に城を構えたが、慶長15（1610）年には断絶となり、続く加藤貞泰、池田光政（1617年～）の統治を経て、寛永9年に池田光仲の治世となると、池田家家老の荒尾氏による自分手政治が行われ、明治2（1878）年まで存続した。

坂長地区では、佐野川用水の開削事業が開始された。この工事は元和4年から中断を経ながら約250年間継続し、文久元（1861）年によく開通した。この佐野川用水の完成により、長者原台地上において水田耕作が可能となり、現在の田園風景が広がる景観の礎となった。

参考文献

- 1982年 『角川日本地名大辞典 31 鳥取県』 角川書店
- 1996年 米子市史編さん協議会『新修米子市史』 第13巻 米子市
- 2012年 野口良也ほか『坂長ブジラ遺跡・坂長尻田平遺跡』 鳥取県教育文化財団
- 2013年 玉木秀幸『金廻家ノ上ノ内遺跡・越敷山古墳群（金廻地区）』 鳥取県教育文化財団

第3章 坂長ブジラ遺跡1区、3・4区の調査成果

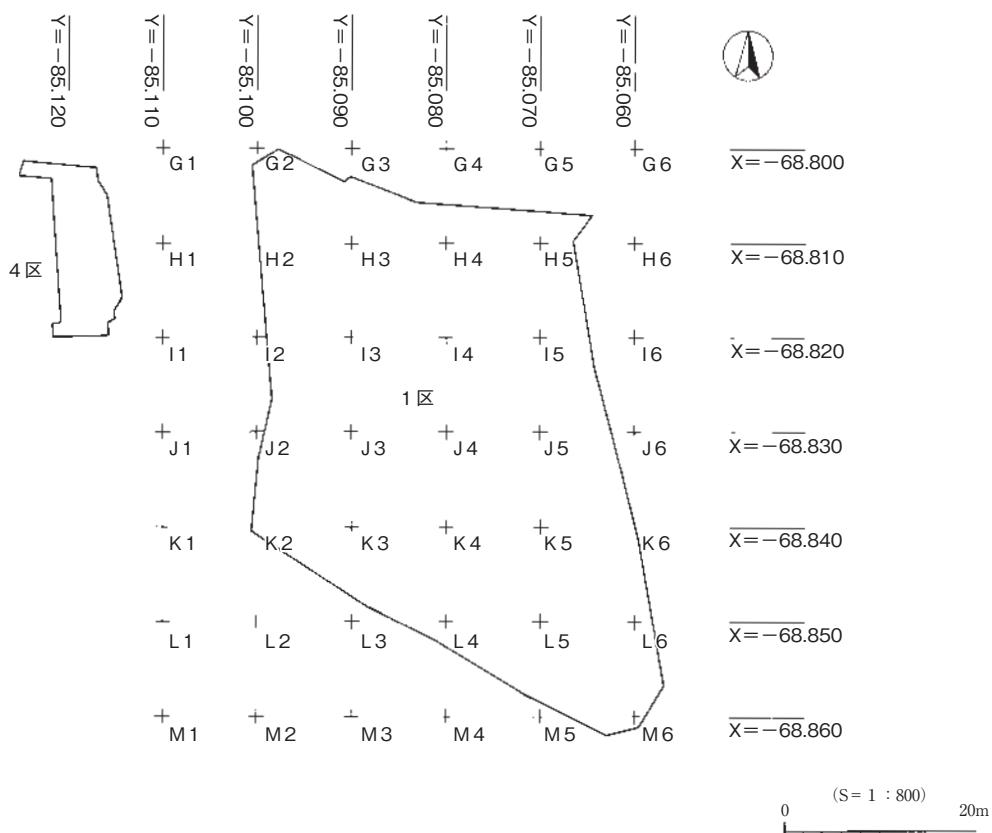
第1節 調査の方法

調査区の設定方法は、坂長ブジラ遺跡1区では平成22年度に鳥取県教育文化財団によって実施された、坂長ブジラ遺跡2区のグリッドを踏襲し、北から南へアルファベット表記、東から西への数字表記のグリッドを設定し、主に包含層からの遺物の取り上げに利用した（第5図）。

発掘調査は、重機を用いて近現代の表土層を除去した後、人力にて包含層を掘削して遺構を検出した。また、排土の処理は一輪車と人力により運搬し、重機により調査区外へ排出した。人力による包含層の掘り下げには、鍬とジョレンを用い、遺構の精査にはガリと移植鋤を使用した。

現場での遺物の取り上げは、遺物取上台帳を作成し、出土地点と層位を記録して管理した。検出した遺構名については、調査段階は仮の略号を用いているが、本報告作成段階で変更している。

検出した遺構、遺物の記録には平板とトータルステーションを用い、座標値を記録した。また、写真撮影は、現地では35mmの一眼レフカメラを使用し、白黒、リバーサルフィルムで撮影した。また、サブカメラとしてカラーフィルム、デジタルカメラも使用した。遺物撮影は、一眼レフのデジタルカメラを使用したほか、4×5インチの白黒フィルムとリバーサルフィルムによる撮影も行っている。



第5図 坂長ブジラ遺跡 1区グリッド図

第2節 遺跡の立地と層位（第6図）

坂長ブジラ遺跡は、西伯郡伯耆町の西部、越敷山から延びる丘陵に挟まれた谷に位置している。

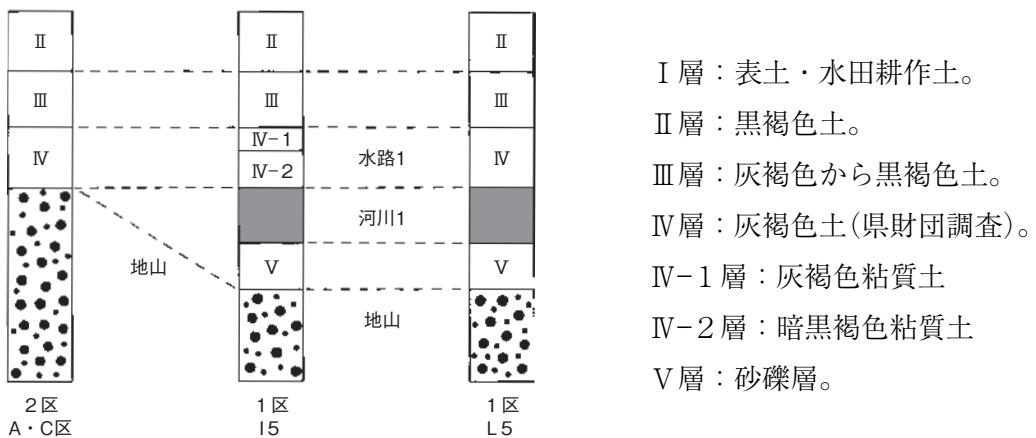
調査地は、東側に坂長尻田平遺跡がある尾根と西側を坂長武寿羅遺跡がある尾根に挟まれた、南北に延びる谷底平野に位置している。現地は水田であり、水田脇の用水路を流れる水は北流し、さらに谷の出口から西へと流れを変えている。

調査区内の堆積は、1区はG3グリッドからL4グリッドより西側の部分が過去の整備時に大規模な天地返しが行われており、地山面まで完全に削平されていた。このため、この範囲の堆積土は黒色粘土層のみであり、ここから検出した遺構は全て上面が失われた状態である。それ以外の範囲では、旧水田の耕作土まで完存しており、良好な状態で調査することが出来た。

遺跡内の堆積状況は、平成22年度に鳥取県教育文化財団が実施した調査と同様であり、層名なども以下の通り統一しているが、IV層についてはJラインよりも北側で水路が掘り込まれていたことから、ここより北でIV-1層とIV-2層に細分した。また、河川1によって浸食されていたV層の砂礫層は調査区の東側全面に堆積しており、部分的にトレンチを設定して完掘したが、この地点からの遺物の出土は見られなかった。

坂長ブジラ遺跡3区については、現代まで使用されていた水田土の下に、更に古い段階の水田耕作土と見られる土が水平堆積しており、遺構はベースとなる砂礫層と地山層の上面で水路跡を検出した。

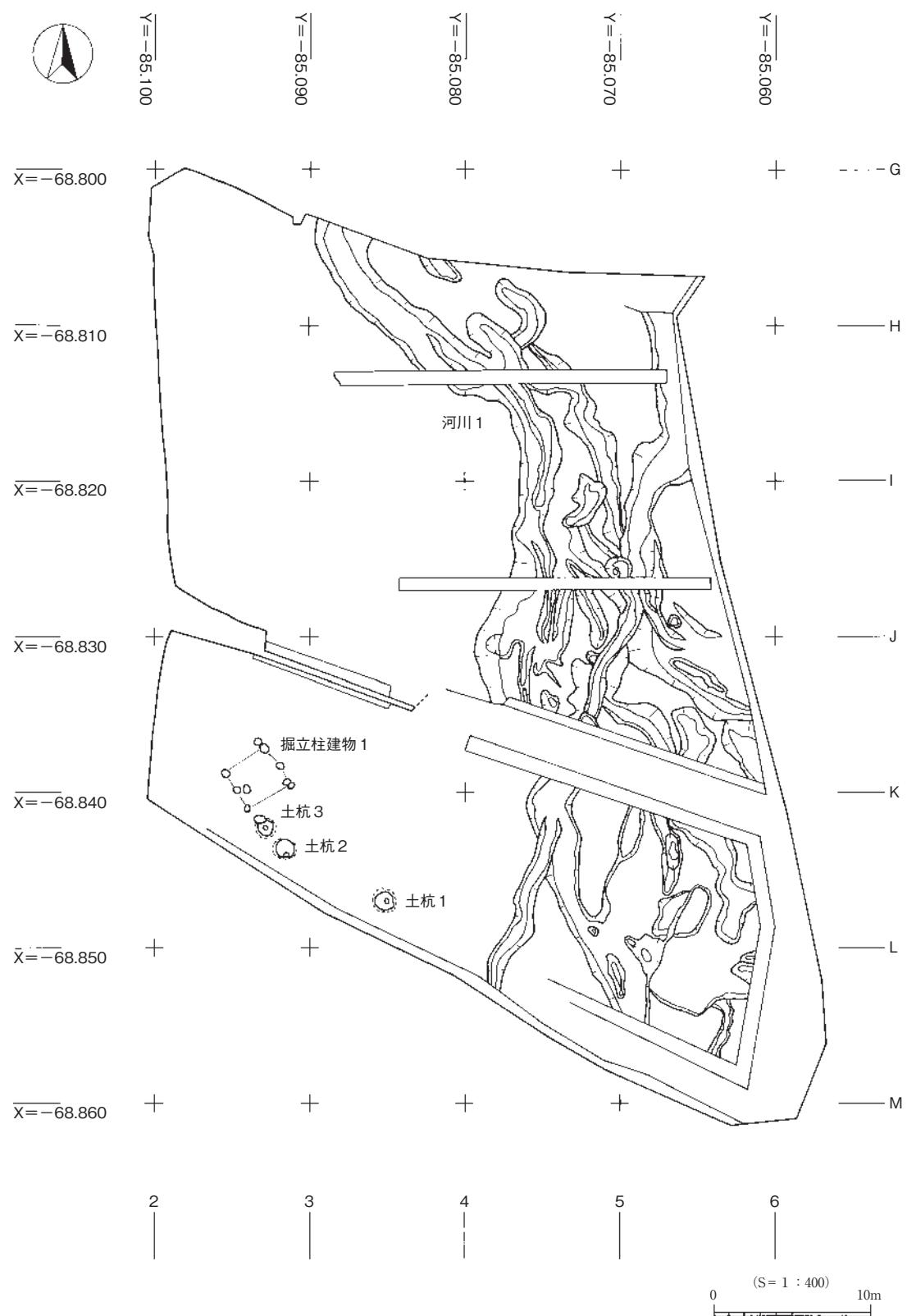
坂長ブジラ遺跡4区については、調査範囲の南側、標高60.5m付近にやや平坦な地形が広がっていることから調査を行ったが、明瞭な遺構は存在せず、現代の造成により削平された土砂が堆積している状況を確認したのみであった。



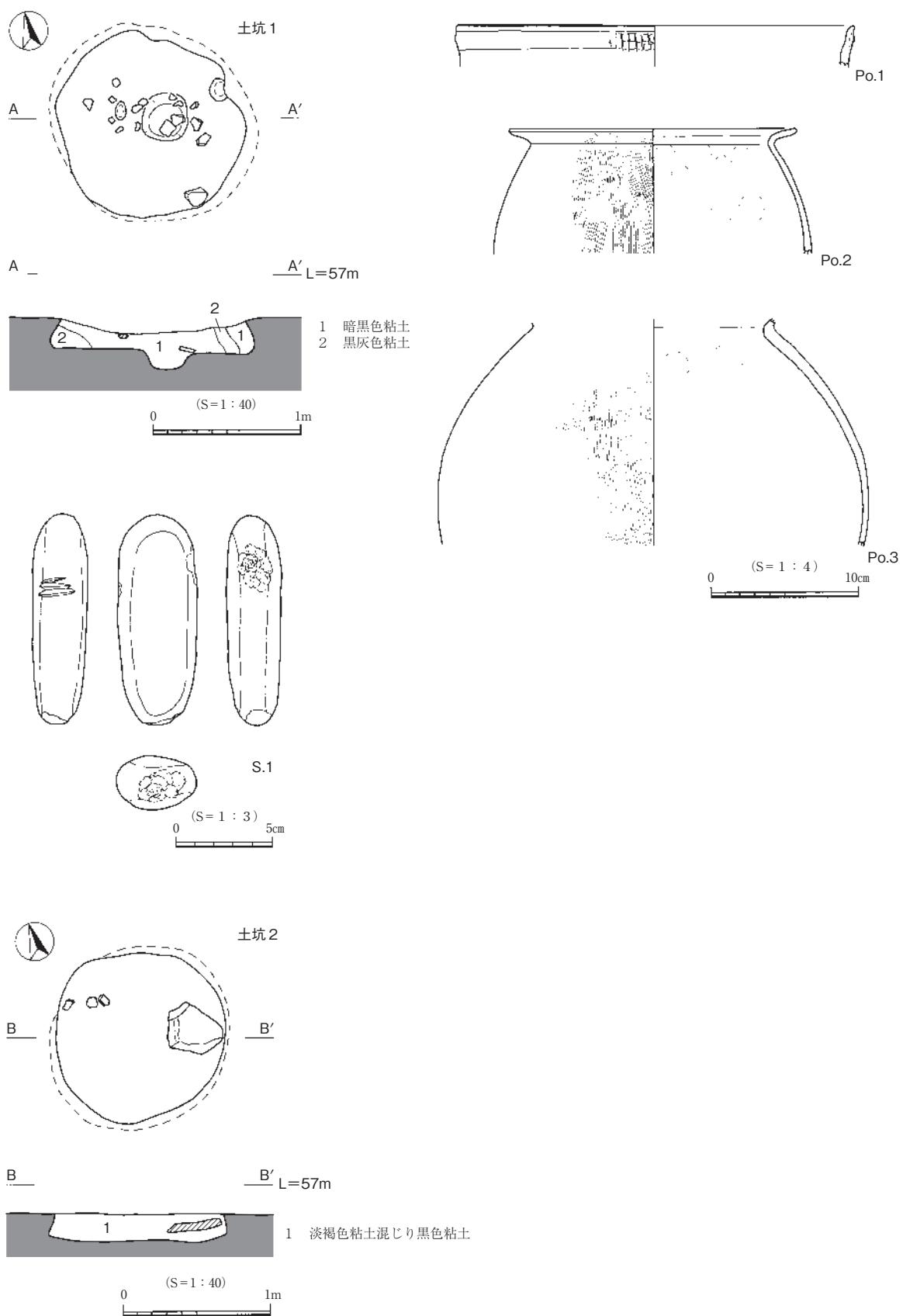
第6図 坂長ブジラ遺跡 土層概念図

第3節 1区第3遺構面の調査

1区第3遺構面の調査は、調査区の西側では地山面の直上で円形の土坑3基と掘立柱建物1棟を検出し、東側では第V層の上面で自然河川の流路を検出した。



第7図 坂長ブジラ遺跡1区第3遺構面 全体図



第8図 土坑 1・2 平・断面・遺物図

土坑1（第8図）

底面の直径1.4m、深さ20cmの円形土坑で、底面の中央には深さ15cmの小穴が見られる。底面は水平で、土坑の壁面は上方に向かって内傾しており、断面形が三角フラスコ状を呈する貯蔵穴の残穴と見られる。土坑の内部は黒色の粘土が堆積しており、底面付近から弥生土器片と長楕円形の礫石器が出土した。Po. 1は、砲弾型の器形の甕で、口縁部の貼付突帯の表面には爪形の刺突紋が施される。Po. 2は、口縁部が「く」字形を呈する甕で、外面をタテハケ調整する。Po. 3は、胴部が球形を呈する甕である。S. 1は長楕円形の円礫で、端部と側面に打撃の痕跡が残る。

土坑2（第8図）

直径1.2m、深さ20cmの円形土坑で、土坑1と同様のフラスコ状貯蔵穴と考えられる。内部は黒色の粘土が堆積しており、底面から少し遊離した位置から扁平な角礫が出土したが、それ以外の遺物の出土は見られなかった。

土坑3（第9図）

直径1.2～1.3m、深さ30cmの円形土坑で、底面の中央には深さ16cmの小穴が見られる。北側は搅乱されており、上面もほ場整備時の重機のキャタピラに踏まれた痕跡が残る。土坑の内部には黒色の粘土が堆積しており、ここからは土器の破片が数多く出土した。Po. 4は突帯紋土器の口縁部で、突帯には刻み目が施される。Po. 5は口縁部が外反する壺。Po. 6は口縁端部が短く屈曲する小型の無頸壺か。Po. 7は穿孔した土器片である。Po. 8は口縁が大きく開く壺で、弥生時代前期のものか。Po. 9～18は甕の破片で、概ね「く」字形の口縁を呈するものが主体である。Po. 19・20は高坏の破片。Po. 21～25は壺・甕類の底部破片である。S. 2はサヌカイト製の剥片石器である。これらの出土遺物から、この遺構が埋没した年代は、弥生時代中期中葉頃と考えられる。

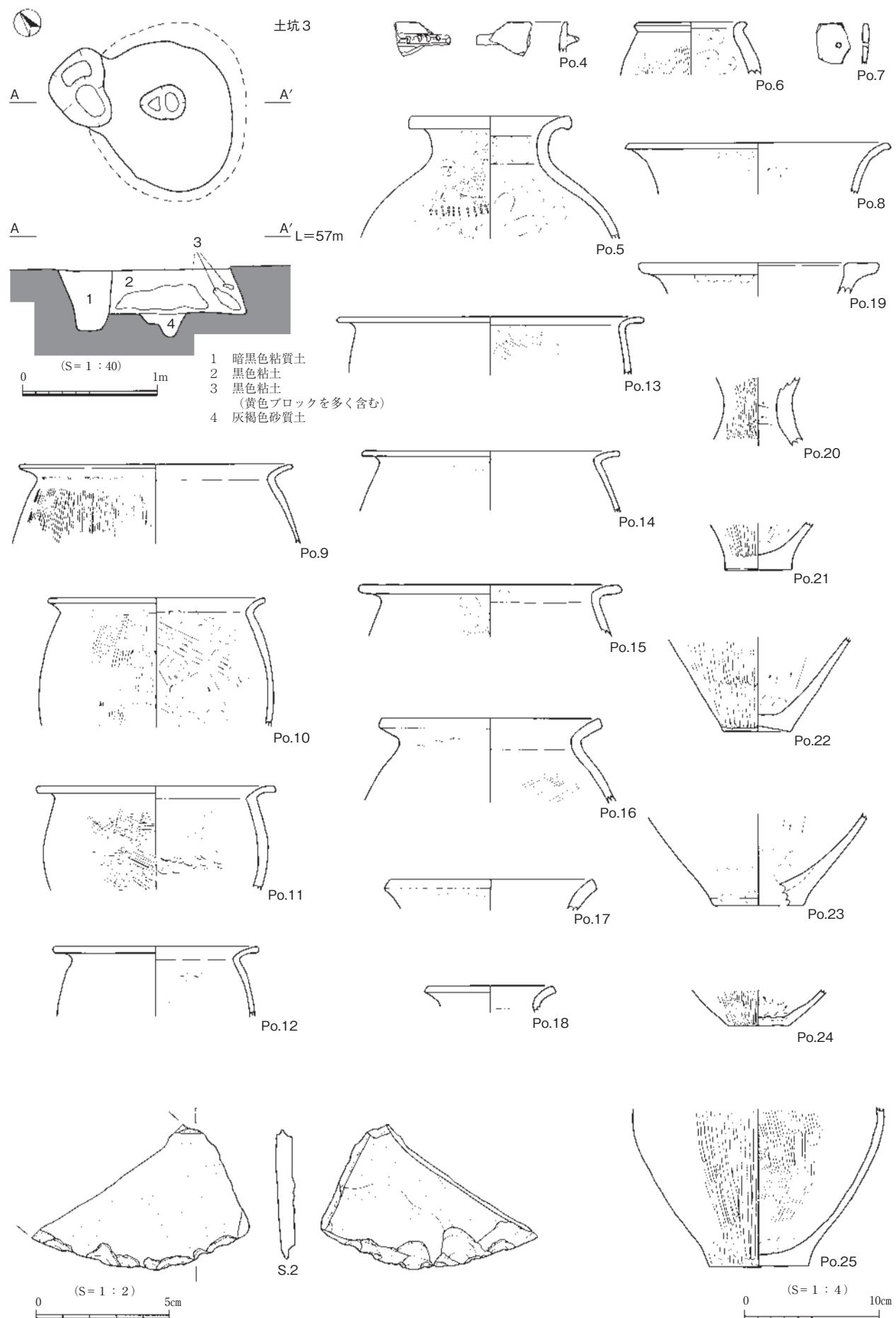
掘立柱建物1（第10図）

梁行1間×桁行2間の掘立柱建物である。建物跡を検出した遺構面は、周辺の貯蔵穴の残存状況から見て、ほ場整備によって本来の遺構面よりも大幅に削平されているものと考えられ、ピットの残りが最も浅いもので20cm程度しか残っていないことからも、本来はもう少し上の面から遺構が掘り込まれていたと推測される。

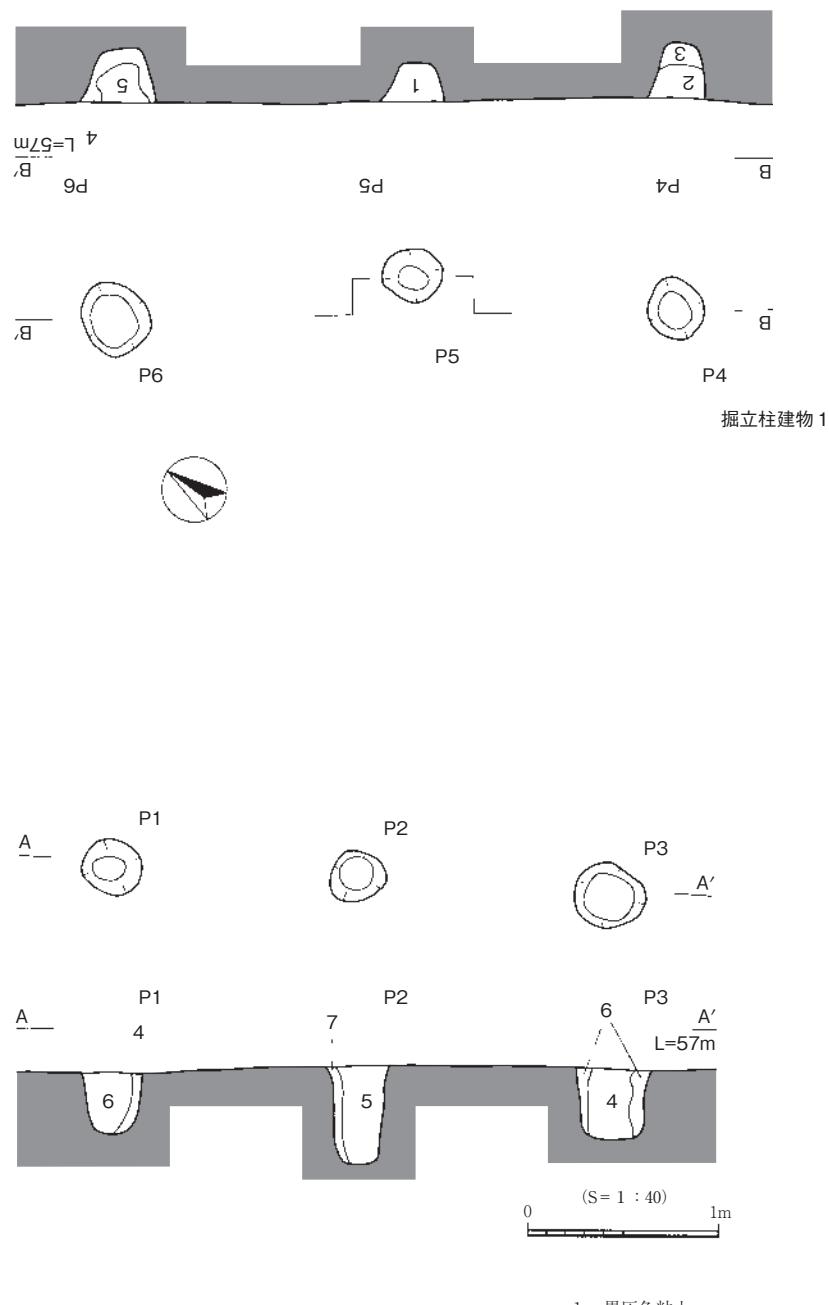
建物の規模は、梁行2.9～3.1m、桁行2.8～3.0mで、梁行がかなり長く正方形に近い建物となるが、これについては、棟を受ける柱穴が削平されている可能性も考えられる。

この遺構に伴う遺物は、P3の埋土から出土した弥生土器の甕、Po. 26のみである。Po. 26は口縁が「く」字形を呈し、端部は上方に小さく突出する。口縁端部の外面には、2条の凹線が施される。

この建物の時期は、出土した遺物から弥生時代中期中葉以降に建てられたものと考えられる。



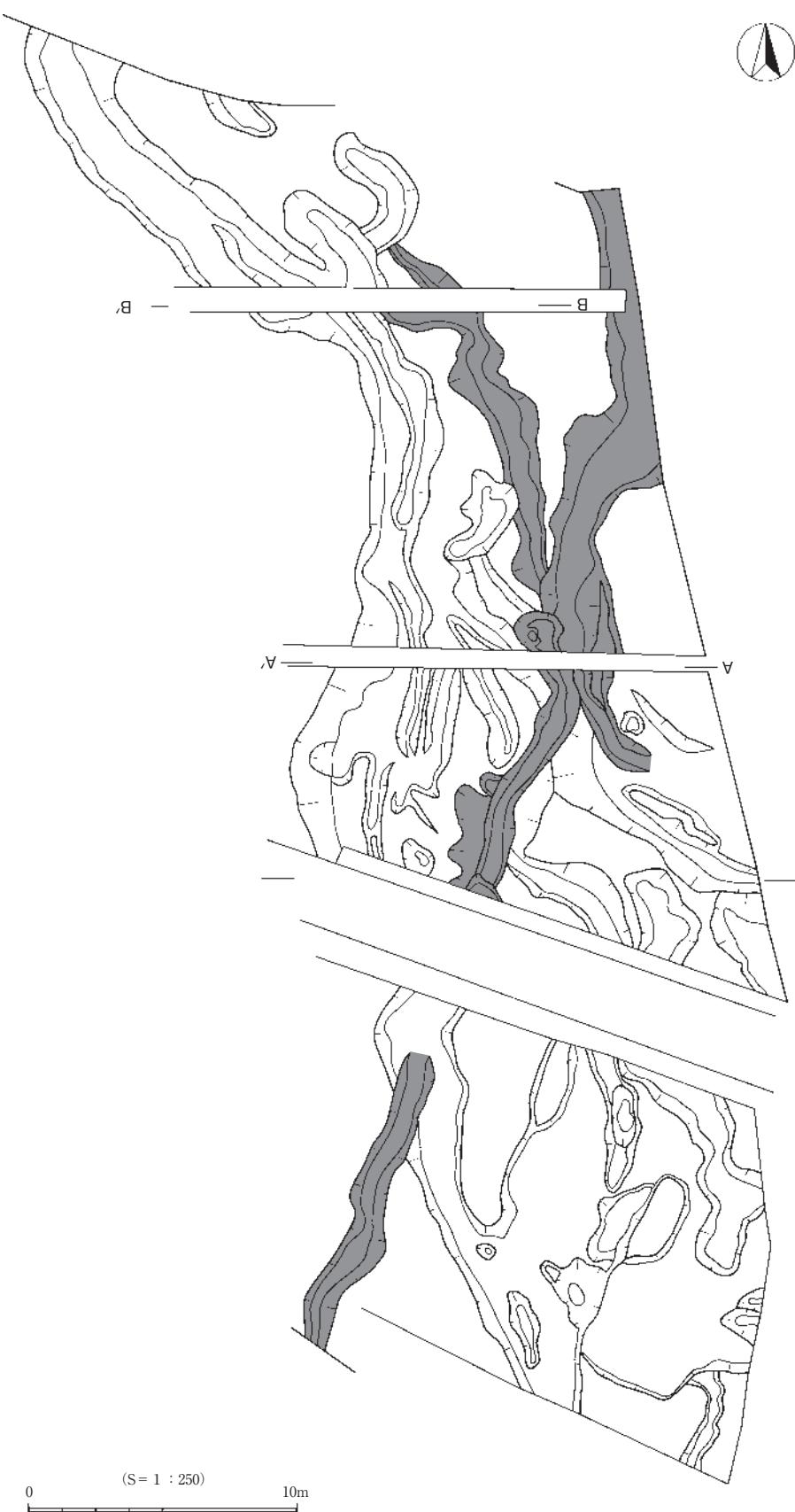
第9図 土坑3 平・断面・遺物図



第10図 掘立柱建物 1 平・断面・遺物図

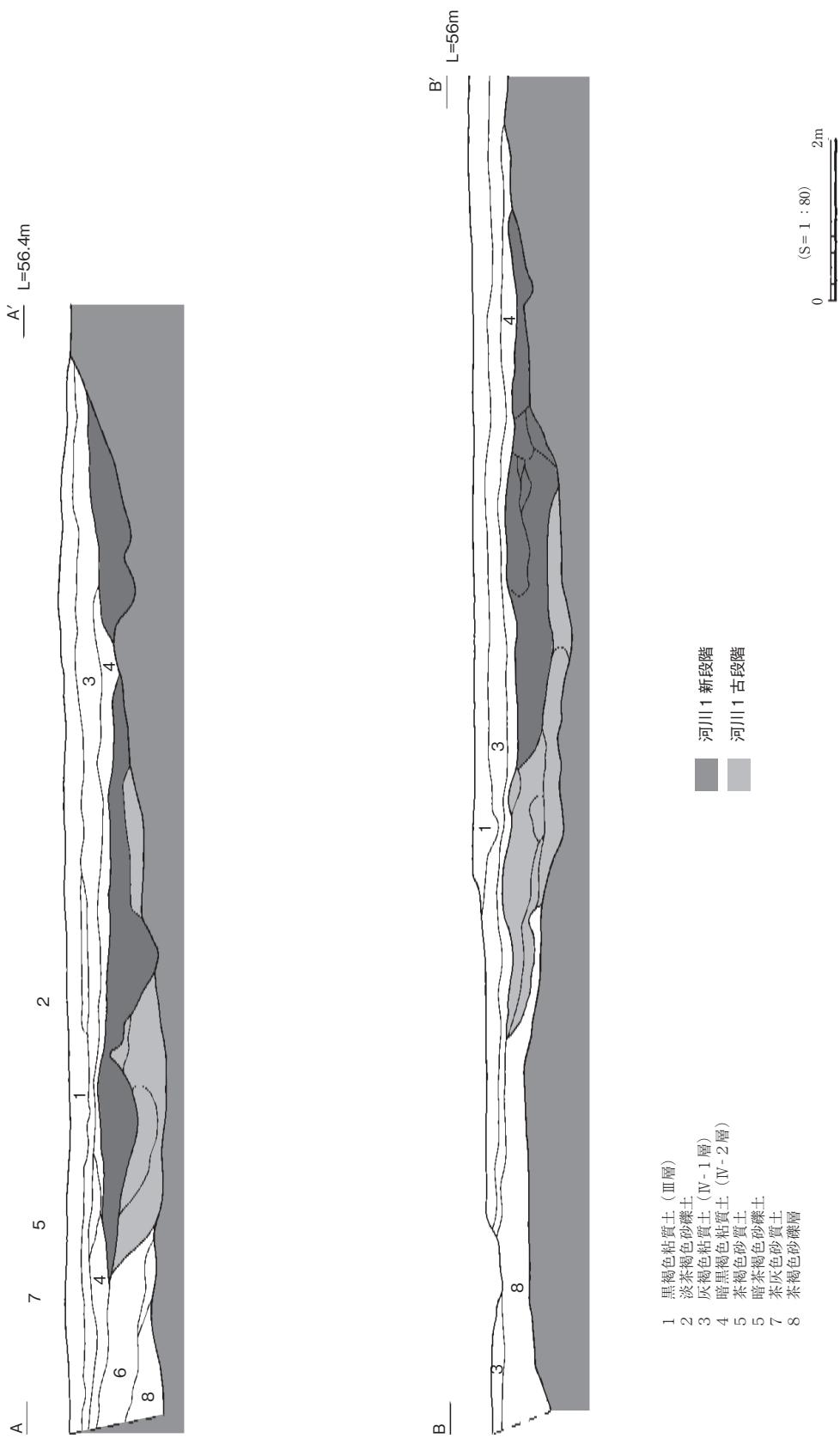
河川 1 (第11~20図)

調査区のG-3区からL-4区の東側にかけて検出した自然河川である。水流は南から北へと下っており、蛇行しながら、あるいは直線的に流路を変えながら流れていると考えられる。このため、複数時期の流路が混在するが、平面的に流路の前後関係を明らかにすることが難しく、十分な調査が行えなかった部分もある。また、河川の埋土は粗砂を中心であり、粗砂層中にラミナが形成されていることから、強い水流によって堆積した特徴を示している。

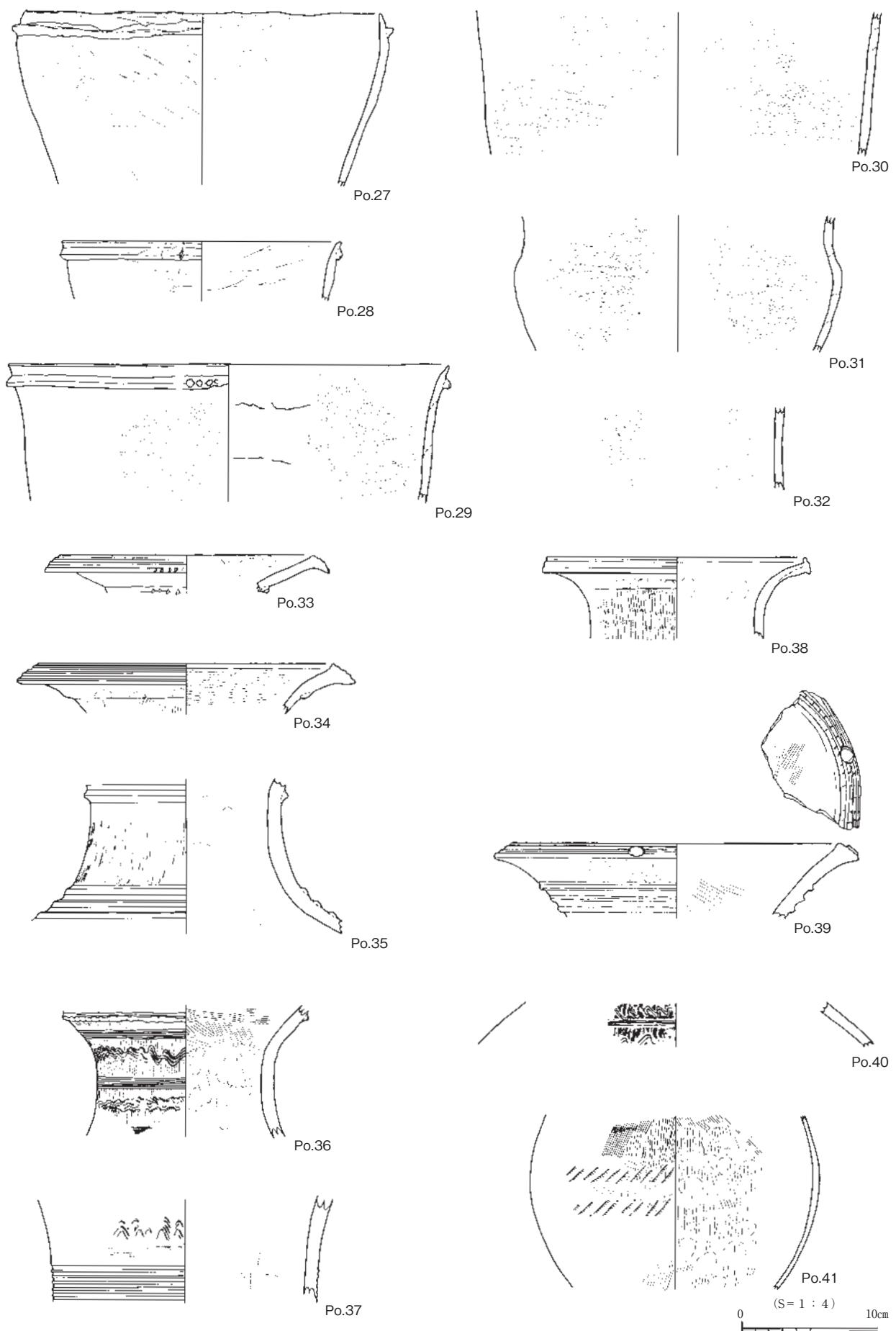


網かけは、分流の範囲を示す。

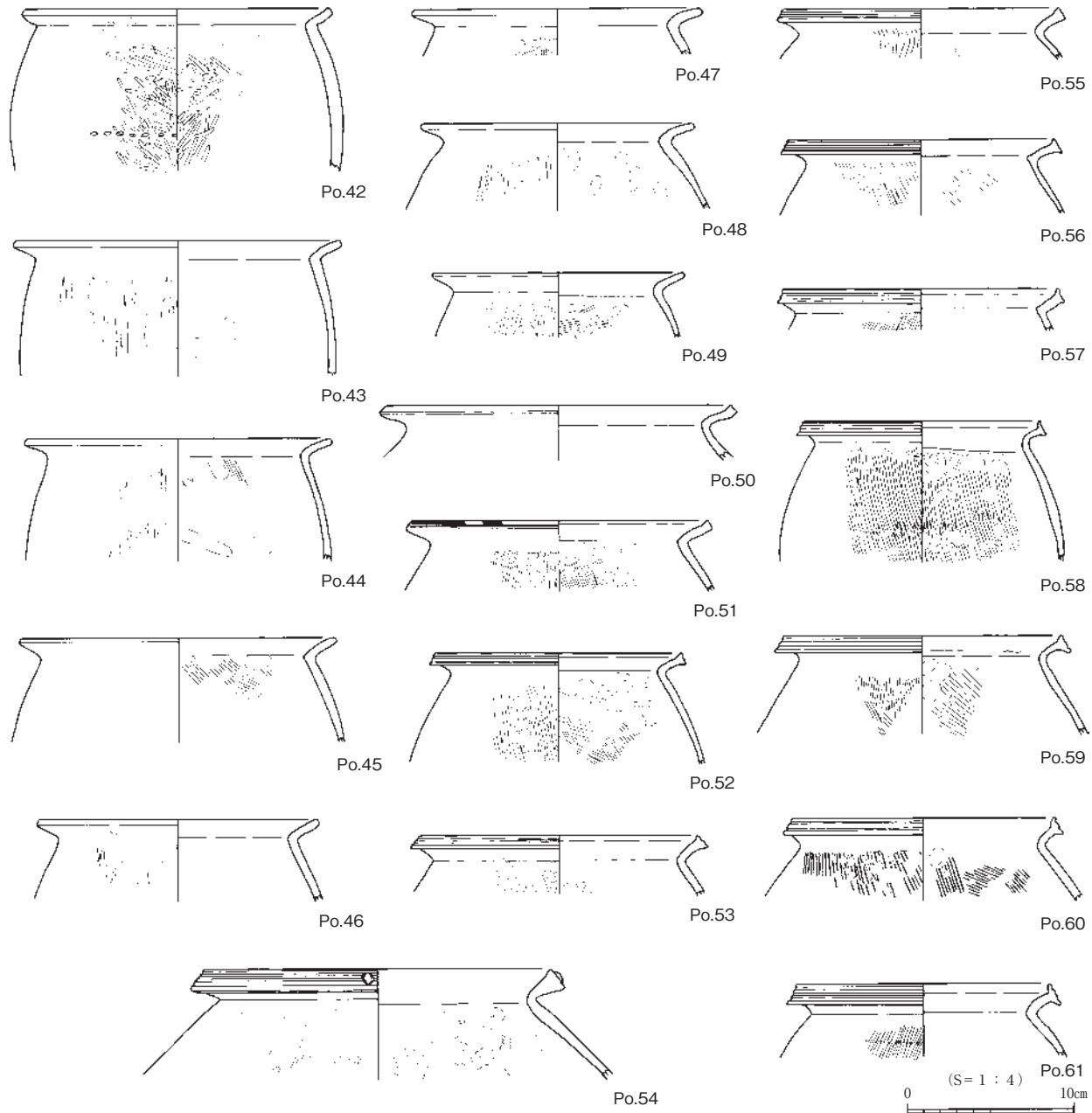
第11図 河川1 平面図



第12図 河川1断面図



第13図 河川1 出土遺物図①

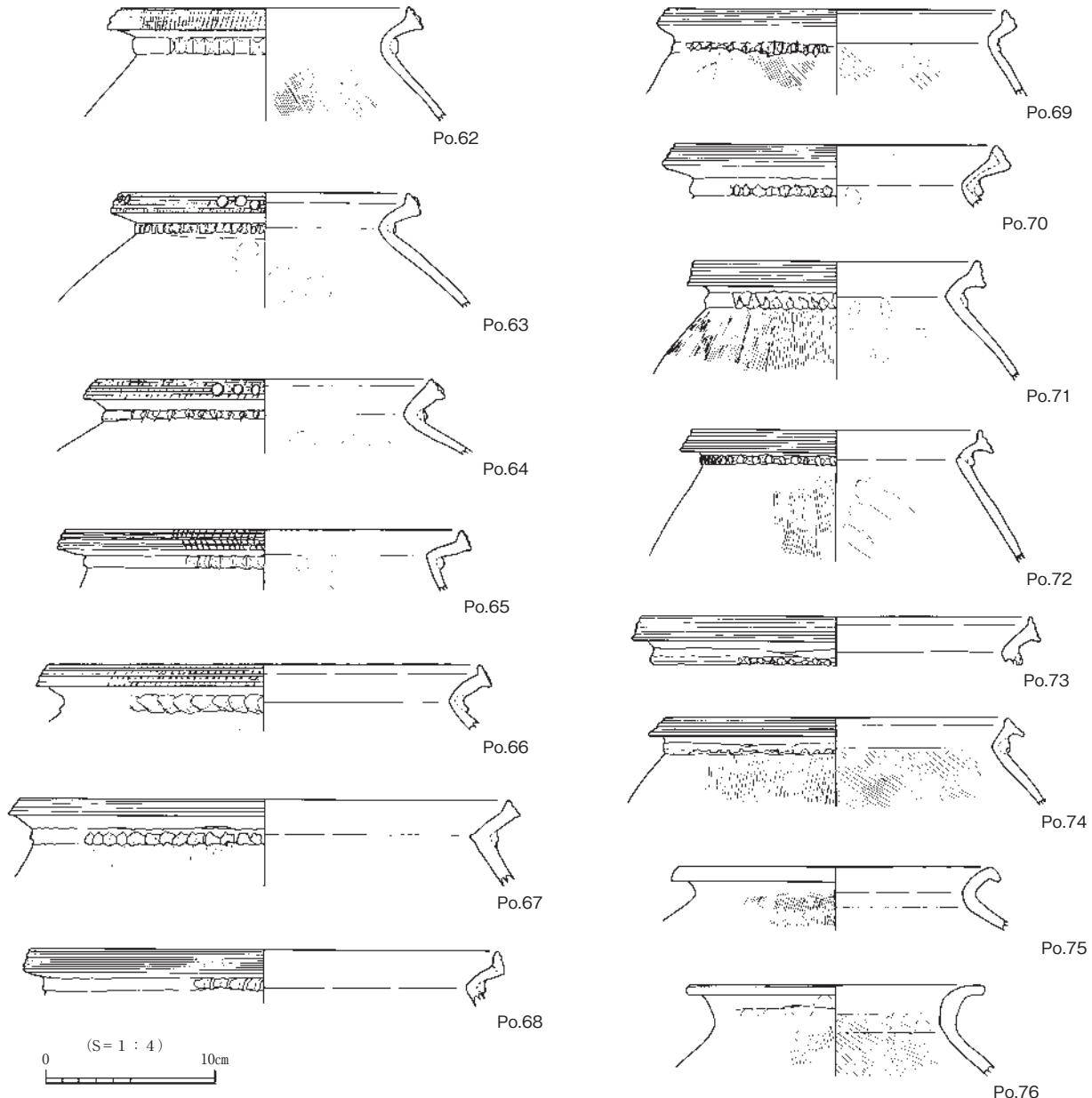


第14図 河川1 出土遺物図②

河川の分岐した流れについては、少なくとも3方向存在する。この分岐した流れの中からは遺物の出土量は多く無かったが、弥生時代中期後半の遺物を中心に出土している。ただし、水路1の水流の変遷過程を示すような時期差については明確にすることが出来なかった。これら分岐した流れの中から出土した遺物については、第20図に示している。

この河川1の堆積砂中から出土した遺物の量は膨大であり、時期も縄紋時代晚期から古墳時代中期、近現代のものまでを含むが、中心となるのは弥生時代中期中葉から中期末にかけての遺物である。このことから、河川1が完全に埋没した時期も弥生時代中期末から後期初頭の時期と推測される。

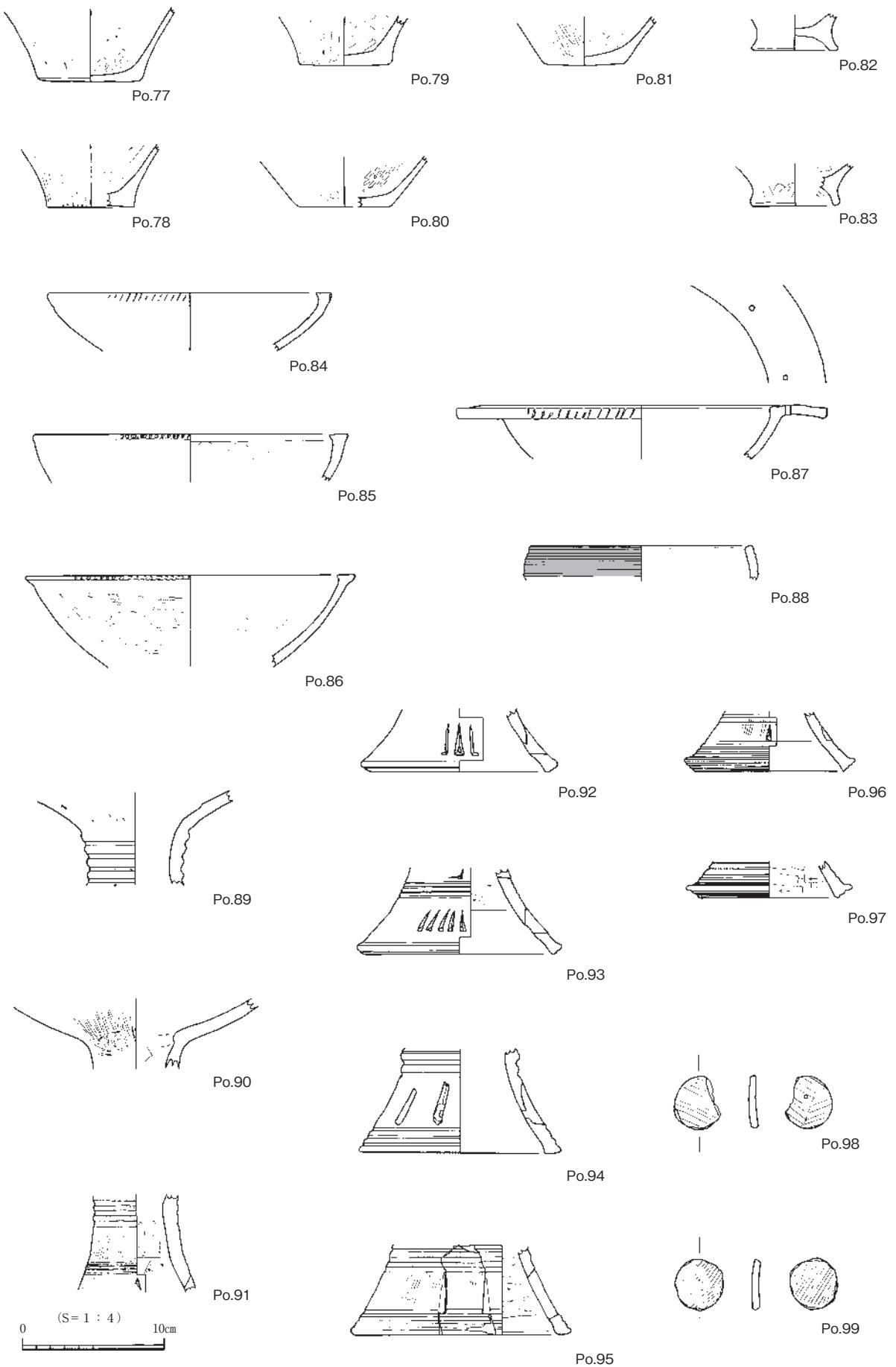
出土遺物は、Po. 27~29が突帯紋土器で、Po. 28・29は突帯に刻みを施す。Po. 30~32は体部を条痕調整する土器である。Po. 32は器種不明の土器片で、体部に3条の直線紋が描かれる。これらは、縄紋時代後期から晩期のものと考えられる。



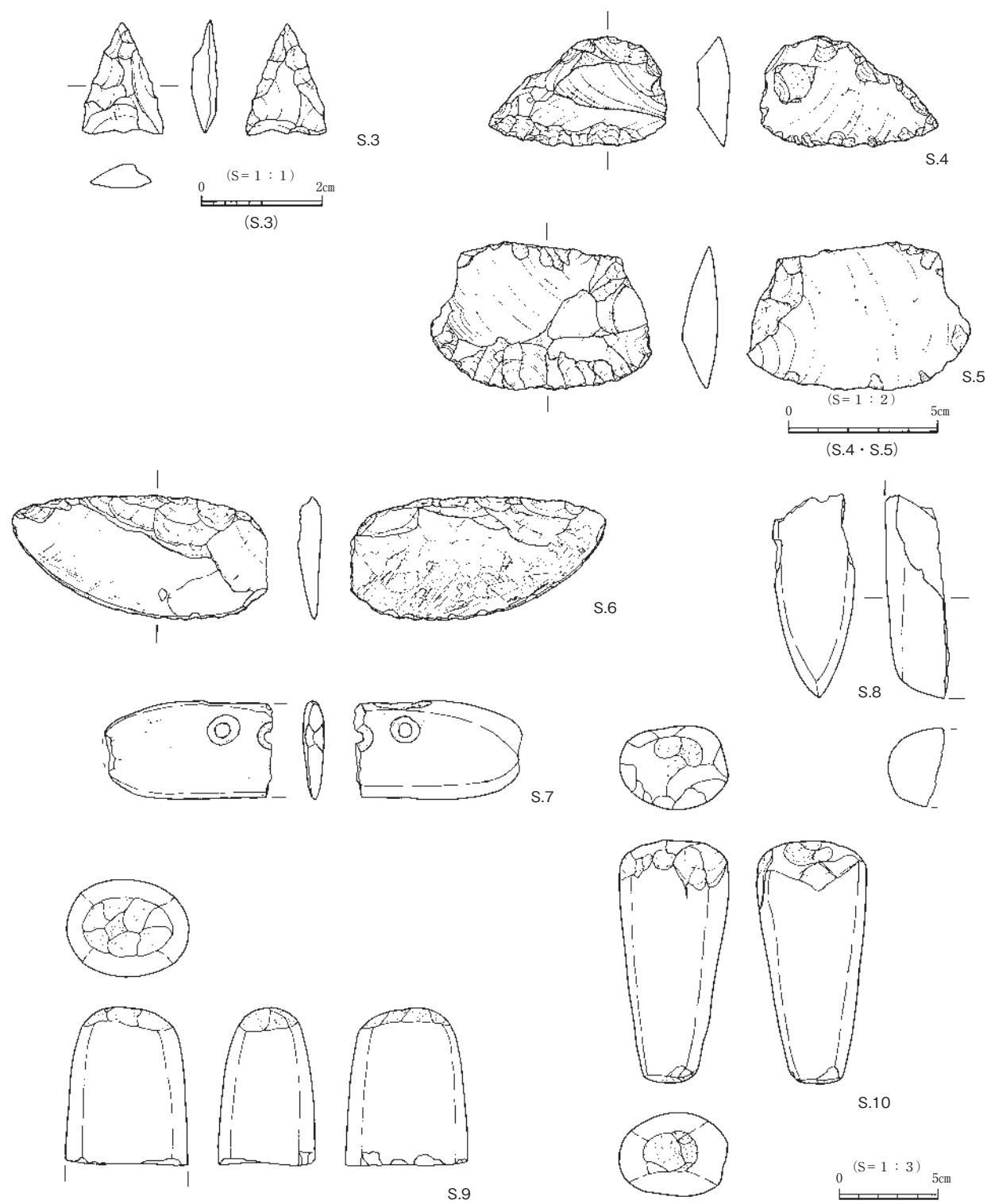
第15図 河川1 出土遺物図③

Po. 33～Po.41は弥生土器の壺で、Po. 33・34はラッパ状に開く口縁の端部に凹線紋が施される。Po. 35・36は突帶を貼り付ける壺で、Po. 36は波状紋も施される。Po. 37も壺の頸部で、櫛描きで凹線紋が表現されている。Po. 38は口縁が短くラッパ状に広がる壺で、端部は短く立ち上がり、外面に凹線紋を施す。Po. 39も口縁がやや直線的に広がる壺で、貼付突帶と凹線紋が施され、口縁端部に円形浮紋が貼り付けられる。Po. 40は大型壺の肩部片で、櫛描きで波状紋と沈線紋が表現される。Po. 41は胴部が球形を呈する壺で、胴部の二段にわたって斜め右上がりの刺突紋が施される。

Po. 42～76は弥生土器の甕で、口縁部の形状が「く」字状を呈するものから、端部が徐々に肥厚し、「T」字状を呈するものへと変化している状況が読み取れる。また、頸部に指頭圧痕貼付突帶を持つものや円形浮紋を貼り付けるものなどバリエーションが見られる。器壁の調整技法で見ると、ヘラミガキを施したものやハケメ調整するもの、丁寧にナデ調整するものがあるが、内面をヘラケズリ調整するものは少ない。Po. 77～83は弥生土器の底部で、外面を縦方向にミガキ調整するものが多い。ま

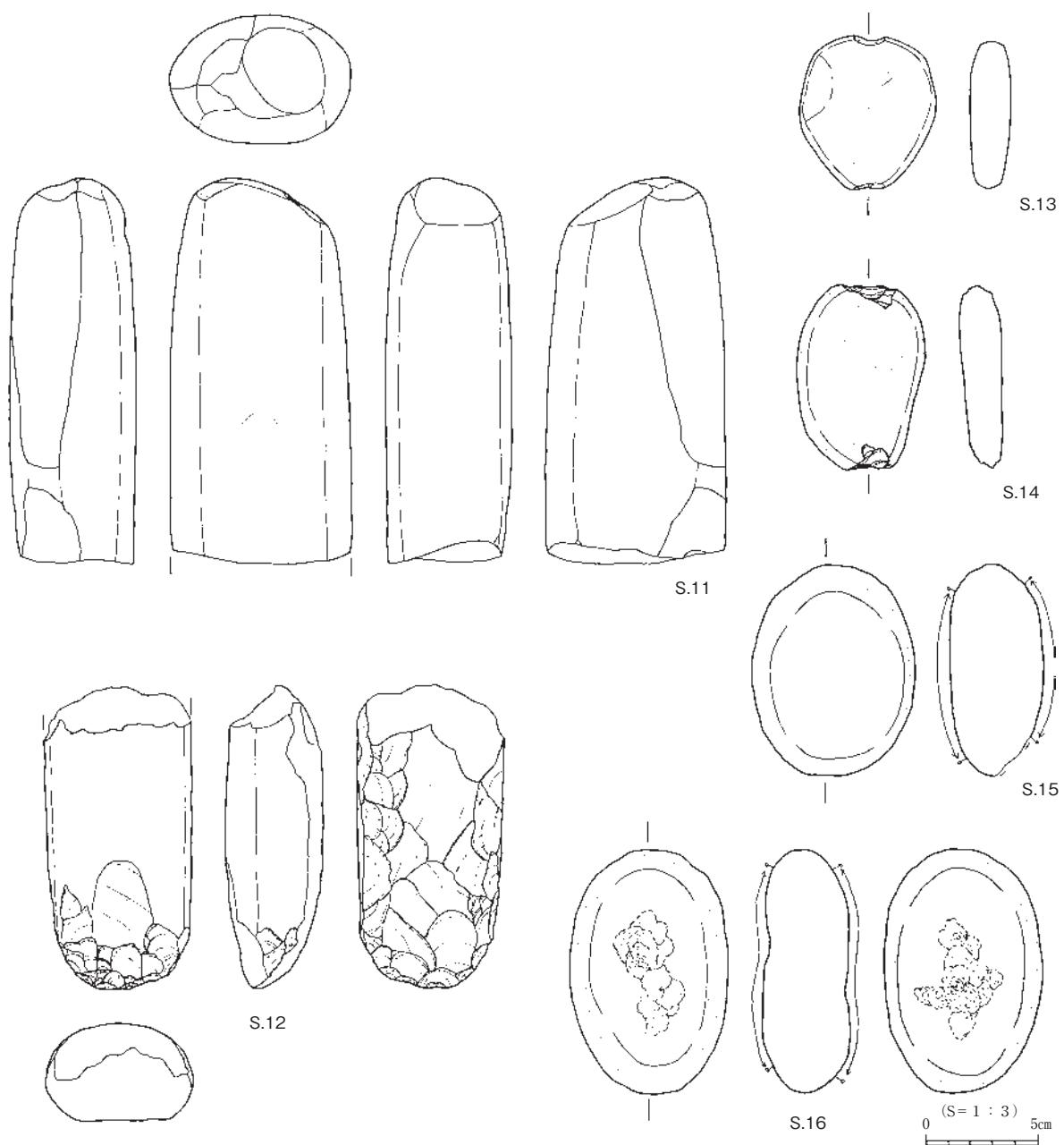


第16図 河川1 出土遺物図④



第17図 河川1 出土遺物図⑤

た、内面はヘラケズリ後ナデ調整を施したものがある。Po. 82・83は底部に高台を持つものだが、この高台にどのような機能があるのかは不明である。Po. 84～97は高坏で、Po. 84～86は深い碗状を呈する。Po. 87は口縁部が水平方向に伸び、二つの孔が確認できる。Po. 88は口縁部が内湾気味に立ち上がり、外面に凹線紋が巡るタイプである。Po. 89・90は高坏の碗部と脚部の接合部で、底部は粘土板を充填して作られている。Po. 91～97は高坏の脚部で、凹線紋が施されるタイプが多く、透かし孔を持つものもある。Po. 98・99は土器片を研磨して丸く加工したもので、Po. 98は裏面に穿孔しかけ

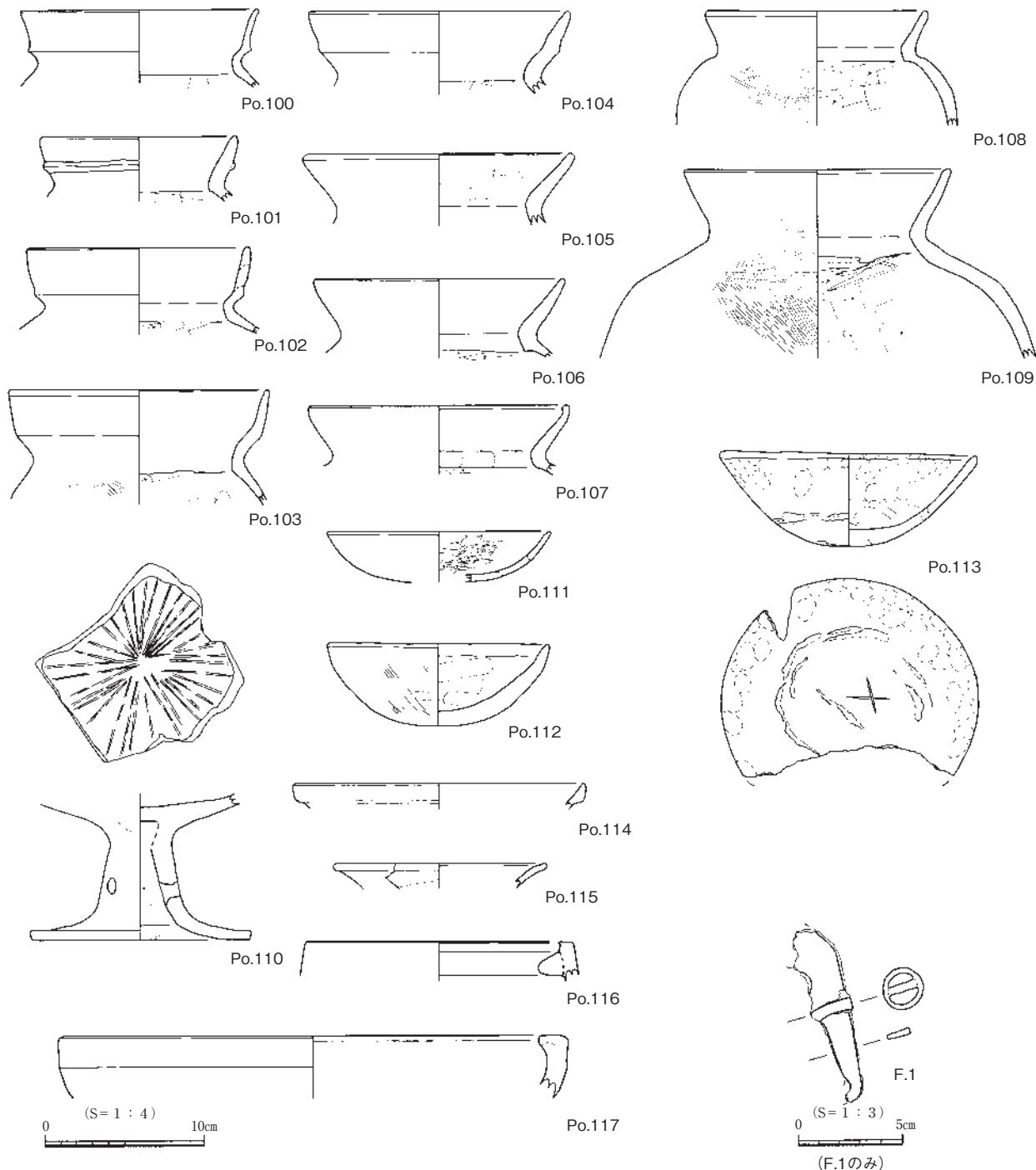


第18図 河川1 出土遺物図⑥

た跡が残る。

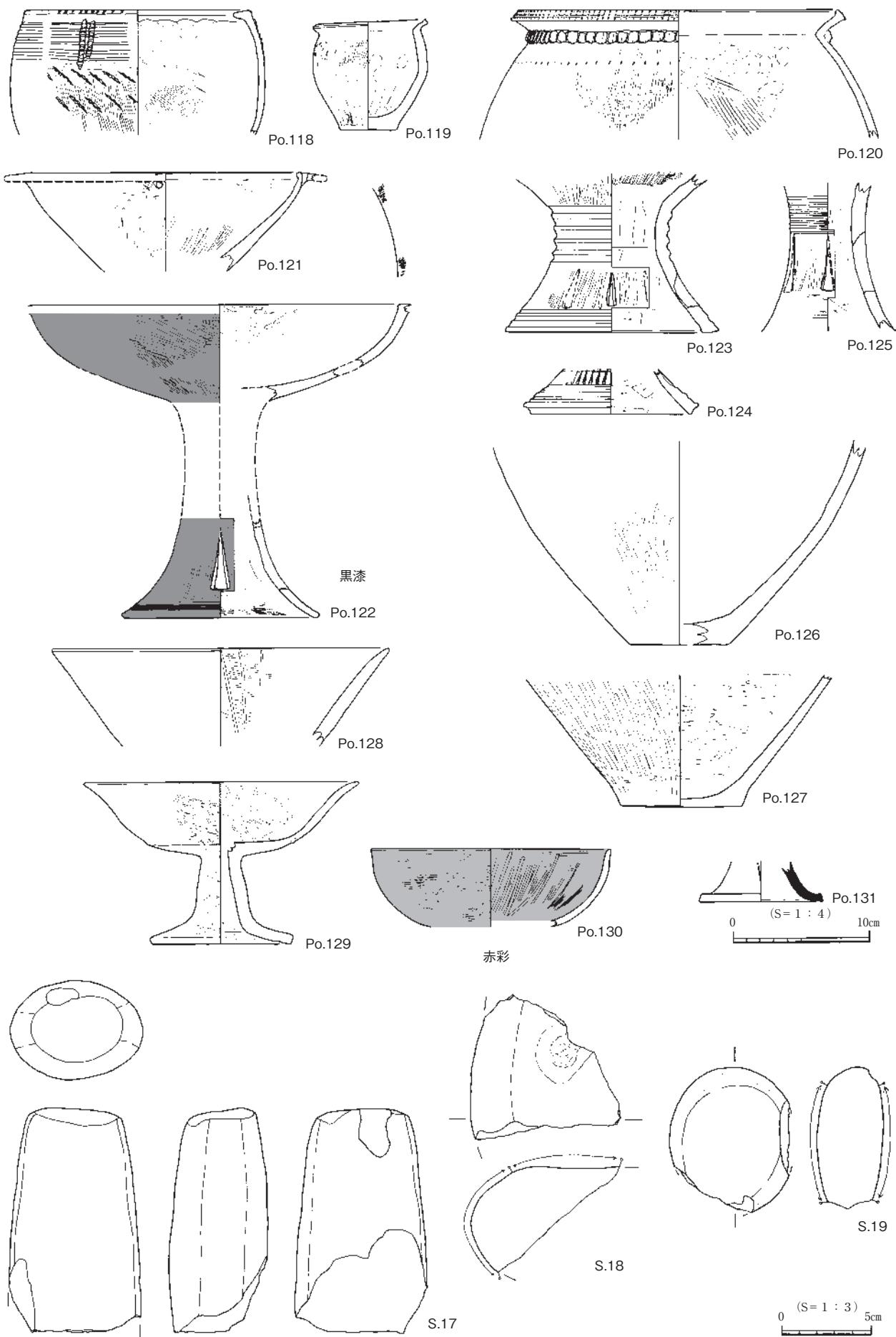
S. 3は加工途中の石鎌か。S. 4・5は黒曜石製の剥片石器。S. 6・7は穂摘具。S. 8・9は磨製石斧の破片。S. 10は両端部に打撃の痕跡が残るハンマー状の石器。S. 11は大型の石斧。S. 12は加工途中の石斧か。S. 13・14は両端部を打ち欠いた石錘。S. 15は、両面に使用痕の残る擦石。S. 16は両面に打撃の痕跡が残る凹石である。Po. 100～109は古墳時代前期から中期の土師器甕である。Po. 110は内面に放射状のミガキの痕跡が残る高坏。Po. 111～113は土師器の坏である。Po. 114は玉縁状を呈する白磁碗の口縁部片。Po. 115は唐津焼の皿口縁部片。Po. 116は近代のカマドか。Po. 117は焙烙の口縁部片。F. 1は近現代のものと見られる鉄鎌の基部で、柄と接合するための環状金具が付着している。

第20図の遺物は、河川1の分岐した地点から出土した遺物である。混入と見られる土師器、須恵器類を除くと、弥生時代中期後半のものが主体と考えられることから、河川1の埋没過程の一端を示す



第19図 河川1 出土遺物図⑦

資料と考えられる。Po. 118は口縁端部が「L」字状に屈曲する無頸壺で、外面はハケ調整後に刺突紋、凹線紋が施された後に縦方向に2条の突帯が貼り付けられる。Po. 119は口縁部が屈曲する小型の甕。Po. 120は頸部に指頭圧痕貼付突帯が巡る甕である。Po. 121～Po. 125は高壺で、Po. 122は、外面に黒漆が塗られている。Po. 126は壺の底部片。Po. 128～130は土師器の高壺で、碗部にミガキ調整が施される。Po. 131は小型の須恵器高壺の脚端部。S. 17は大型石斧の破片。S. 18は凹石。S. 19は両面に擦り跡が残る磨石である。

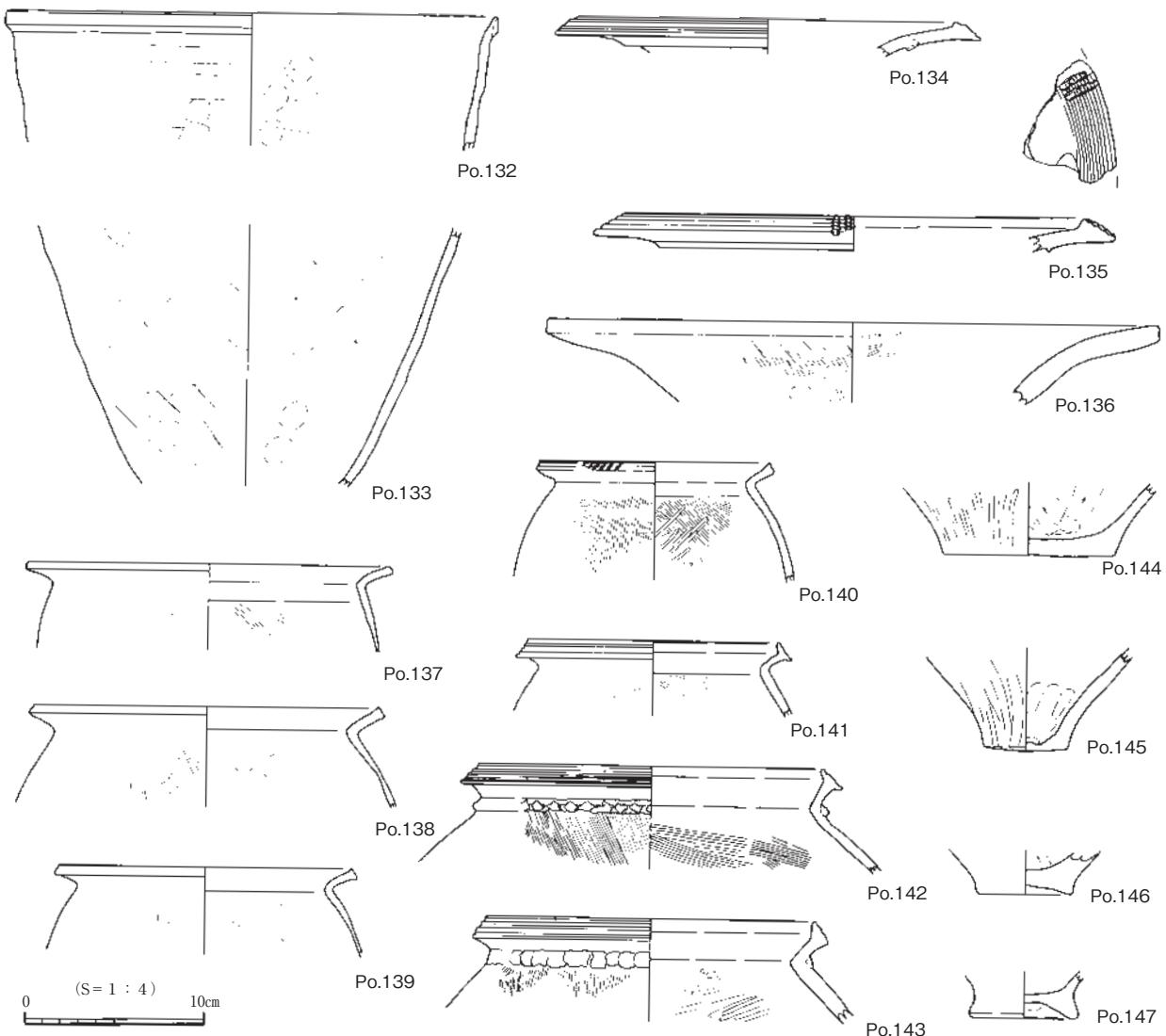


第20図 河川1・分流部分 出土遺物図

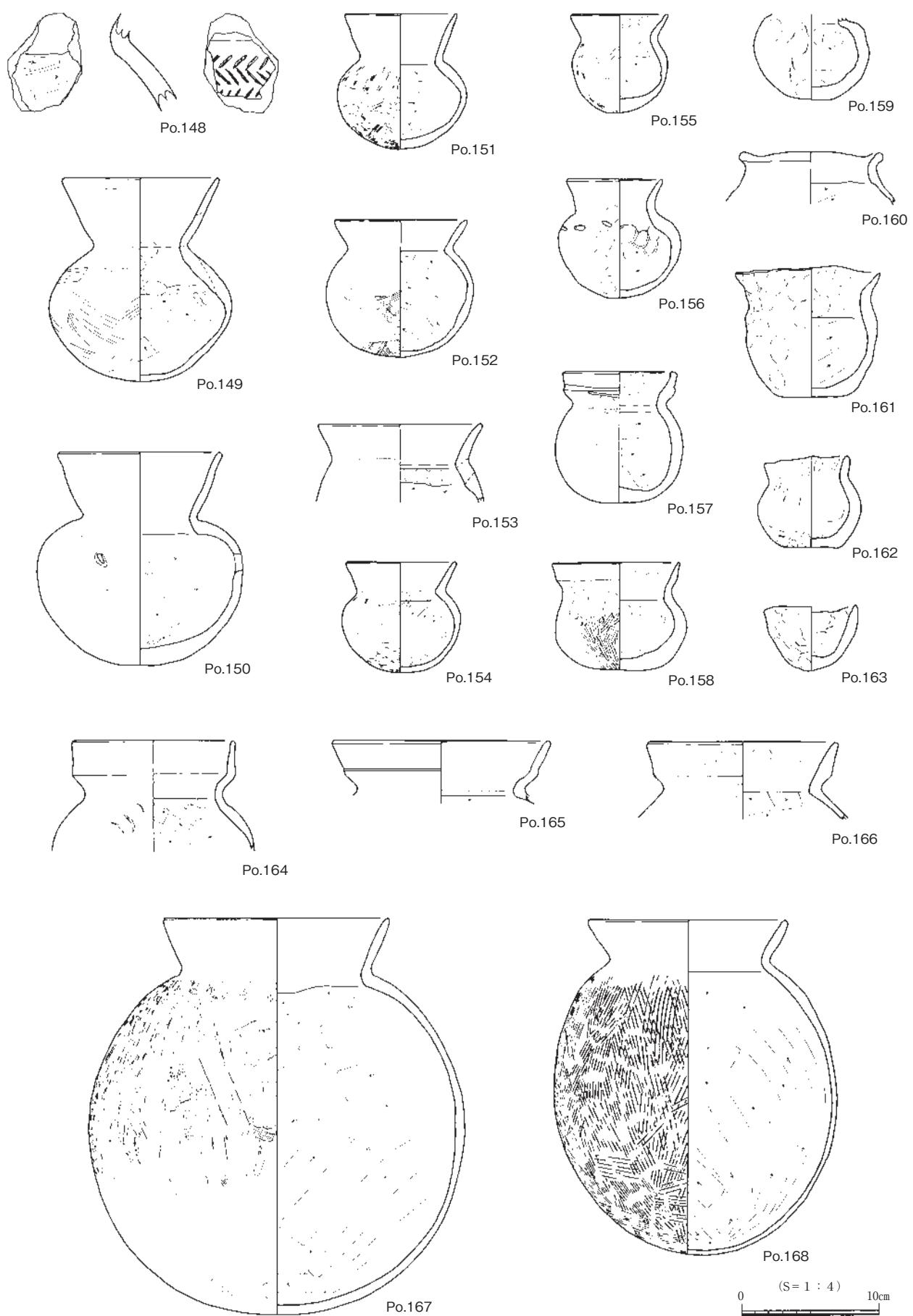
第4節 1区IV-2層の出土遺物

IV-2層は、G3グリッドからL5グリッドの東側にかけて分布し、下層の第3遺構面を被覆する堆積層である。ここから出土した遺物は、縄紋時代晚期から古墳時代後期の遺物を含むが、中でも古墳時代中期の遺物が突出して多く見られる。しかも、完形品に近いものが多数含まれており、ローリングを激しく受けると考えられる河川の堆積層としてはやや異質である。一方、この上層の第2遺構面の調査では、このIV-2層を掘りこむ水路がJライン以北で検出されていることから、恐らく、Jライン以南では、この水路の検出に失敗したものと考えられる。このため、このIV-2層の堆積した時期は古墳時代中期以前と見られる。

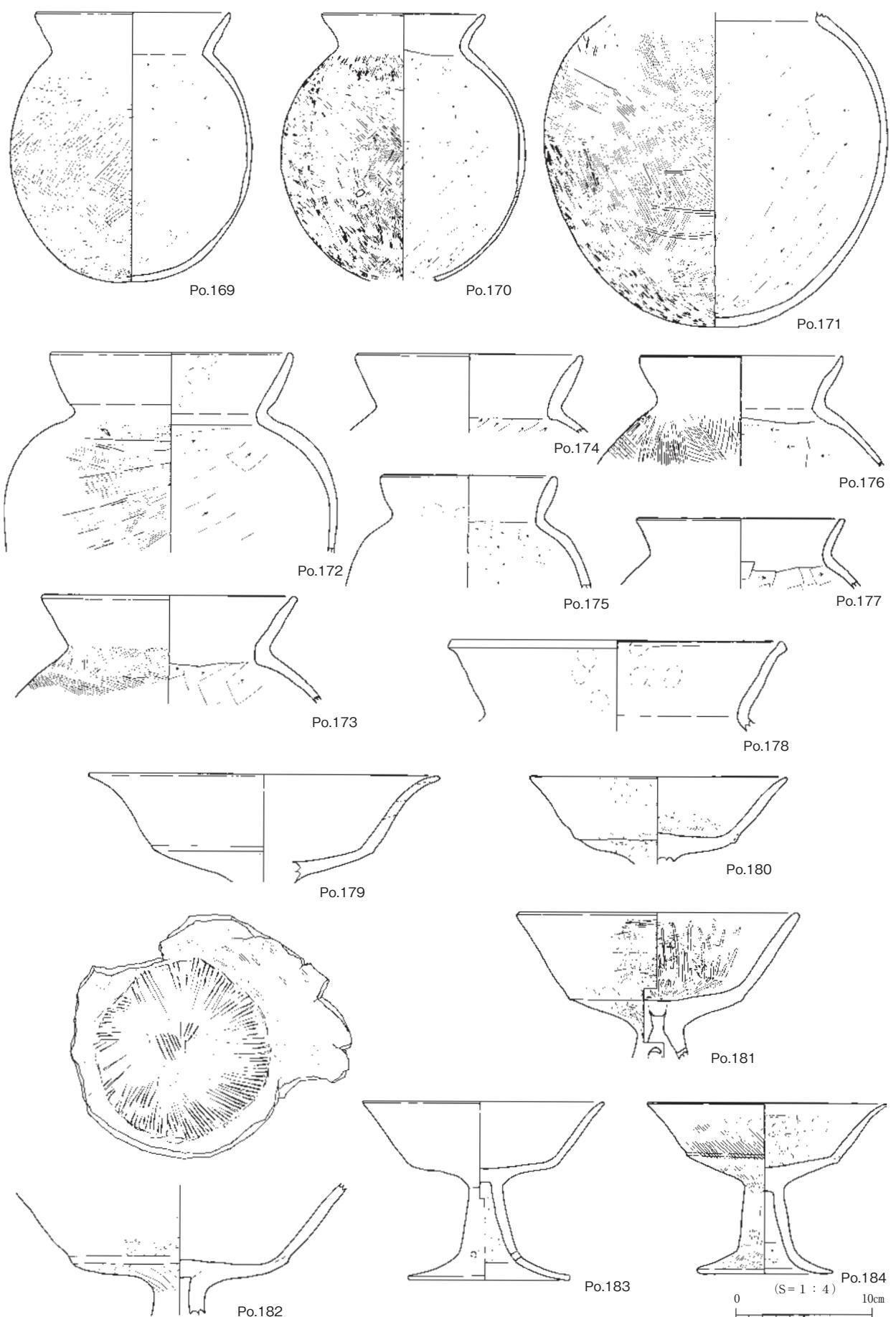
この層から出土した遺物は、Po. 132・133は縄紋時代晚期の突帯紋土器。Po. 134～136が弥生時代中期の壺。Po. 137～143が弥生時代中期の甕。Po. 144～147が弥生土器底部である。Po. 148は肩部に羽状の刺突紋を施す土師器壺。Po. 149～162は小型丸底壺。Po. 163は、てづくね整形の鉢である。Po. 164～178は土師器甕。Po. 179～198は高坏。Po. 199は移動式カマドの底部。Po. 200～202は須恵器坏。Po. 203は須恵器無蓋高坏。Po. 204・205は須恵器穂。Po. 207は須恵器提瓶。S. 20は先端部を欠



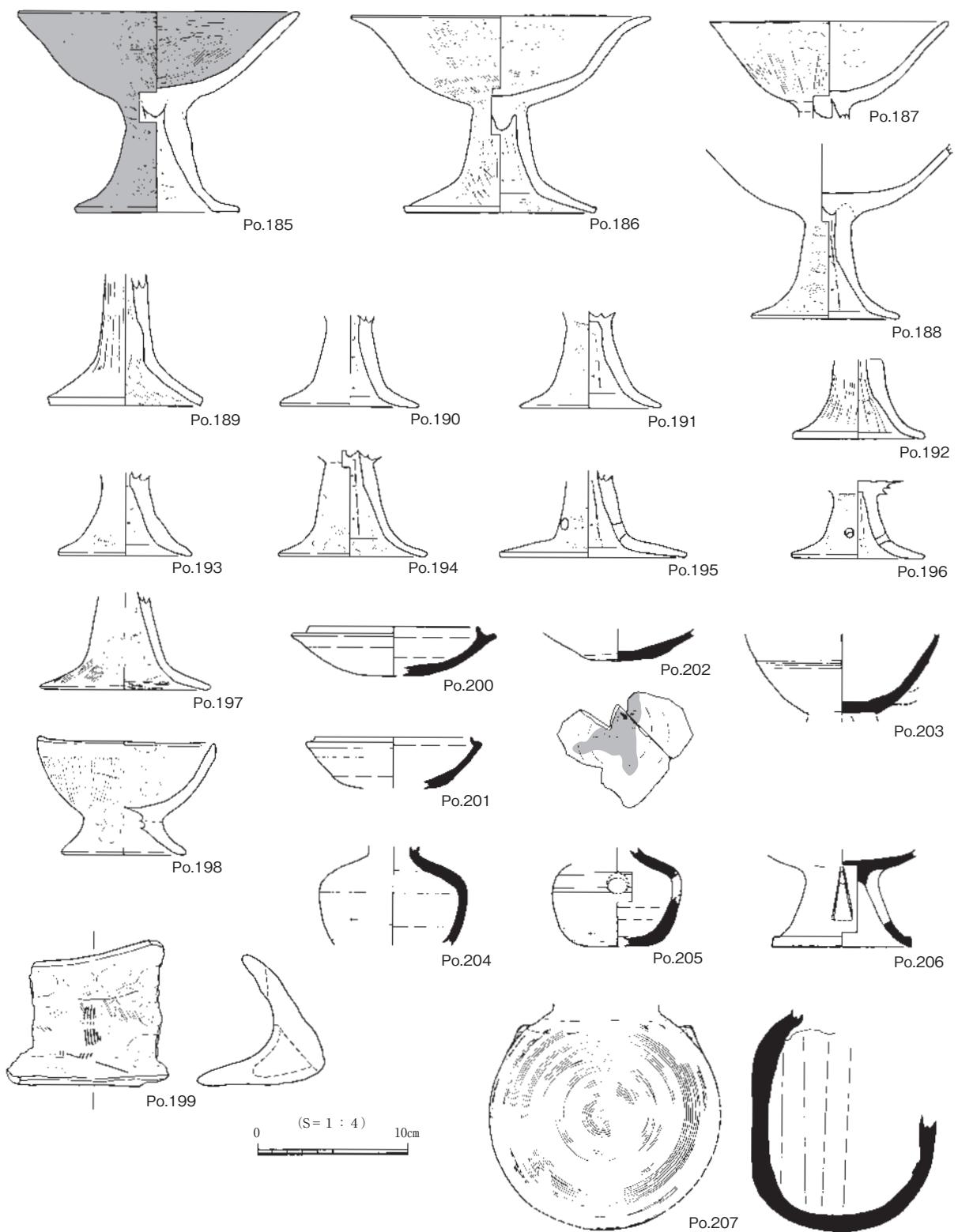
第21図 IV-2層 出土遺物図①



第22図 IV-2層 出土遺物図②



第23図 IV-2層 出土遺物図③



網かけは赤彩の範囲を示す。

第24図 IV-2層 出土遺物図④

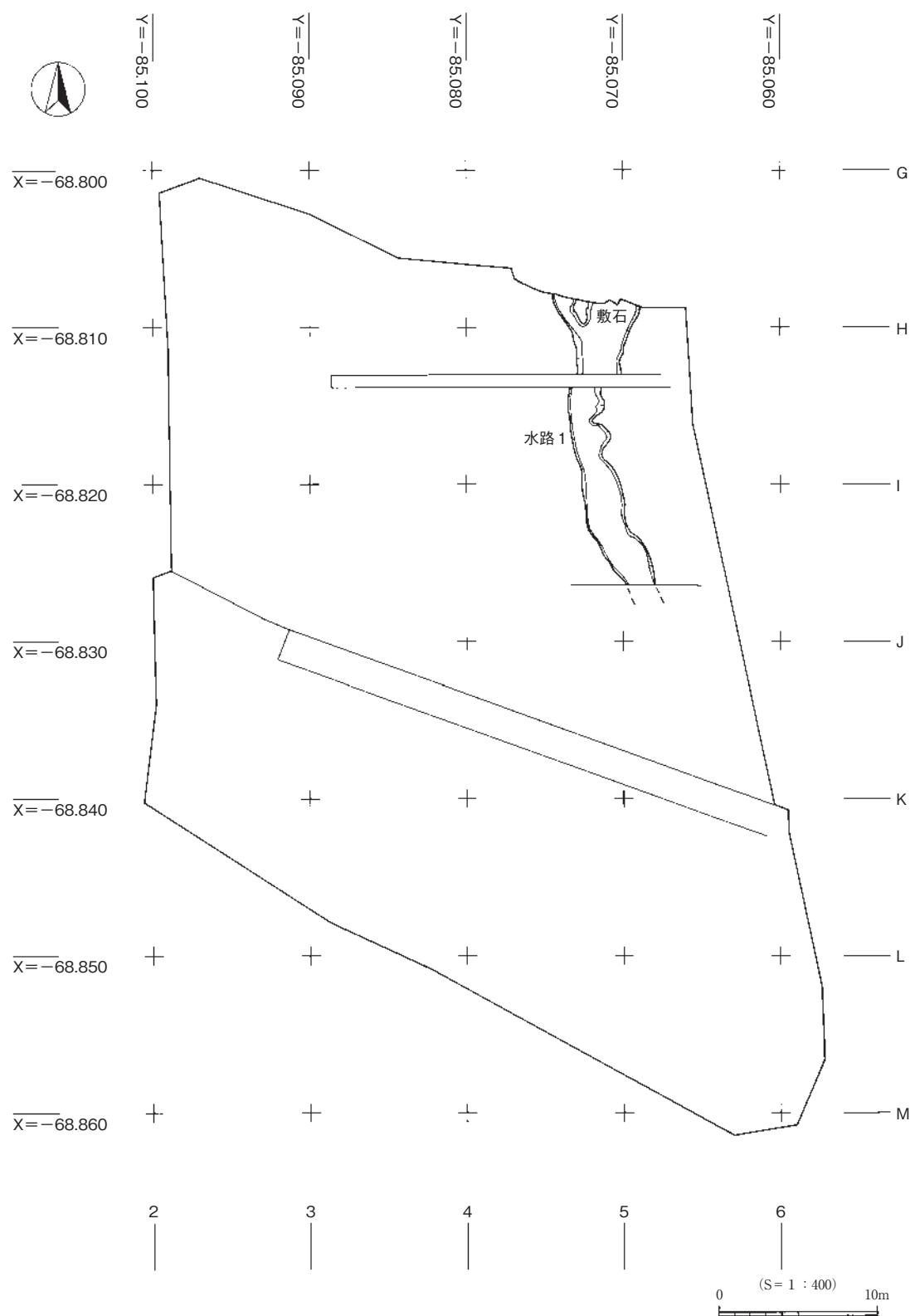
損する有舌尖頭器。S. 21は剥片石器。S. 22は石斧の基部。S. 23は擦石。S. 24は石錘。S. 25・26は凹石。S. 27は4面を使用する砥石である。



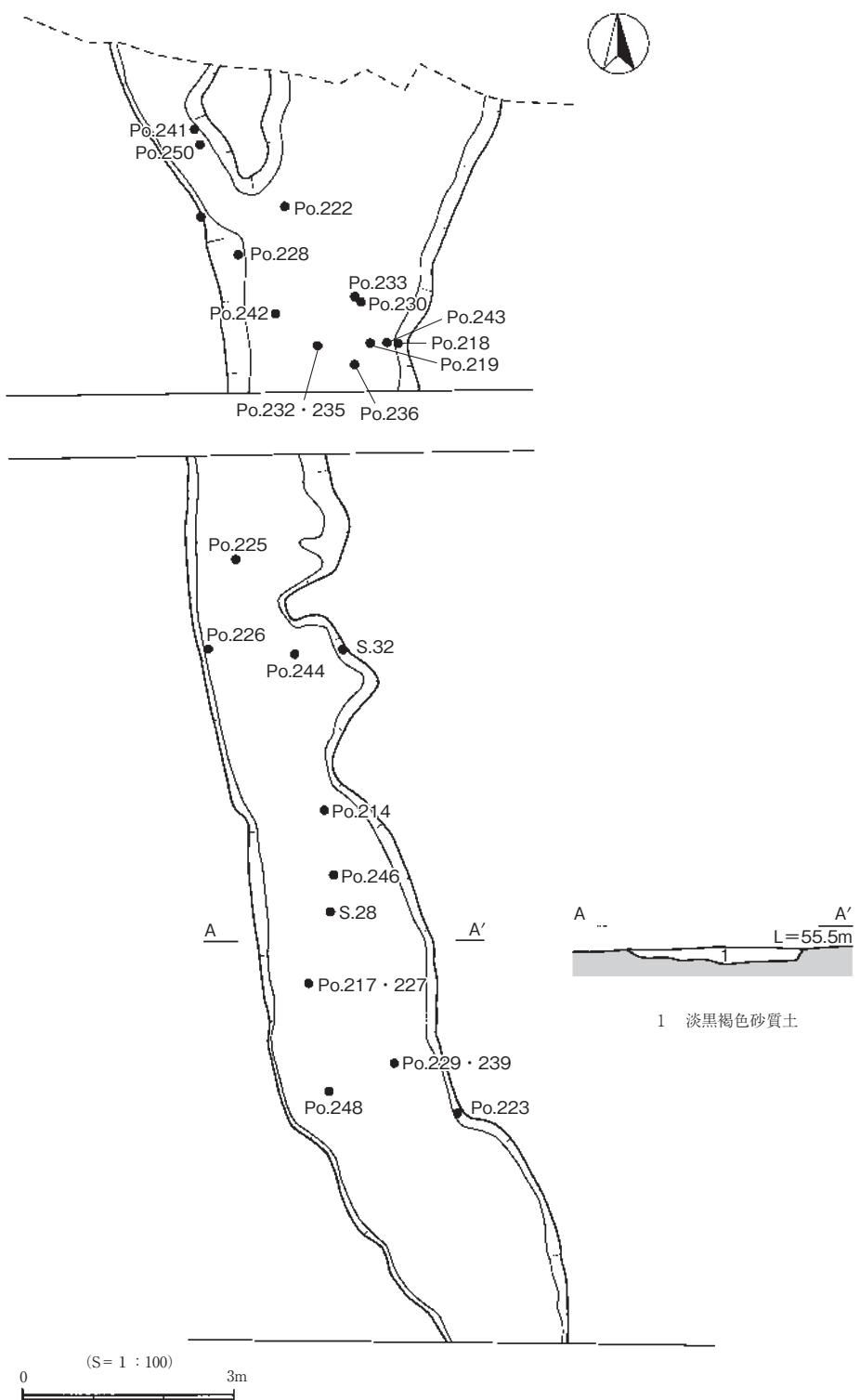
第25図 IV-2層 出土遺物図⑤

第5節 1区第2遺構面の調査

第2遺構面では、調査区の北東部でIV-2層を掘りこむ水路状の遺構を1条検出した。しかしながら、Jラインより南側は検出に失敗しており、前述したIV-2層からの出土遺物に、この水路内の遺物が混入していると考えられる。



第26図 坂長ブジラ遺跡1区 第2遺構面 全体図



第27図 水路1 平・断面図

水路1（第27～31図）

検出した長さ19m、幅1.5～3m、深さ20～30cmの水路で、水路の断面形は、「U」字形を呈する。

また、水路の北側は「Y」字状に分岐しており、東側には平板石が敷きつめられたような状況で検出された。これらの石材は安山岩と見られ、大きなものでは長さが1m近いものがあり、厚みも20cmを超えるものがあった。この石が何のために置かれていたものかは不明だが、水の流れを止めるというよりも、石の面が水平に揃っていることから、この上面を歩行するような目的があったのかも知れ



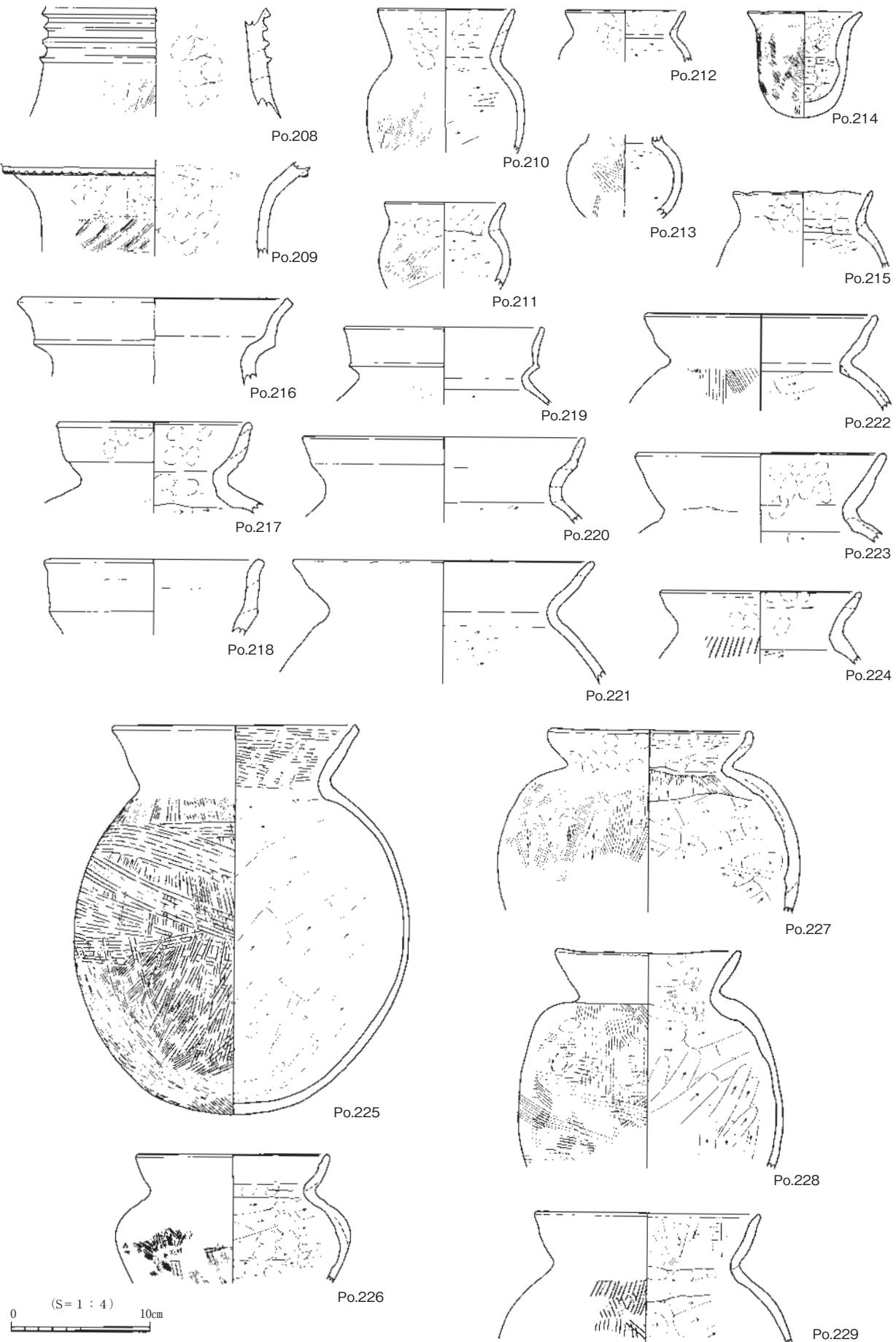
第28図 水路1（敷石） 平・断面図

ない。ただし、この石敷よりも北側では遺物の出土が見られないことから、水路1と同時期に造られたのものではない可能性がある。

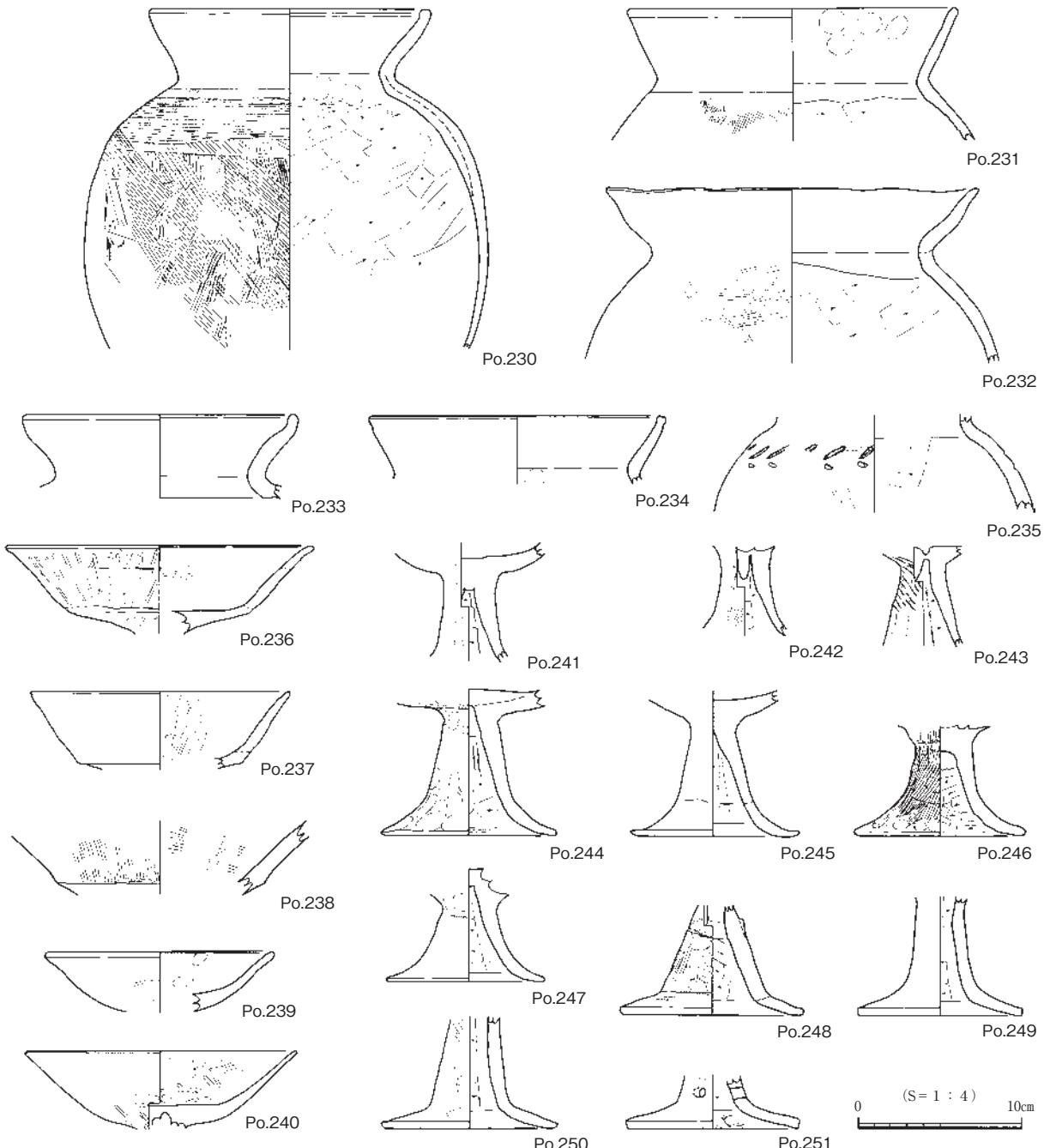
水路内の埋土は、ほぼ淡黒褐色砂質土の単層であり、複雑な堆積状況を示すものは認められなかつた。このことから、土器が投棄されてからごく短期間のうちに埋没した水路と考えられる。

遺物の出土状況は、土器片が底面付近にまとまって散布しているほか、高壺や小型丸底壺、Po. 225のような完形品の甕などが出土していることから、祭祀で使用した土器類をまとめて投棄したような情景が想像できる。ただし、土器以外には祭祀に関わる遺物の出土が見られないため、祭祀目的で使用された遺構と断定する要素は乏しい。また、この水路は隣接する鳥取県教育文化財団の実施した調査では検出されていないことから、この石敷から北側で消滅するか、さらに東へ流れを変えているものと考えられる。

この水路からの出土遺物は、古墳時代中期の土師器が主体であり、須恵器は1点も含まれていない。Po. 208は頸部に3条の突帯を貼り付ける弥生土器の壺である。Po. 209はハケ調整後に頸部に斜め方向のハケ目を施す壺で、口縁の直下に刻み目を施す突帯が巡る。Po. 210～215は小型の土師器壺である。Po. 210は口縁が長く伸びる直口壺。Po. 211は口縁部を「く」字形に屈曲する小型丸底壺である。

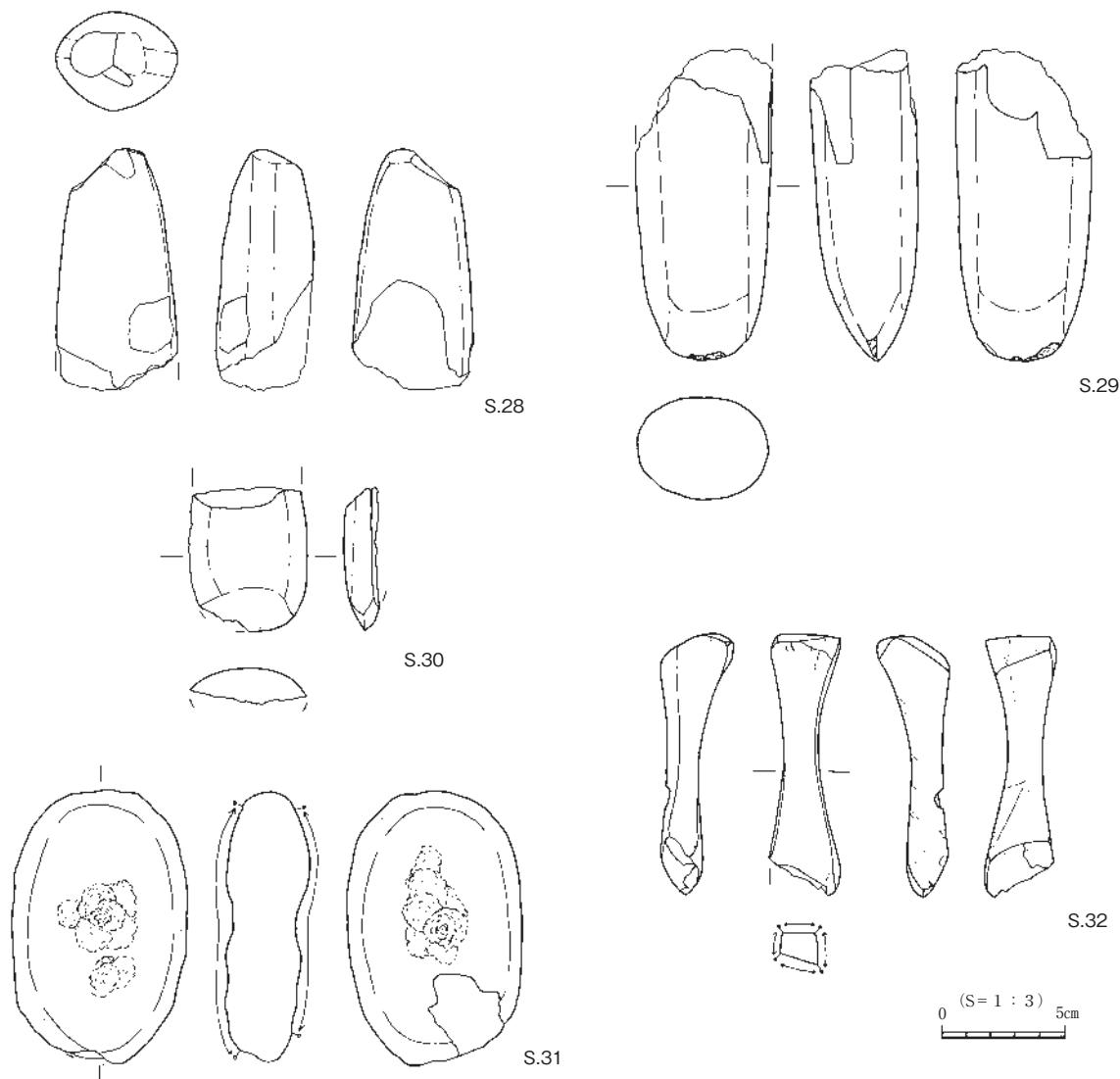


第29図 水路1 出土遺物図①



第30図 水路1 出土遺物図②

ある。Po. 212も同様の器形だが、胎土が精緻である。Po. 213は小型丸底壺の体部片。Po. 214は壇状の小型壺で、外面をタテハケ調整し、内面をヘラケズリする。Po. 215は口縁部のナデ調整がやや粗い壺である。Po. 216～218は土師器の壺で、Po. 216が典型的な複合口縁であるのに対して、後の2点は退化傾向にあることが分かる。また、いずれの壺も器壁がかなり厚いことから、大型壺の口縁部と考えられる。Po. 219～235は土師器の甕である。複合口縁形のものから退化したものまでバリエーションがあるが、主体は「く」字形の製品である。この中で、完形品のPo. 225は底部に特徴的な形のススが付着している。Po. 236～251は土師器の高坏である。口縁部が外方に広がり、外面に段を持つものと持たないものの2種が混在するが、口径と比較すると、全体的に碗部が浅く作られている印象を受ける。S. 28～30は全て刃部や基部が破損した石斧である。S. 31は両面に敲打痕の残る凹石で、



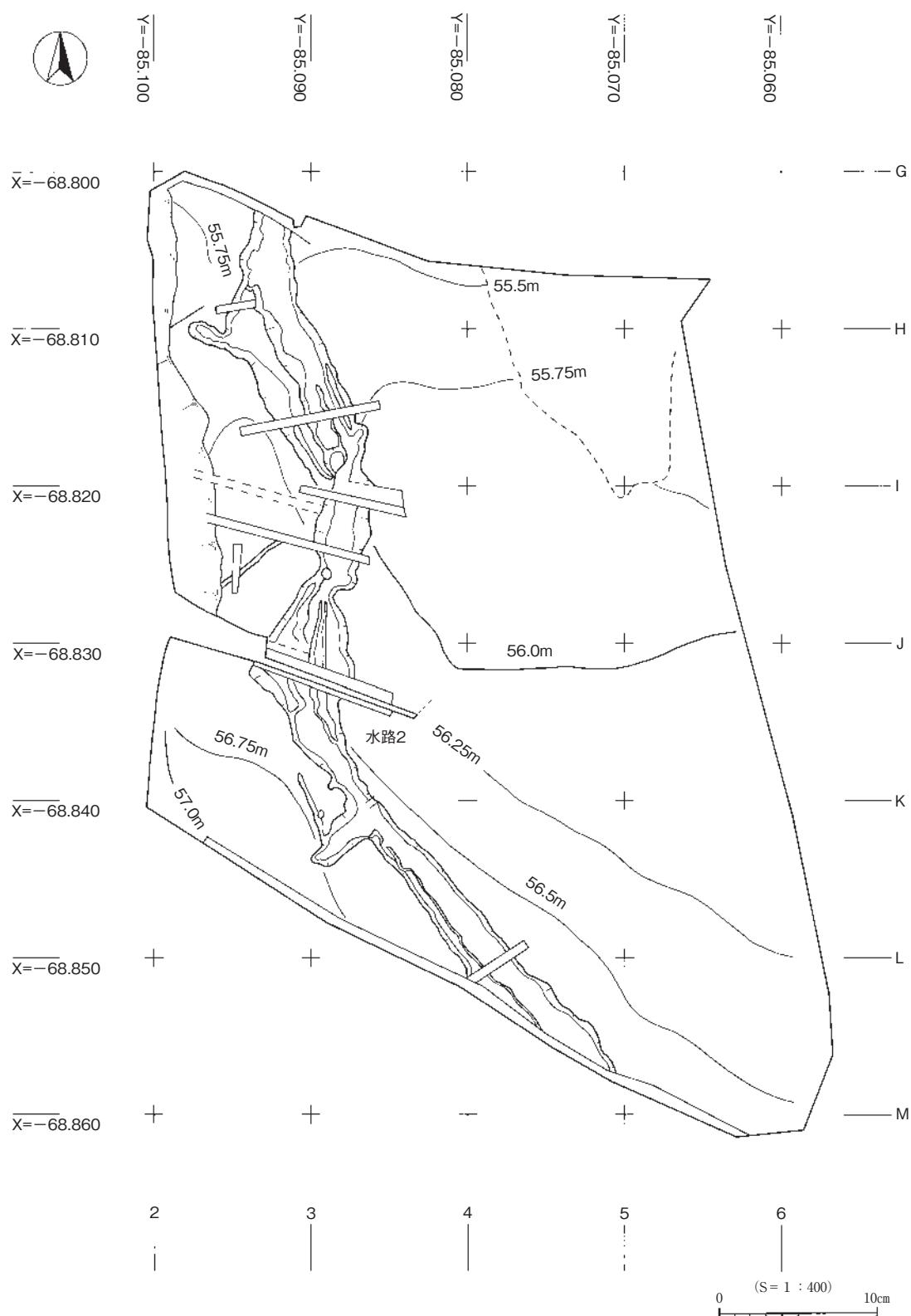
第31図 水路1 出土遺物図③

両面に擦痕が残ることから磨石としても使用されていたと考えられる。S. 32は四面に擦り跡が残る砥石で、使用により中央部が磨滅している。

この遺構の埋没した時期は、出土した遺物から古墳時代中期、6世紀前半頃と推測される。

第6節 1区第1遺構面の調査

1区の第1遺構面では、G3グリッドからM5グリッドにかけて近世から近代の水路2を検出した。また、調査区の西端部でも大規模な掘り込みを確認したが、埋土から現代のビニール片などが出土したことから、ほ場整備の時に掘削された搅乱穴と判断した。



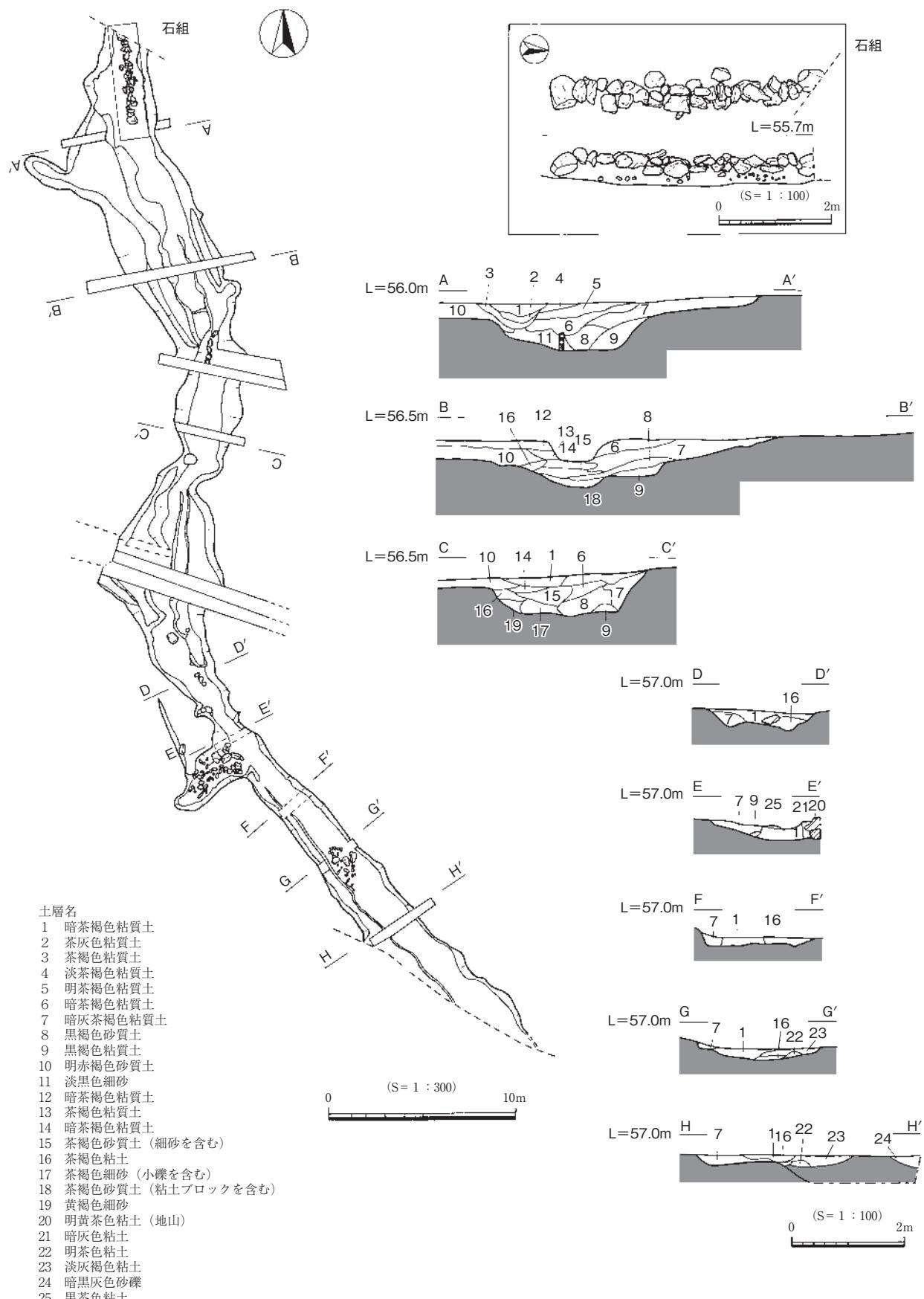
第32図 坂長ブジラ遺跡1区 第1遺構面 全体図

水路2（第33～35図）

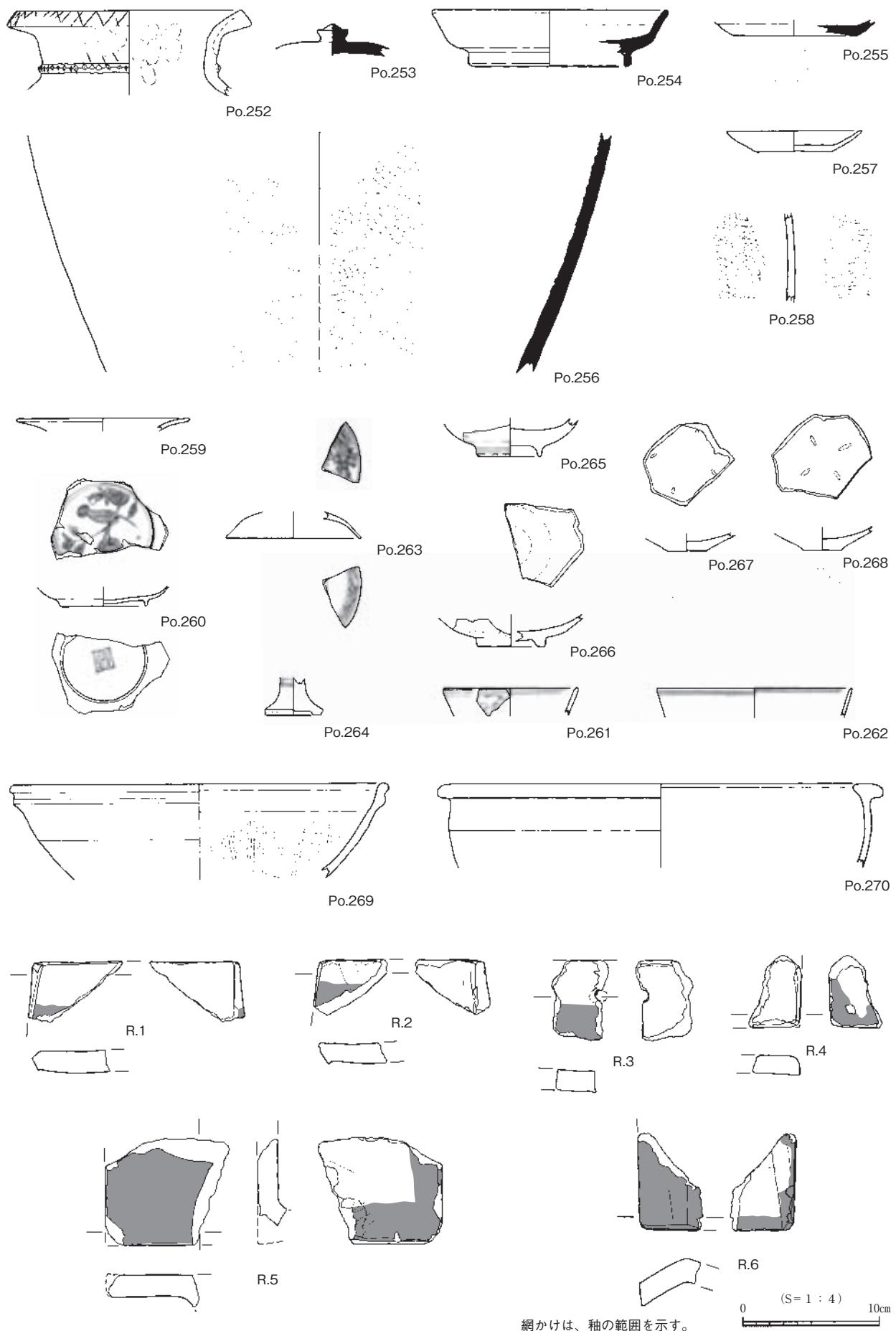
水路2は、南から北へやや西寄りに蛇行しながら流れている。この水路は、丘陵端部の地山の検出面にほぼ沿って作られており、3カ所で西方向に向かって水路が「T」字形に分岐した地点が確認されることから、ほ場整備がなされる以前の水田に伴う用水路であったと考えられる。

検出した水路の長さ55mで、幅は0.5mから1.5m程度である。深さは保存状態の良い北側で1m近くあるが、南側では遺構の上面がかなり削平されており、20cm程度しか残っていない地点もあった。水路の掘形は、逆台形状を呈しており、埋土は粘質土と細砂が交互に堆積している状況が認められることから、ある程度の水流の変化があったものと推察される。また、水路内の所々には木製の杭が打ち込まれており、護岸がなされていた状況が窺えるほか、調査区の北側では石積みの護岸が構築されていることから、修繕を繰り返しながら長期間に亘って使用されたものと考えられる。

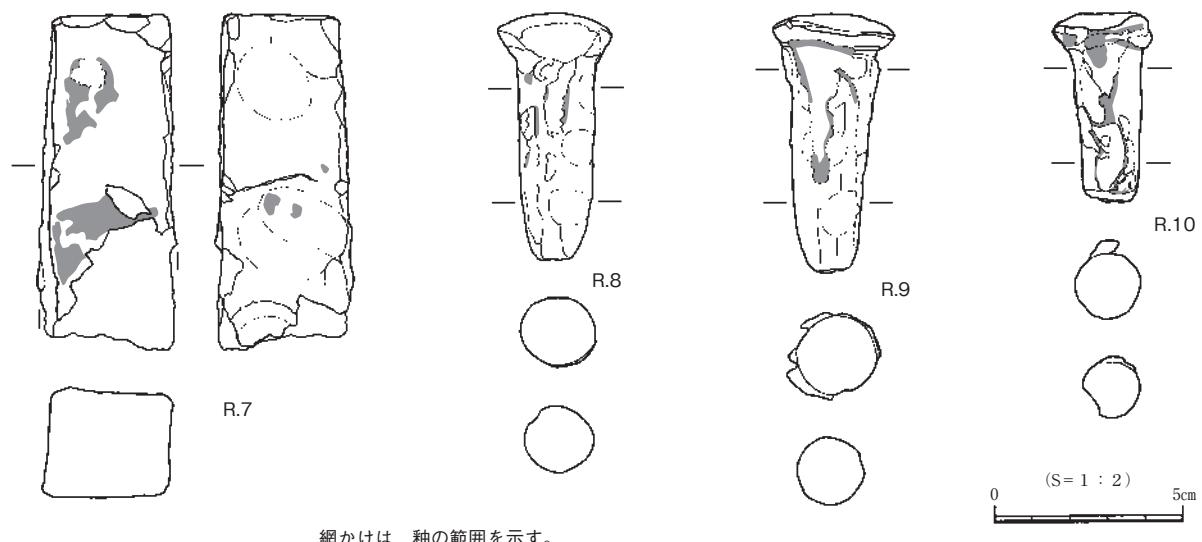
この水路内からの出土遺物は、弥生時代から近現代までのものを含むが、中心となる遺物は近世後半以降と考えられる。Po. 252は口縁端部に鋸歯状の紋様を描き、頸部に刻みを施した突帯が貼り付けられる弥生土器の壺である。Po. 253は宝珠形のつまみを持つ須恵器の蓋。Po. 254は高台を持つ須恵器の坏身。Po. 255は底部を糸切する坏身。Po. 256は須恵器の甕体部片。Po. 257は土師器の坏。Po. 258は外面を格子目タタキし、内面をハケ調整する瓦質の甕体部片。Po. 259は白磁の皿の口縁部片。Po. 260は中国景德鎮窯系の青花皿の底部で、見込みには鳥の絵が描かれている。Po. 261はいわゆる漳州窯系とされる粗製の青花碗で、胎土は淡茶灰色を呈する。Po. 262は口縁が真っすぐ外方に伸びる青花の碗である。Po. 263は肥前系磁器の碗蓋。Po. 264は伊万里焼の仏飯器底部である。Po. 265は陶胎染付の碗底部。Po. 266は見込みを蛇の目釉剥ぎする銅緑釉の皿。Po. 267・268は内面に褐色釉を掛ける産地不明の陶器皿で、高台は糸切したままである。両者とも似通っているが、胎土が異なっており、同一の製品かどうか分からぬ。Po. 269は口縁端部の直下が肥厚する須佐焼の擂鉢である。内外面とも薄く鉄釉が掛けられ、擂り目は10条単位のものが少し間隔を開けて施される。Po. 270は口縁端部が「T」字状に肥厚する石見焼系の捏ね鉢である。胎土はやや緻密で釉薬の色調は淡い緑灰色を呈する。R. 1～R. 6はやや黒っぽい色調釉薬を掛ける石州瓦の桟瓦の破片である。R. 1は胎土が橙褐色を呈しており、やや緻密であるが、R. 2～6は胎土が淡灰茶色でやや粗く、砂粒を含む。また、R. 3は釘穴が残る。R. 7は所々に釉薬が付着する粘土塊で、石州瓦を焼成する際に使用される「モミツチ」と呼ばれる焼台である。R. 8～10は石州瓦を重ね焼きする際に用いるハセと呼ばれる窯道具である。長さは、5cm～7cm程度あり、釉薬が数カ所付着しているものもあることから、複数回にわたって使用されたと考えられる。S. 33は薄い加工用の片刃石斧のようにも見えるが、刃部が作られていないことから、当初から砥石として使用されたものと推測される。S. 34は半分欠損しているが、中央が磨滅して薄くなった砥石である。



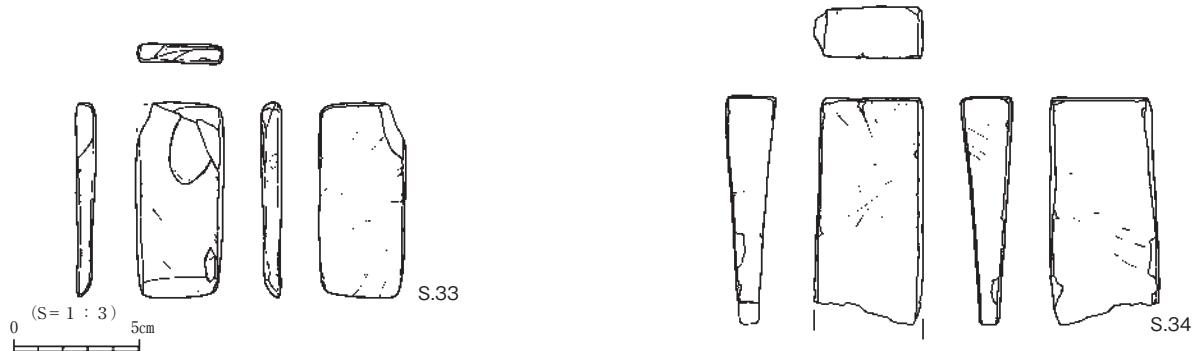
第33図 水路2 平・断面図



第34図 水路2 出土遺物図①



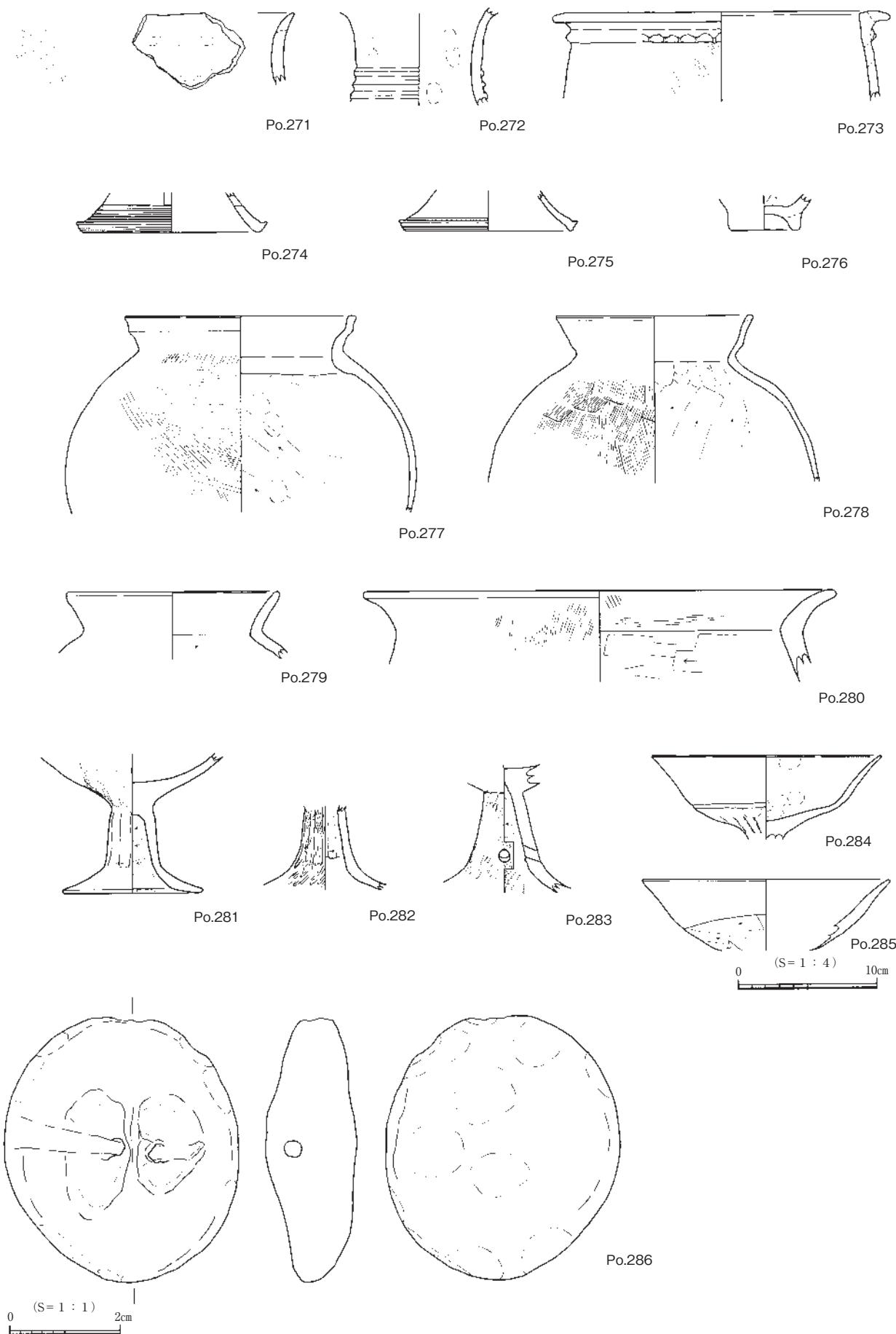
網かけは、釉の範囲を示す。



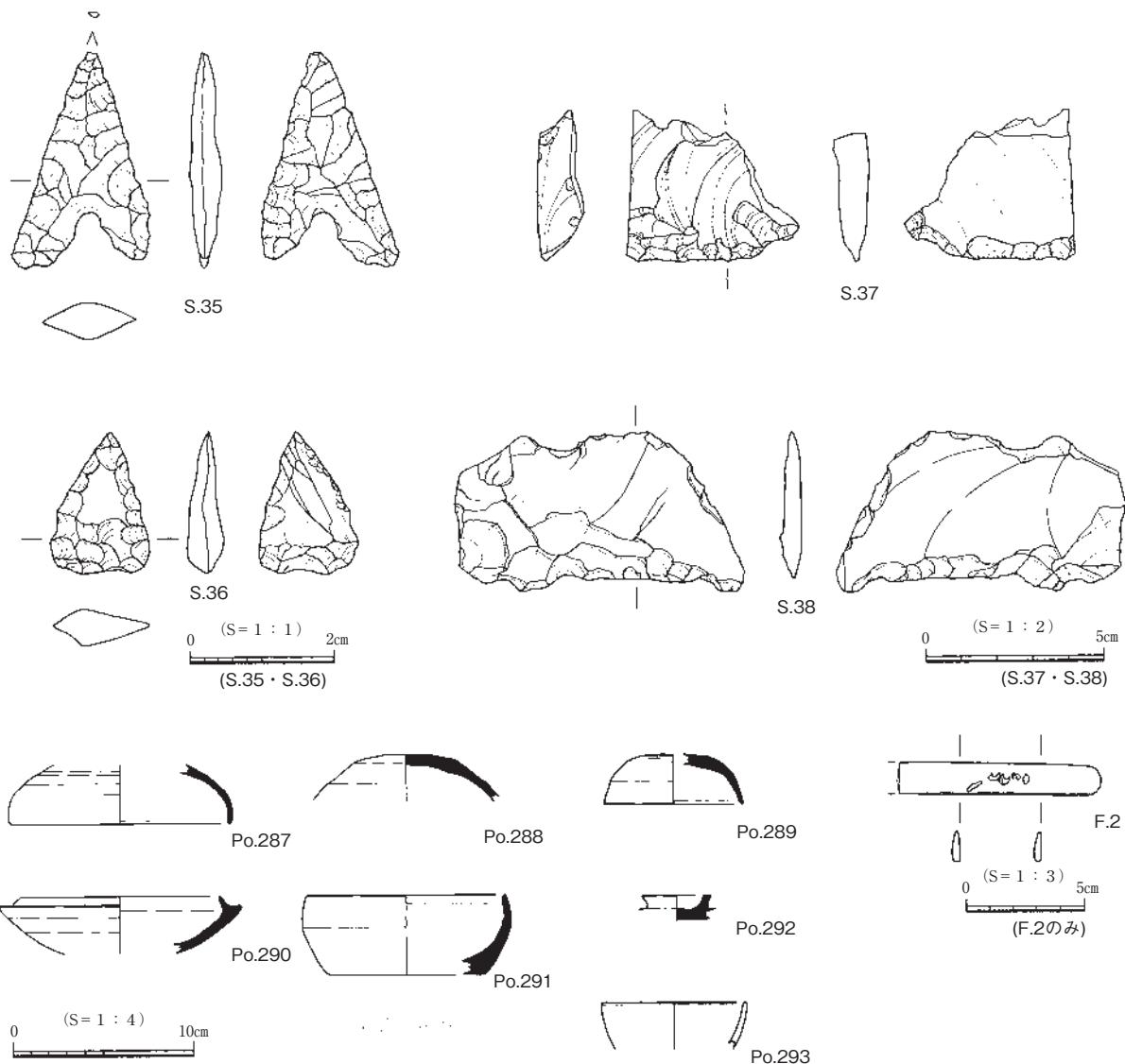
第35図 水路2 出土遺物図②

第7節 1区IV-1層の出土遺物

1区のIV-1層からは、縄紋時代から近世の遺物が出土しているが、主体となるのは古墳時代中期から後期にかけての時期と考えられる。Po. 271は縄紋時代晚期の深鉢の口縁部片。Po. 272は3条の突帶を貼り付ける弥生時代中期の壺の頸部である。Po. 273は逆「L」字形の口縁に指頭圧痕貼付突帶が巡る甕である。Po. 274・275は凹線紋が巡る弥生土器の高坏底部。Po. 276は、底部に高台を貼り付ける弥生土器の底部である。Po. 277～279は土師器の甕。Po. 280は復元口径が30cmを超える大型の甕で、古代まで下るものか。Po. 281～285は土師器の高坏である。Po. 284・285は口縁部が外方に開く高坏の碗部だが、Po. 285は胎土が粗く、底部付近をヘラケズリしていることから、高坏の破片ではない可能性もある。Po. 286は橢円形の土製品で、片面につまみを作り穿孔する。鏡形土製品と考えられる。S. 35・36は石鏸。S. 37・38は剥片石器である。Po. 287～289は須恵器の坏蓋で、Po. 289は復元口径が7.7cmの小型品である。Po. 290は返りを持つ須恵器の坏身。291は底部を糸切する須恵器の坏身である。Po. 292はリング状を呈する須恵器の坏蓋のつまみである。Po. 293は、釉薬が淡緑灰色を呈する産地不明の陶器碗である。F. 2は、表面に紋様が施された青銅製の鞘が残る小柄である。



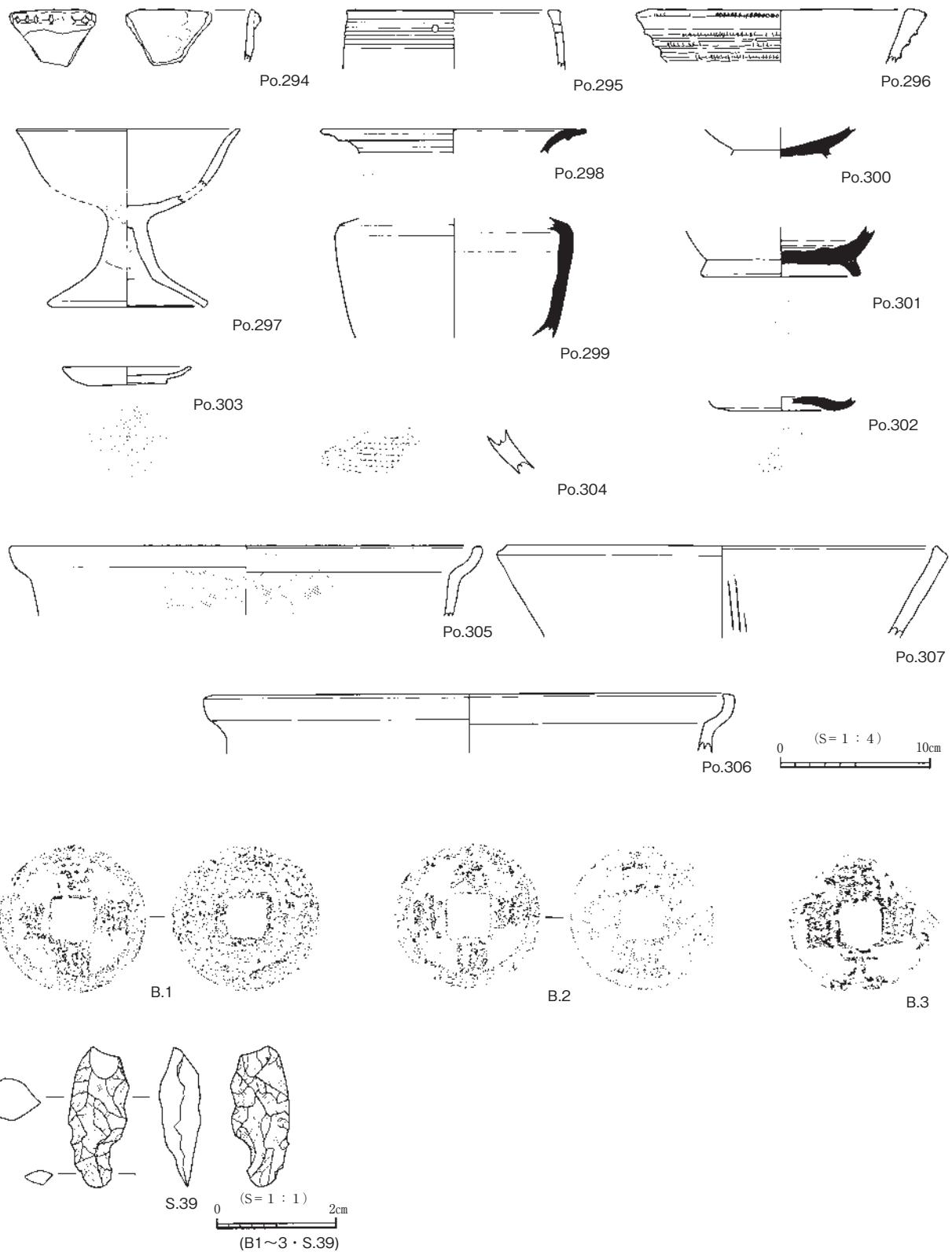
第36図 IV-1層 出土遺物図①



第37図 IV-1層 出土遺物図②

第8節 1区Ⅲ層の出土遺物

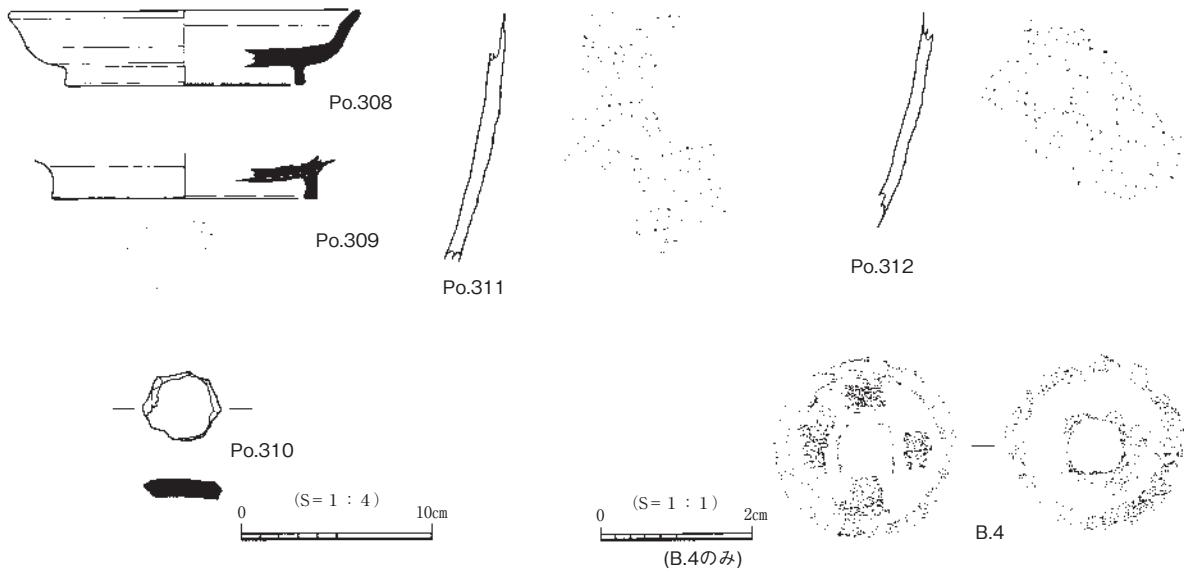
Ⅲ層からの出土遺物は、縄文時代から近世までの幅広い時期のものであるが、古代から中世の遺物が多い傾向を示す。Po. 294は突帯に細かい刻みを施す突帯紋土器の深鉢。Po. 295は表面がかなり磨滅しているが、外面に4条の凹線が巡り穿孔される弥生土器の無頸壺である。Po. 296は逆「ハ」字形に広がる壺で、外面に細かい刻みを施した突帯を貼り付けている。Po. 297は口縁が外反気味に開く土師器の高坏である。Po. 298は外面に波状紋を施す須恵器の壺口縁部片。Po. 299は肩部が屈曲する須恵器台付壺の体部か。Po. 300・301は高台を持つ須恵器の坏身。Po. 302は底部に糸切痕を持つ無高台の坏底部。Po. 303は底部を糸切し、口縁が外方に立ち上がる土師器皿。Po. 304は外面に格子目タタキの痕跡を残す瓦質の甕体部片である。Po. 305・306は口縁部が受け口状を呈する土師器鍋の口縁部。Po. 307は内面に3条の掘り目の残る擂鉢である。表面がかなり風化しており、元の色調が窺えないが、胎土が緻密であることから瓦質の製品を模倣した土師器と考えられる。銅錢のB. 1は篆書体で「元□通寶」と読める。「元豊通寶」、「元祐通寶」、「元符通寶」などが候補となる。B. 2は「元豊通寶」。B. 3は「開元通寶」である。S. 39は黒曜石製の剥片石器である。



第38図 Ⅲ層 出土遺物図

第9節 1区Ⅱ層の出土遺物

1区第Ⅱ層からの出土遺物は、点数が少ないが古墳時代から中世のものが主体である。この層から出土した遺物は、過去の水田耕作によって攪乱されているものがほとんどと考えられる。Po.308は高台を持つ須恵器皿である。Po.309は底部にタタキ調整の痕跡が残る須恵器壺の底部。Po.310は壺

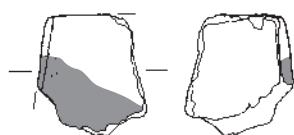
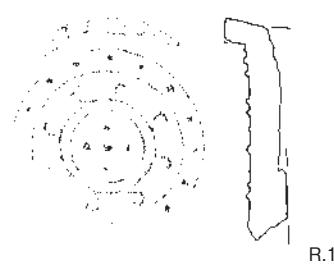
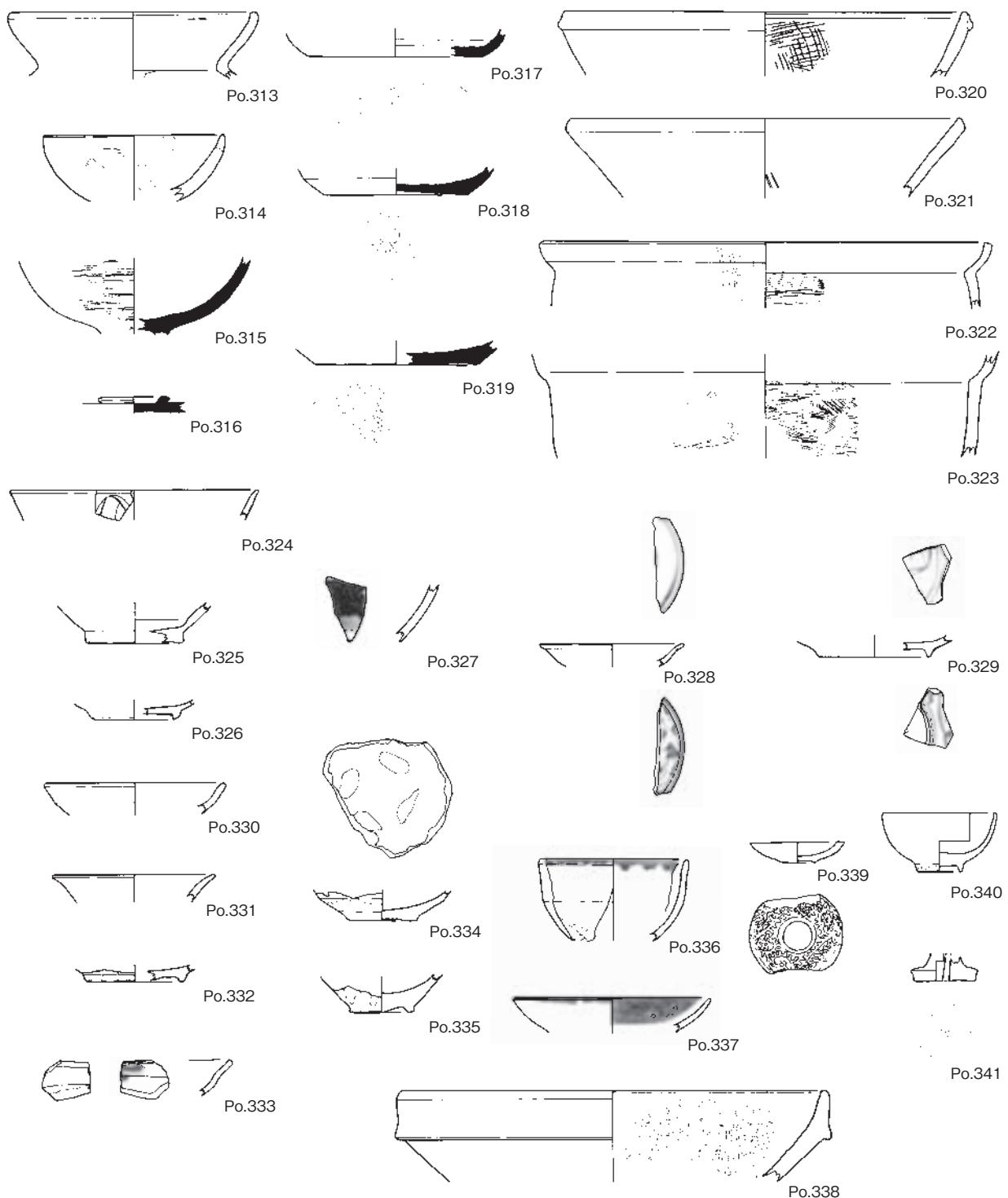


第39図 II層 出土遺物図

器系陶器の破片を円盤状に加工したもので、「おはじき」や灯芯押さえに転用したもののPo.311・312は瓦質の甕体部片で、外面には格子目タタキの痕跡が残り、内面はハケ調整されている。銅錢のB.4は「祥符通寶」である。

第10節 1区 I層の出土遺物

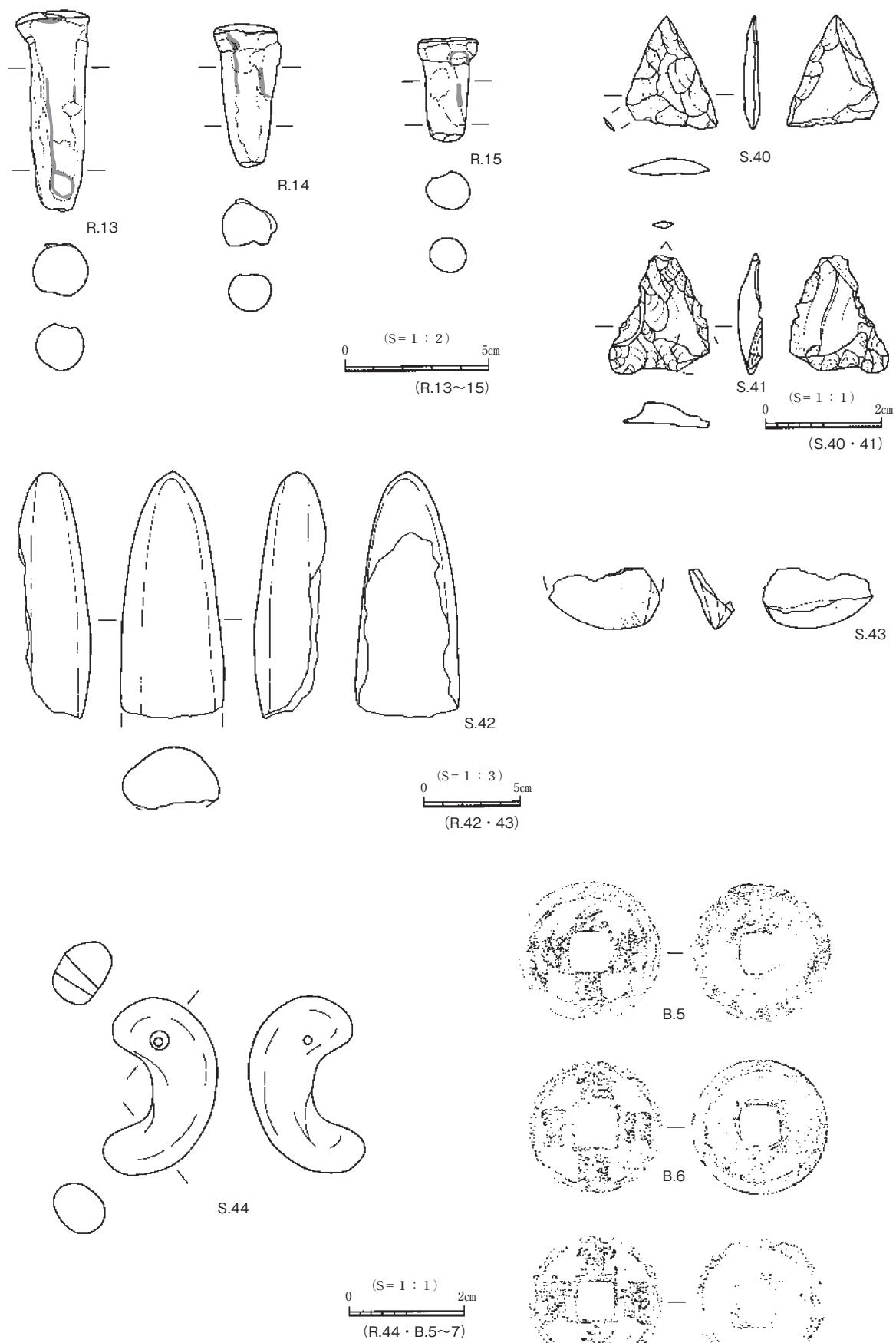
第I層からの出土遺物は近世のものが主体となる。Po.313は土師器の甕。Po.314は土師器の壺。Po.315は、体部をカキ目調整する須恵器高壺。Po.316はリング状のつまみを持つ須恵器壺蓋。Po.317～319は底部に糸切の痕跡を残す須恵器壺身。Po.320・321は瓦質の鉢。Po.322・323は口縁部が受け口状を呈する土師器の鍋。Po.324は外面に鎬蓮弁紋を彫る青磁の碗である。Po.325は見込みに段を持つ白磁の碗。Po.326は高台に砂が付着する皿。Po.327は底部付近に鉄釉が掛かる天目茶碗の破片である。Po.328は口縁部が外反する青花皿。Po.329は高台に砂が付着する青花皿である。Po.330～332は瀬戸・美濃系陶器の皿で、Po.331は口縁端部を釉剥ぎする。Po.333は鉄絵を描く唐津焼で、向付の破片か。Po.334は見込みに砂目積みの痕跡を残す唐津焼の皿で、高台のケズリはかなり浅い。Po.335は唐津焼の碗で、高台を頭巾状に削る。Po.336は口縁に粗く緑釉が掛けられる。Po.337は内面に銅緑釉を掛ける皿である。Po.338は口縁部が真っすぐ立ち上がる備前焼の擂鉢で、内面に5条の擂り目が残る。Po.339は外面に蛸唐草紋を型押しした紅皿である。Po.340は復元口径が7.3cmの小杯。Po.341は底部に糸切の痕跡が残る器種不明の陶器で、中心に向かって穿孔されている。灯明具の一種か。R.11は小型の軒丸瓦である。坂中廃寺跡出土のものと同型品と考えられる。R.12は石州瓦の破片。R.13～15は石州瓦を焼成する際に瓦同士がくっつかないように用いる、「ハセ」と呼ばれる窯道具である。S.40はサヌカイト製の石鏃。S.41は黒曜石製の石鏃である。S.42は磨製石斧の基部。S.43は磨製石斧の刃部の破片である。S.44は碧玉製の勾玉で、片面穿孔によって孔が開けられている。銅錢のB.5は、行書体の「元豊通宝」。B.6は篆書体の「元祐通寶」。B.7は「寛永通寶」である。



網かけは、釉の範囲を示す。

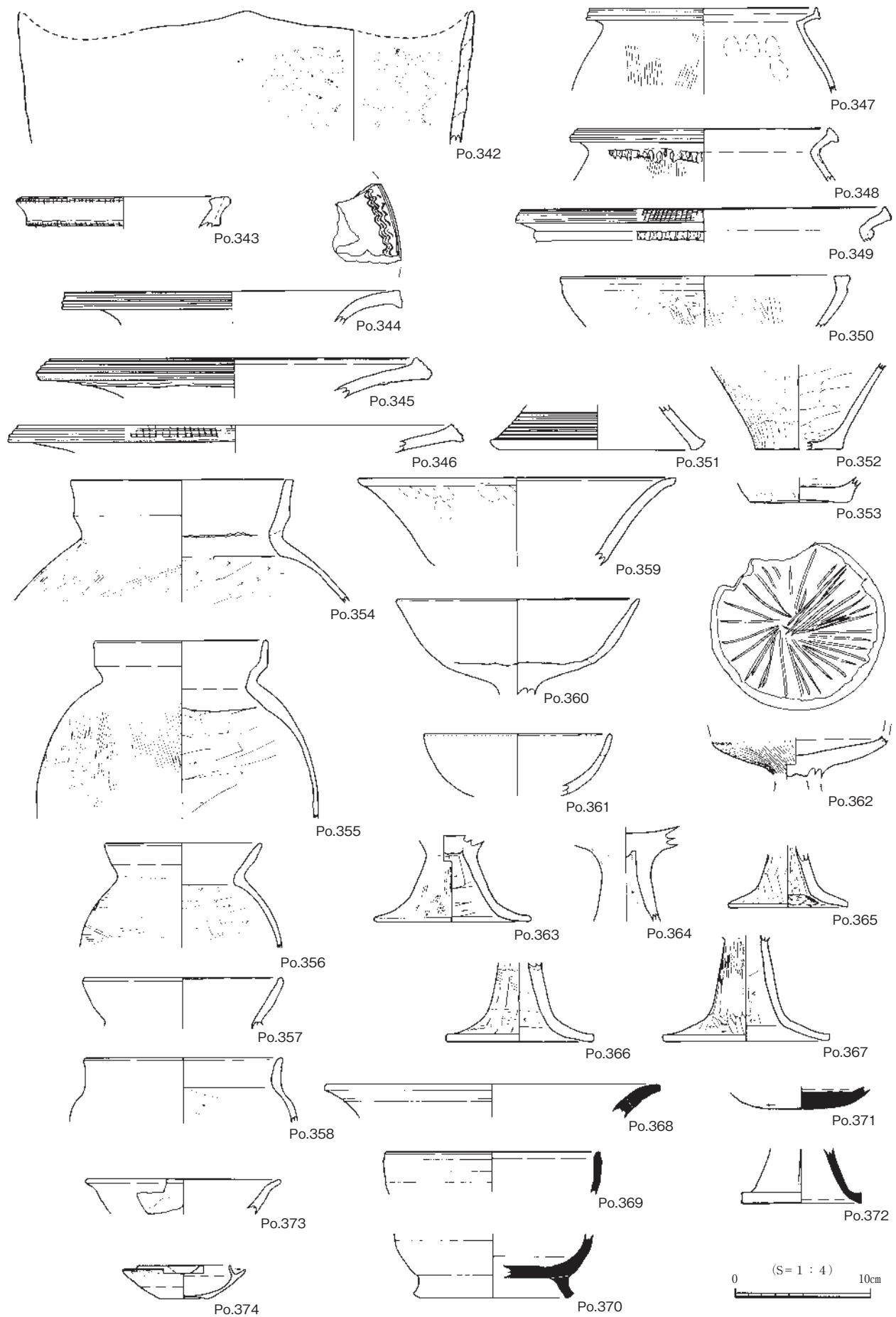
0 (S = 1 : 4) 10cm

第40図 I層 出土遺物図①

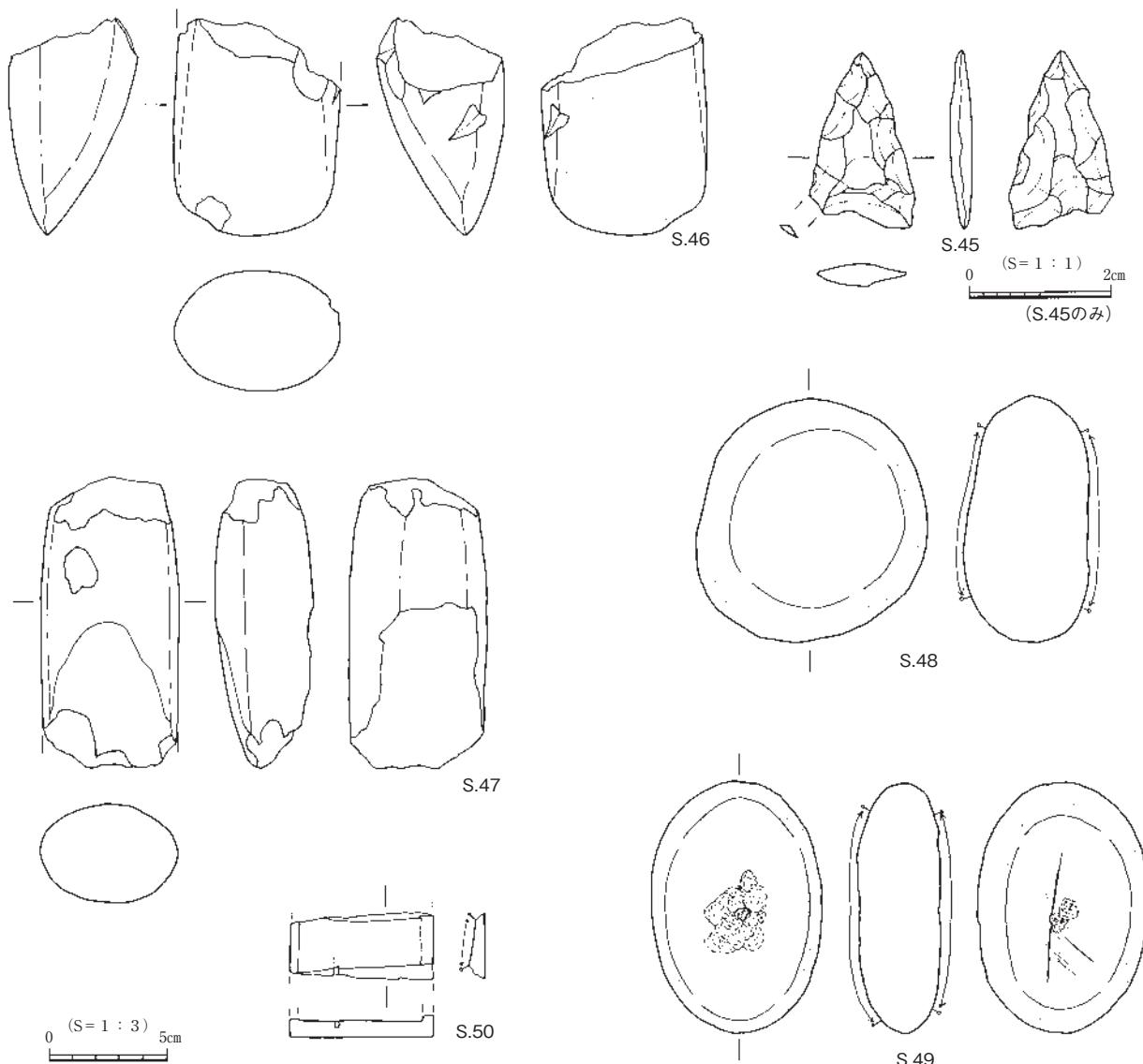


網かけは、釉の範囲を示す。

第41図 I層 出土遺物図②



第42図 掘削土 出土遺物図①



第43図 掘削土 出土遺物図②

第11節 1区の遺構掘削中に出土した遺物

ここに示した遺物は、調査区の周囲に巡らした排水溝やトレンチの掘削中に出土したもので、帰属する層位が不明な遺物である。Po. 342は口縁が波状を呈する大型の深鉢で、縄紋後期から晩期に属するものと見られる。Po. 343～346は弥生土器の壺。Po. 347～349は弥生土器の甕。Po. 350・351は高坏。Po. 352・353は弥生土器の底部。Po. 354～358は土師器の甕。Po. 359～367は土師器の高坏である。Po. 368は須恵器壺の口縁部。Po. 369は須恵器坏身の口縁部。Po. 370は高台の付く坏身。Po. 371は回転ヘラケズリの痕跡が残る須恵器の坏身底部である。Po. 372は須恵器の高坏。Po. 373は唐津焼の皿。Po. 374は鉄釉を掛ける陶器の灯明皿受皿。S. 45は石鎌。S. 46・47は石斧。S. 48は擦石。S. 49は凹石。S. 50は硯の破片である。

第12節 3区第2遺構面の調査

坂長ブジラ遺跡の3区は、平成22年度に鳥取県教育文化財団によって調査された地区の北西部に隣接しており、現況は水田であった。現地調査は、表土を重機にて掘削した後、人力にて包含層の掘削、遺構検出を行った。また、排出した土砂については、重機を用いて調査区の東側に仮置きしたが、隣接する民有地の水田と距離が近く、調査区も狭小なため、排土置場を確保することが難しかった。

3区の堆積土は、標高53.6m付近まではほぼ水平であり、遺構検出面より上層の①層から④層は、水田の耕作土や水田の床土が累層しているものと考えられる。遺構は、地山を検出した面と同一レベルの⑤層の上面と、⑤層を除去した下層の上面で検出しており、この両者で時期差があるものと考えた。このため、二つの遺構面に分けて報告する。

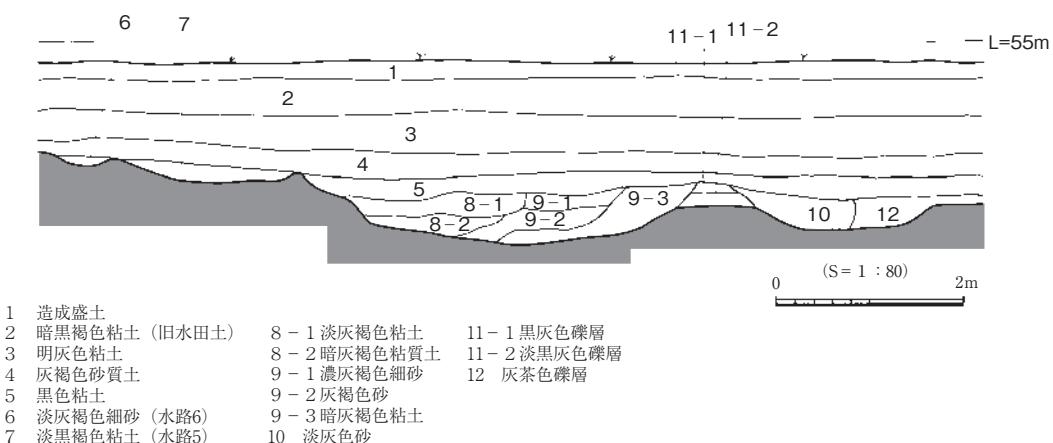
水路3（第46・47図）

調査区の中央で検出した、長さ11m、幅4～5.2m、深さ60cmの水路である。位置的な関係と出土した遺物の年代観から、平成22年度に行われた鳥取県教育文化財団の調査で見つかった水路SD04と同一の遺構と考えられる。

水路の断面形は逆台形状を呈し、埋土は東側から西側へ向かって、途中に砂層を挟みながら堆積している。水路の西側には段状にやや浅くなっている部分があり、この部分にも水が流れていたと考えられる。こうした状況から、水路が東側から西側へ向かって徐々に埋没していった状況が窺えるが、出土した遺物からはそれほどの時期差は指摘できない。

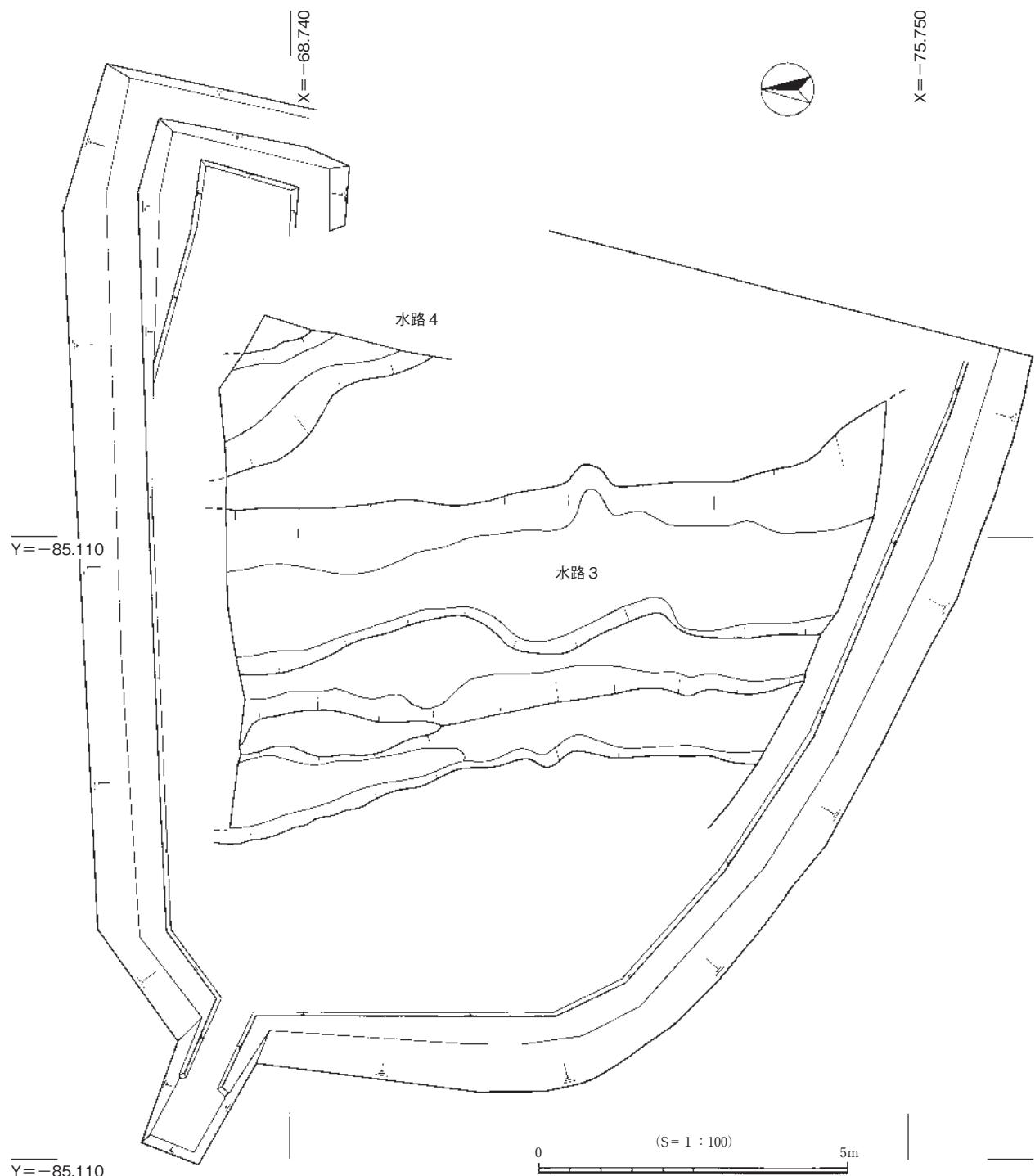
この遺構からの出土遺物は、土師器の壊が中心であり、甕や甌、移動式カマドの底部、瓦片などが見られた。また、土師器の壊の高台部にススが付着している個体が多く見られたことから、天地逆にした状態で灯火具として利用したことが窺える。

Po. 375～392は底部に高台の付く土師器の壊である。口径が11cmの小型品と14cmの2種が存在し、器高も6cmに統一されていることから、かなり規格化の進んだ器種と考えられる。高台部の作り方は、壊の底部を回転台から糸切した後、丁寧にナデ付けて貼り付けている。Po. 393～397は高台の付かない土師器の壊で、底部は全て糸切である。外面には口クロ整形の痕跡が残るのに対して、内面は

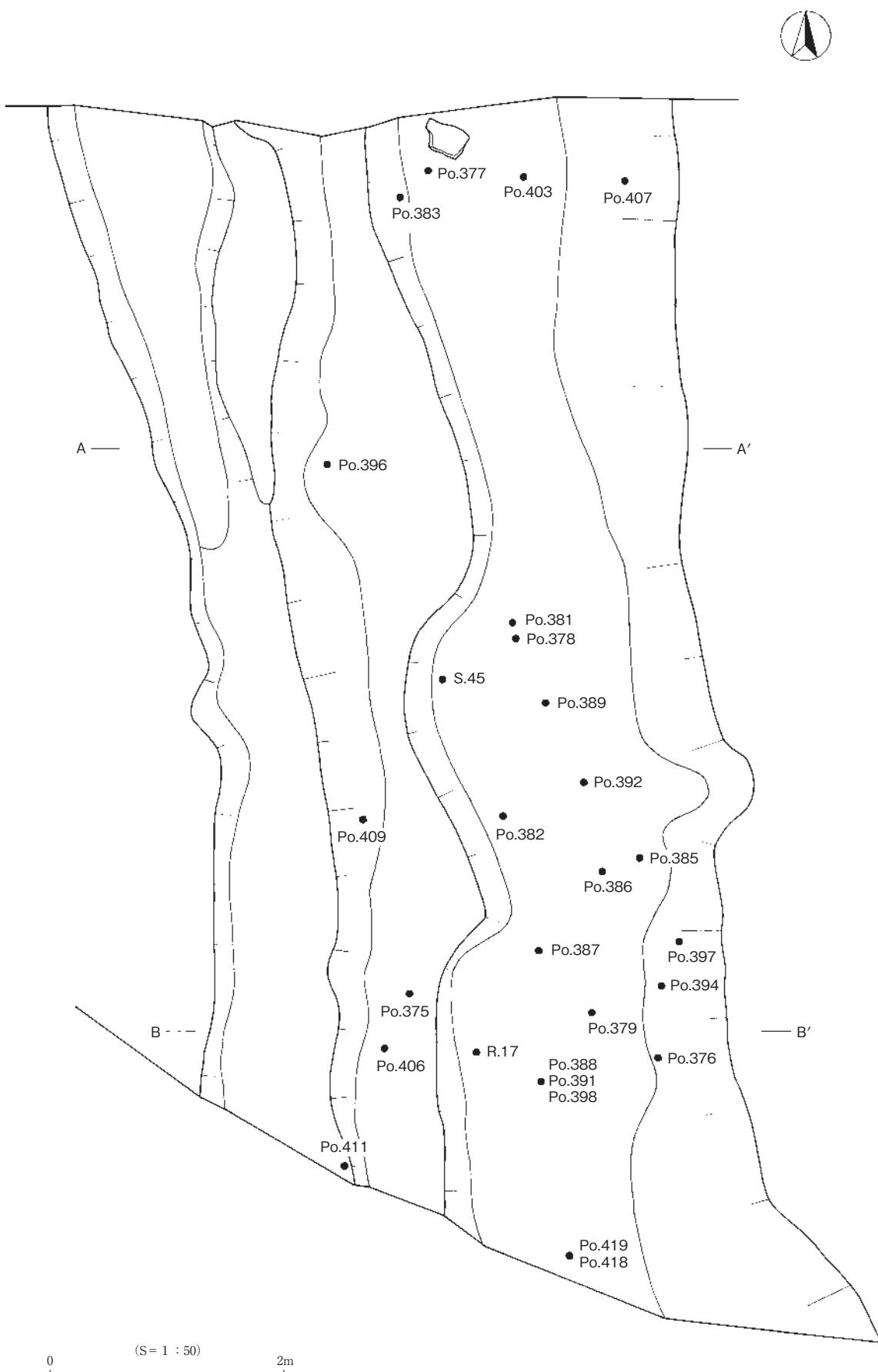


第44図 3区北側 断面図

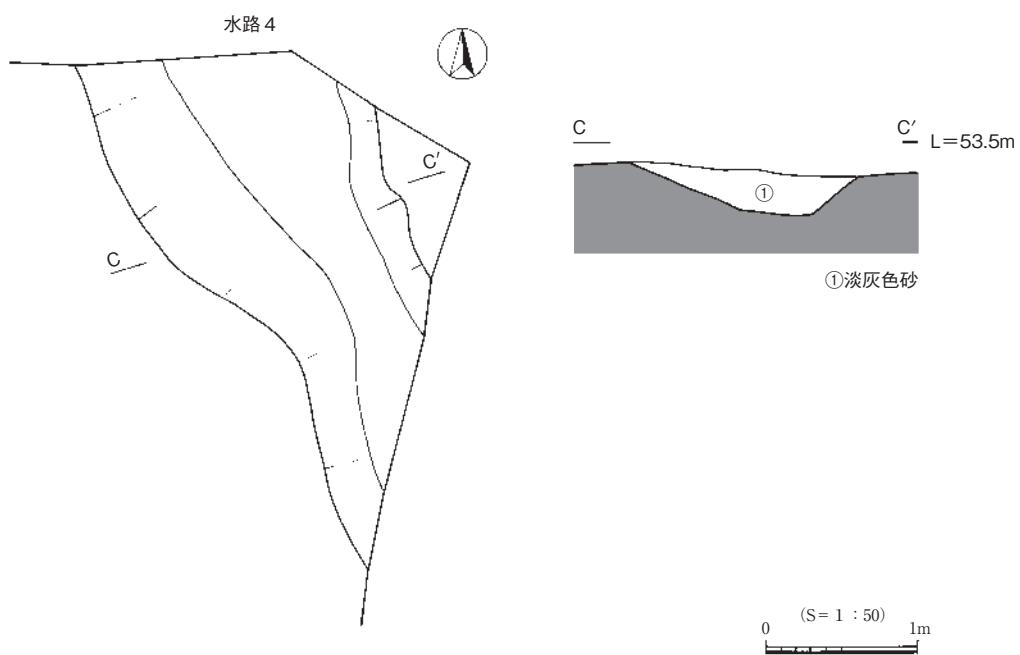
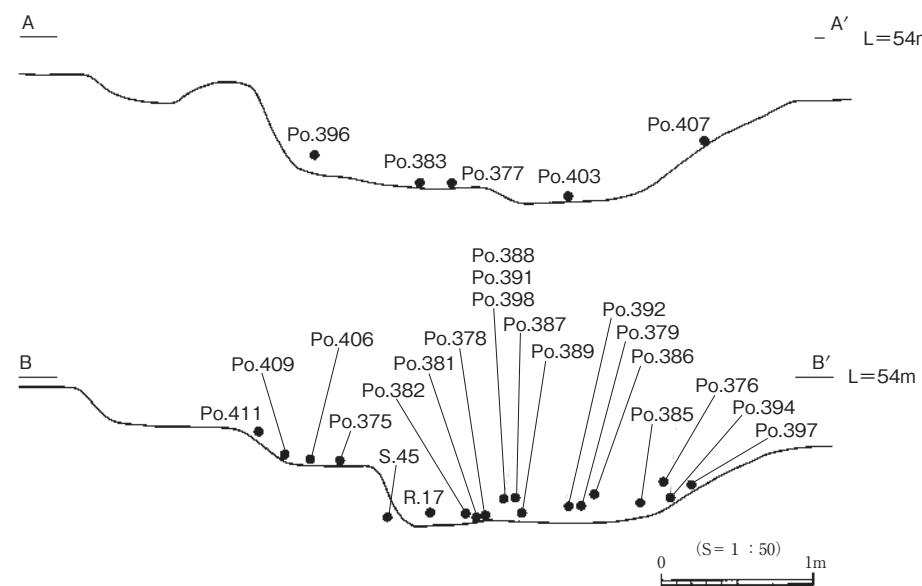
口縁から見込みにかけて丁寧にナデ調整されている点に特徴が見られる。Po. 401～406は土師器の甕で、口径には大小がある。古墳時代の甕と比べると口径と胴径の比率が近くなっているため、全体的に長胴化していることが窺える。Po. 407は復元口径20cm、器高18cmの甕で、胴部には二個の把手が付けられ、底部付近には小孔が開けられている。底部は破損しているためよく分からぬが、二つの穴が開けられているものと考えられる。Po. 408は甕の把手。Po. 409は移動式カマドの底部と見られる。Po. 410は輪の羽口の破片。Po. 411は須恵器の壊蓋。Po. 412は須恵器の壊身。Po. 413は底部を糸切する須恵器皿の底部。Po. 414は底部を静止糸切りする須恵器壺の底部か。R. 16は内面に布目の残る丸



第45図 3区第2遺構面 全体図



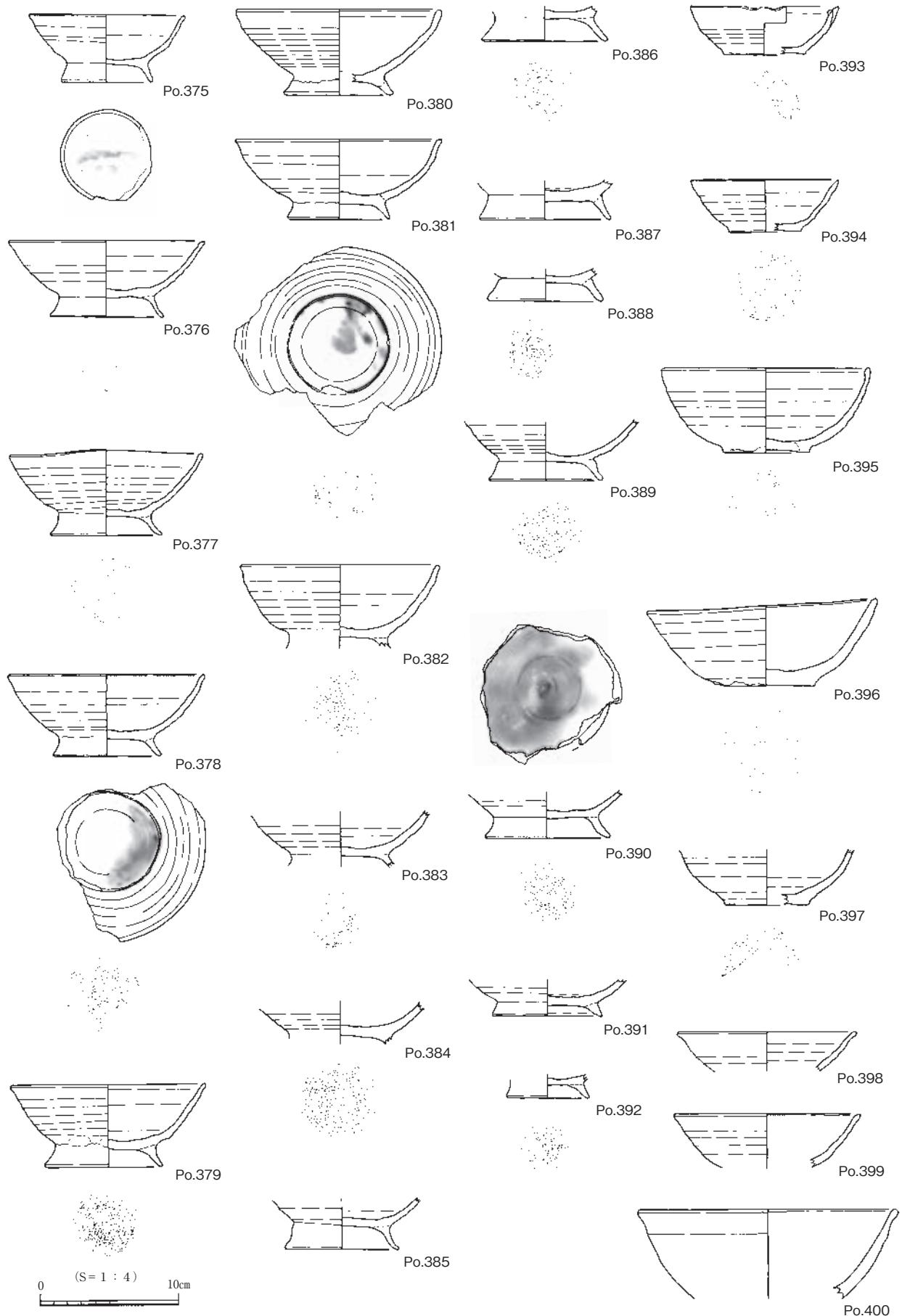
第46図 水路3 平面図



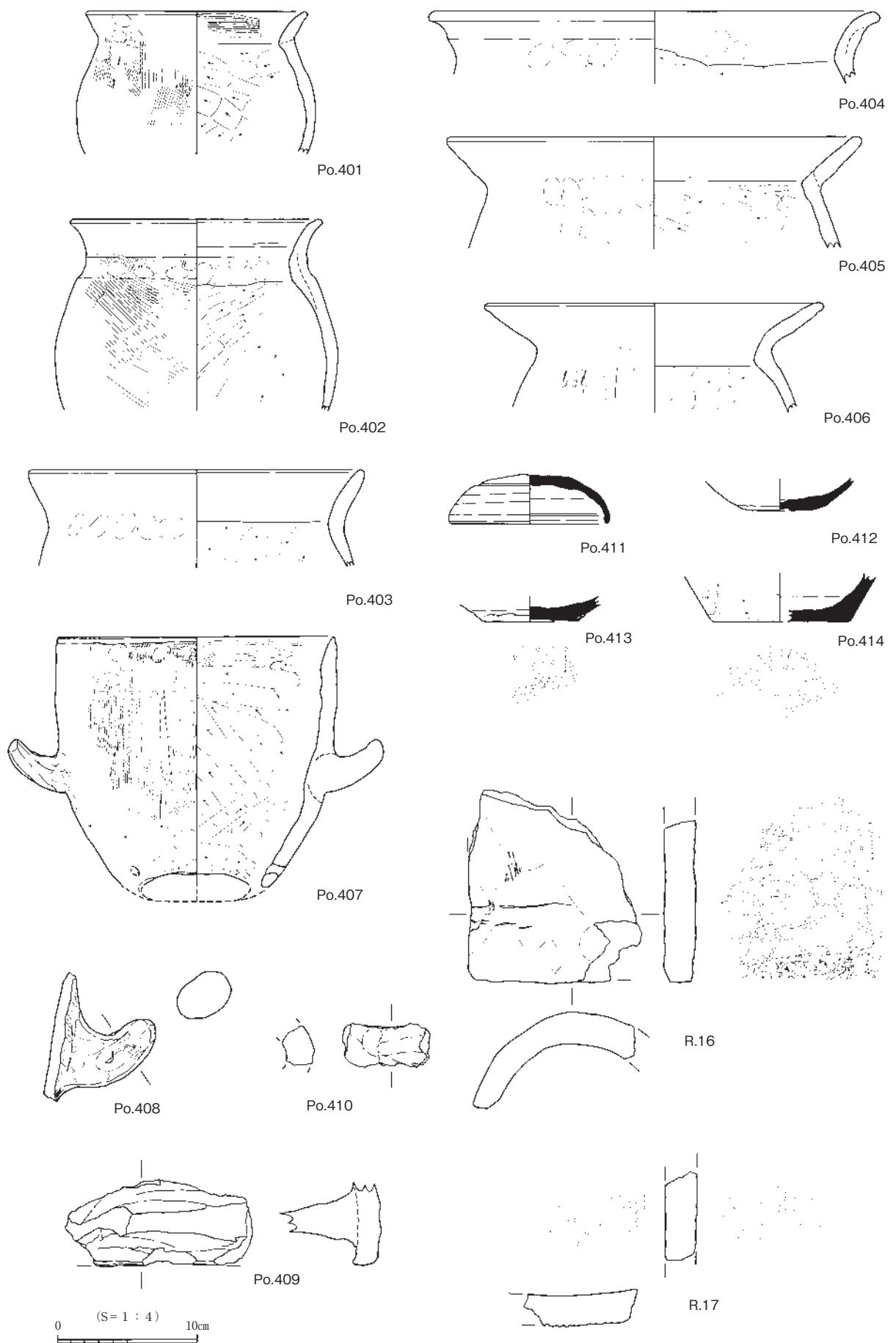
第47図 水路3、水路4 平・断面図

瓦。R. 17は凸面に平行叩きの痕跡が残る平瓦である。Po. 415は脚部に凹線紋が巡る弥生土器の高坏。S. 51は両面に敲打痕の残る凹石である。

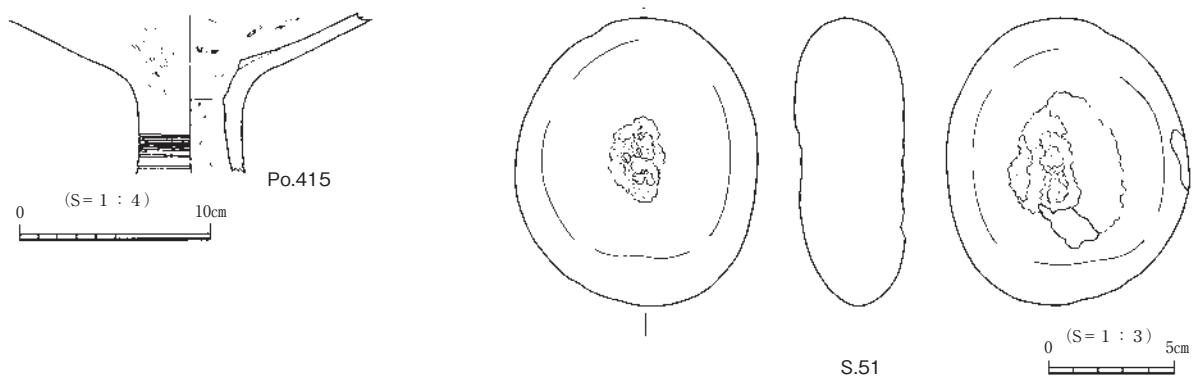
この遺構の埋没した時期は、出土した遺物から平安時代後期頃と考えられる。



第48図 水路3 出土遺物図①



第49図 水路3 出土遺物図②



第50図 水路3 出土遺物図③

水路4（第47図）

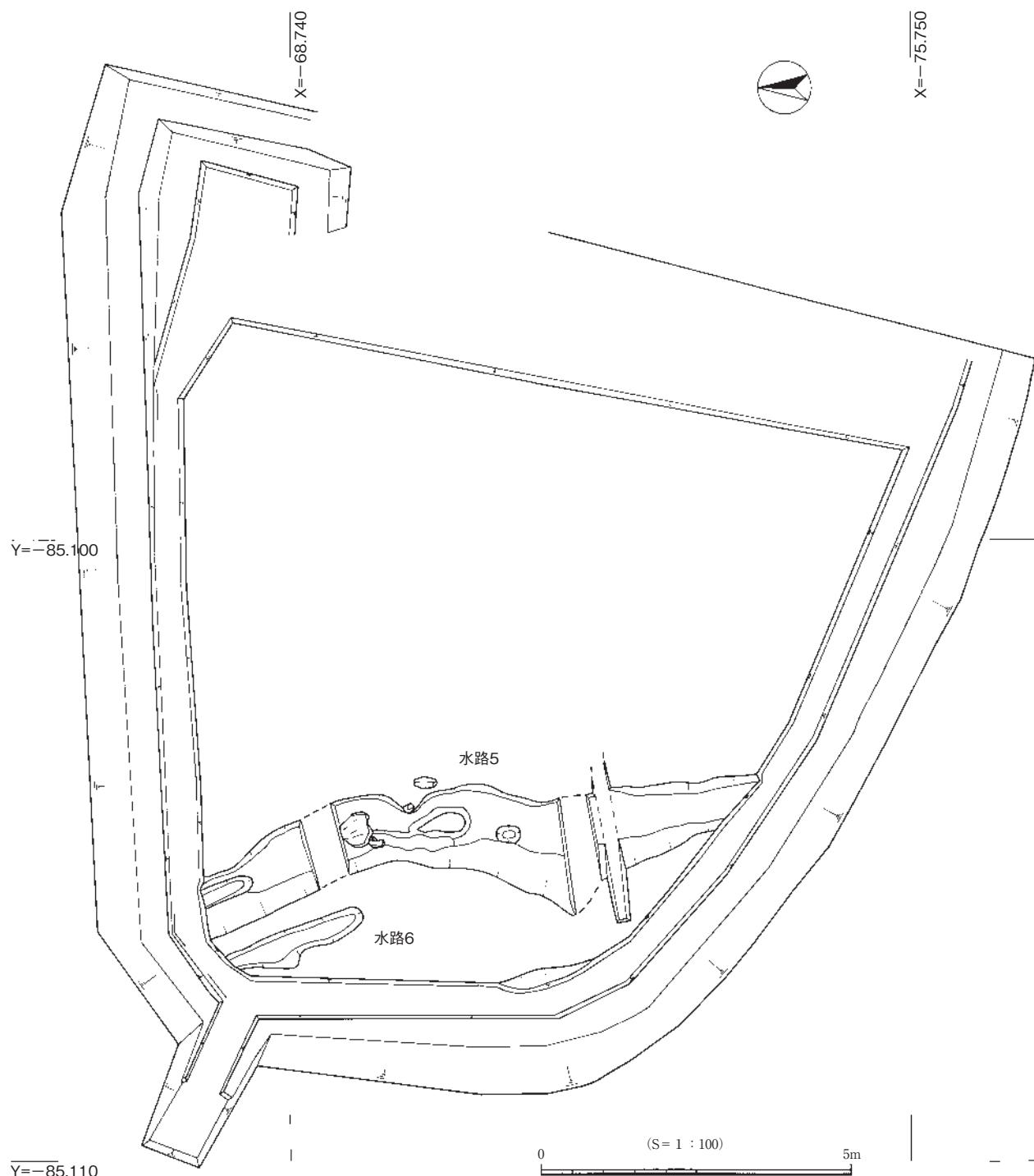
調査区の北東部で検出した長さ4m、幅1～1.6m、深さ30cmの、断面「U」字形の水路である。調査区内では、隣接する水路3との切り合い関係は認められなかった。水路内の埋土は淡灰色の砂一層のみであるため、ごく短期間のうちに埋没した水路と考えられる。

この遺構内からは全く遺物が出土しなかったため、遺構の埋没した年代を示すことは出来ないが、鳥取県教育文化財団が隣接地で行った調査で確認されている古墳時代中期末から後期前葉にかけて埋没した自然流路NR2の延長線上に位置していることと、埋土の状況が似ていることから、これと同一時期の遺構である可能性が考えられる。

第13節 3区第1遺構面の調査

3区の第1遺構面では、調査区西側の地山直上で水路を2条検出している。いずれも、上層が削平されているため、底面近くが遺存しているのみの状況であるが、底面のレベルは南から北へと下降しており、水流の方向を示すものと考えられる。

水路の東側は、黒色の粘土が水平堆積しており、恐らく水田の耕作土として使用されていたものと考えられるが、畦畔などの遺構は確認することが出来なかった。



第51図 3区第1遺構面 全体図

水路5（第52図）

検出した長さ9m、幅0.8～1.9m、深さ10cmの、断面「U」字形の溝である。底面のレベル差から、南から北方向へと流れていた水路と考えられる。遺構内の堆積土は、下層に砂が堆積し、上層に粘質土が堆積していることから、長期間流れていたか、あるいは切り合いのある水路であった可能性がある。

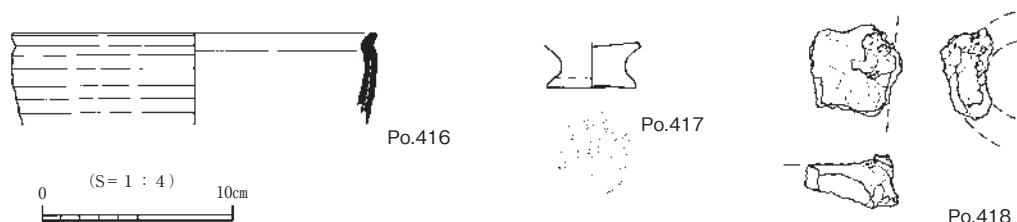
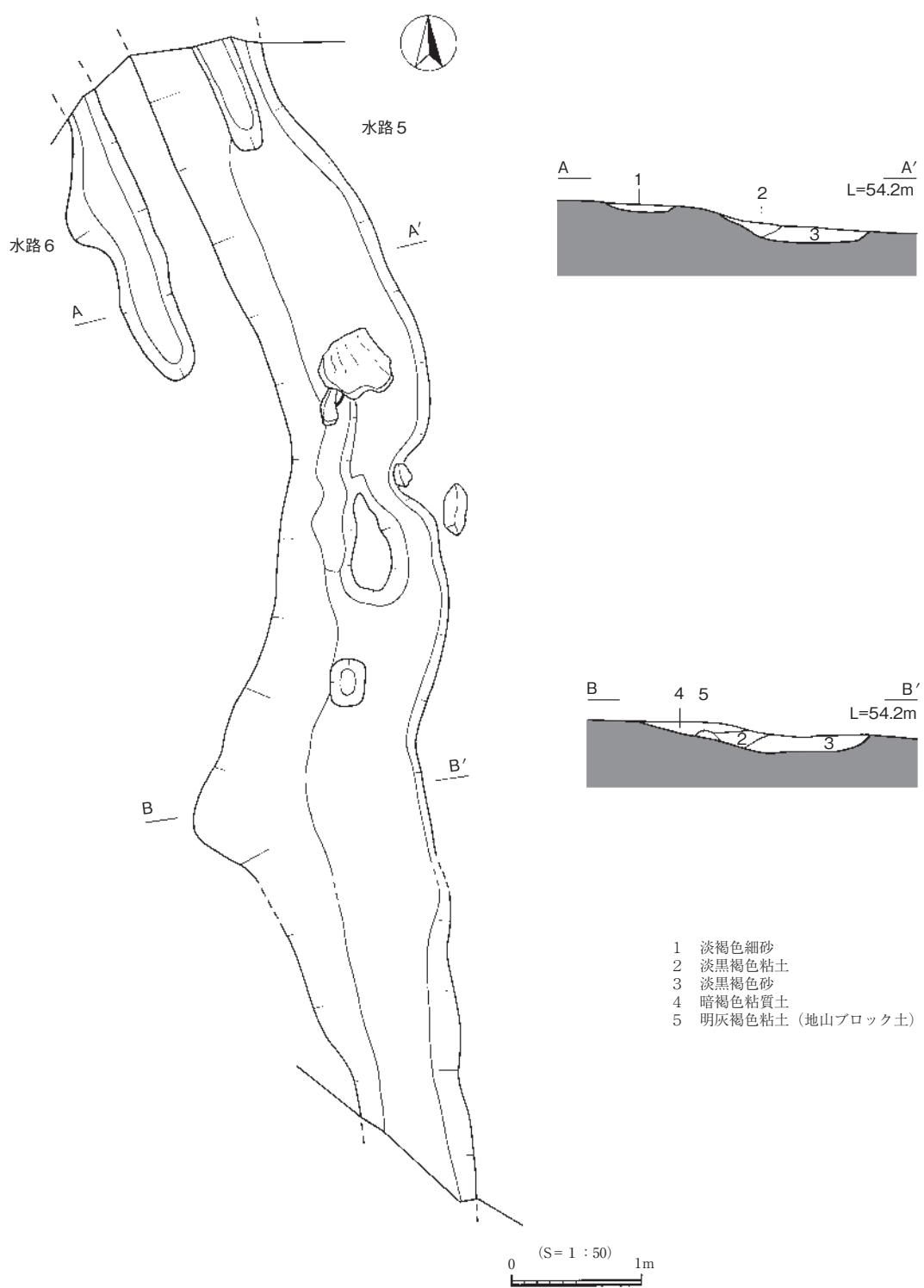
この遺構が人工的に掘削されたものか判断がつかないが、水路の東側が現行の水田域と重なっていることから、水田に伴う用水路として機能していたものと推測される。また、平成22年度に行われた、鳥取県教育文化財団の調査で検出されている水路SD2の延長線上に位置していることから、この水路と同一遺構の可能性が高い。

ここから出土した遺物は、Po. 416が口径19cmの須恵器の鉢で、口縁端部は小さく屈曲する。Po. 417は、底部を糸切調整する土師器の坏で、いわゆる柱状高台を持つタイプである。高台部の直径は4.6cmを測る。Po. 418は轍の羽口先端部で、表面にはガラス化した滓が融着している。この遺構の埋没年代は、Po. 417から平安時代以降と見られる。

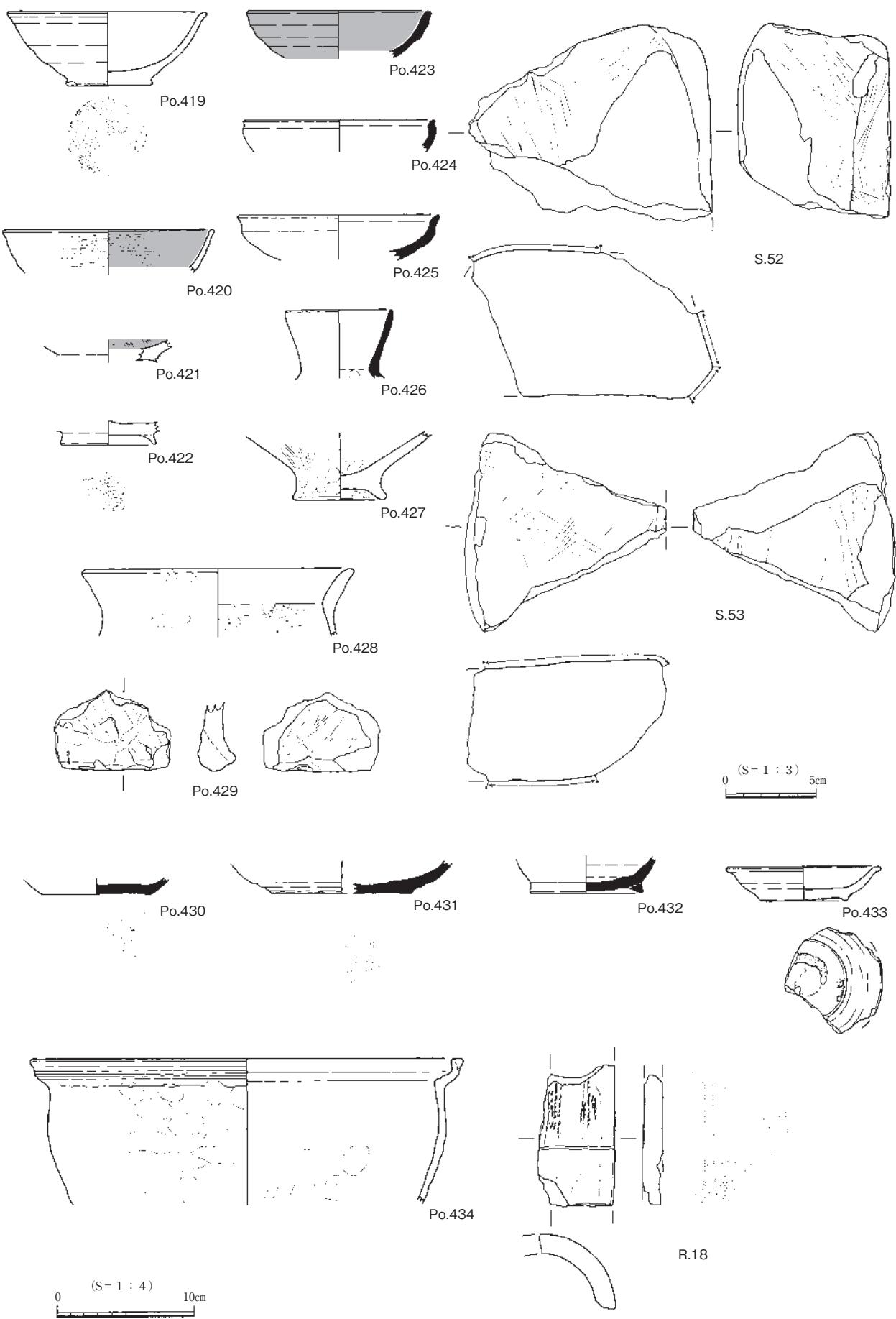
水路6（第52図）

検出した長さ2.3m、幅30～60cm、深さ6cmの水路である。底面のレベルから、南から北へと流れていたものと思われ、遺構内には淡褐色の細砂が堆積していることから、ある程度の水流のある水路であったと考えられる。また、遺構の上面はかなり削平されており、全体的に遺構の残りが悪いため、どのような機能を持った水路か断定できないが、隣接する水路5と同様の水田耕作に伴う水路であろうか。

この遺構内からは、遺物は出土しなかった。遺構の切り合いもないため、東側を流れる水路5との時期的な前後関係は不明である。



第52図 水路5・6 遺構図・遺物図



第53図 Ⅲ層・その他の層 出土遺物図

第14節 3区の包含層出土遺物

Po. 419は土師器の坏身で、底部に糸切の痕跡が良好に残る。Po. 420は黒色土器の碗で、内外面に横位方向のヘラミガキの痕跡が残る。Po. 421は黒色土器の碗底部で、内面は黒化し、ヘラミガキの痕跡が残る。底部の高台は欠損しているが、外方に張り出すタイプのものと考えられる。Po. 422は底部を糸切した後に高台を貼り付ける土師器の坏で、内面の色調は薄くなっているが、見込みにヘラミガキ調整が施されていることから黒色土器と見られる。Po. 423は復元口径13cmの坏口縁部で、胎土は白色の精良な土を用いており、表面は燻されて瓦質化している。外見的には、いわゆる瓦器碗に類似するものであるが、ロクロ整形によって形作られており、内外面ともヘラミガキ調整が行われていないなど、一般的に知られている瓦器碗とは様相を異にしている。Po. 424・425は口縁端部がくびれる坏である。Po. 426は須恵器の壺の口縁部片で、提瓶か平瓶の口縁部と見られる。Po. 427は高台の付く弥生土器の壺底部と見られる。Po. 428は土師器の甕で、外面に平行タタキの痕跡が残る。Po. 429は移動式カマドの底部で、内面は黒化している。Po. 430は底部に糸切りの痕跡が残る須恵器の坏。Po. 431は底部を静止糸切りする坏で、底径が10cmもあることから大型品と考えられる。Po. 432は、高台の付く須恵器の坏である。Po. 433は口径11cmの瀬戸の小皿で、高台内に焼台が融着した痕跡を残す。Po. 434は口縁部が受け口状となる土師器の鍋で、外面にススが付着していることから煮炊具として使用されたものと考えられる。R. 18は須恵質の丸瓦の破片で、内面には布目の痕跡が残る。S. 52・53は砥石として使用された礫で、同一の石材であることから、同一個体と考えられる。

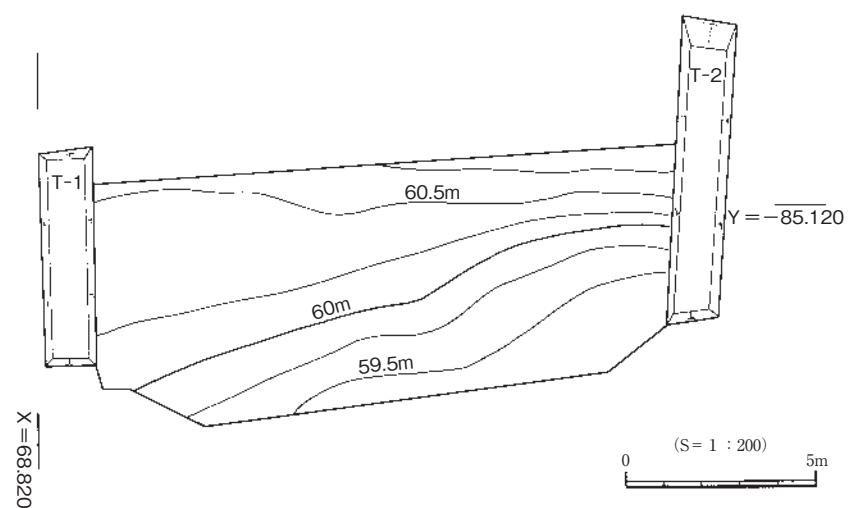
第15節 4区の調査

4区は、1区の西側、農道を挟んだ丘陵部の斜面に位置しており、調査区の北側は平成21年に鳥取県教育文化財団によって調査された坂長武寿羅遺跡が所在している。

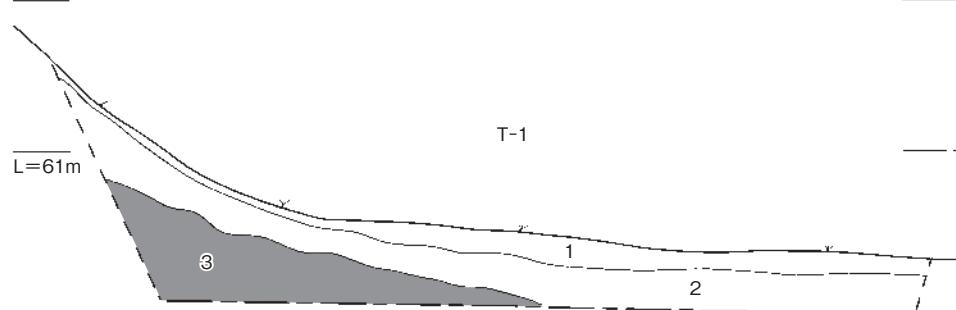
現地の地形は、標高60.5m付近から幅4～5m程度の平坦面が南北に続いており、道路やテラス状の遺構が存在する可能性が考えられた。

調査では、最初に調査区の南北に2本のトレーナーを設定して土層観察を行ったが、明瞭な遺構面は存在せず、現代の造成によって削られた土砂がテラス状に堆積しているものと考えられた。

ここから出土した遺物は、近世末から近代の陶磁器が2点だけである。Po. 435は青磁釉を掛ける在地産の陶器と見られる鉢で、近代のものと考えられる。Po. 436は胎土の特徴から瀬戸産と見られる磁器で、端反碗の口縁部である。19世紀中頃以降のものと考えられる。



L = 62m



L = 63m

- 1 淡黑褐色砂質土（表土）
2 暗茶灰色粘質土
3 明茶褐色粘土（地山）

L = 61m

- 1 淡赤褐色砂質土（造成土）
2 淡黑褐色砂質土（造成土）
3 淡黑灰色砂質土
4 明赤褐色粘土（地山）

T-2

0 (S = 1 : 50) 1m

0 (S = 1 : 4) 10cm

Po.435

Po.436

第54図 4区 平・断面図・出土遺物図

第4章 坂長尻田平遺跡1区の調査成果

第1節 調査の方法

調査区の設定方法は、平成22年度に鳥取県教育文化財団によって実施された、坂長尻田平遺跡2区のグリッドを踏襲し、北から南へアルファベット表記、西から東への数字表記のグリッドを設定し、主に包含層からの遺物の取り上げに利用した（第55図）。

発掘調査は、重機を用いて近現代の表土層を除去した後、人力にて包含層を掘削して遺構を検出した。また、排土の処理は一輪車と人力により運搬し、重機により調査区外へ排出した。人力による包含層の掘り下げには、鍬とジョレンを用い、遺構の精査にはガリと移植鋤を使用した。

現場での遺物の取り上げは、遺物取上台帳を作成し、出土地点と層位を記録して管理した。検出した遺構名については、調査段階は仮の略号を用いているが、本報告作成段階で変更している。

検出した遺構、遺物の記録には平板とトータルステーションを用い、座標値を記録した。また、写真撮影は、現地では35mmの一眼レフカメラを使用し、白黒、リバーサルフィルムで撮影した。また、サブカメラとしてカラーフィルム、デジタルカメラも使用した。遺物撮影は、一眼レフのデジタルカメラを使用したほか、4×5インチの白黒フィルムとリバーサルフィルムによる撮影も行っている。

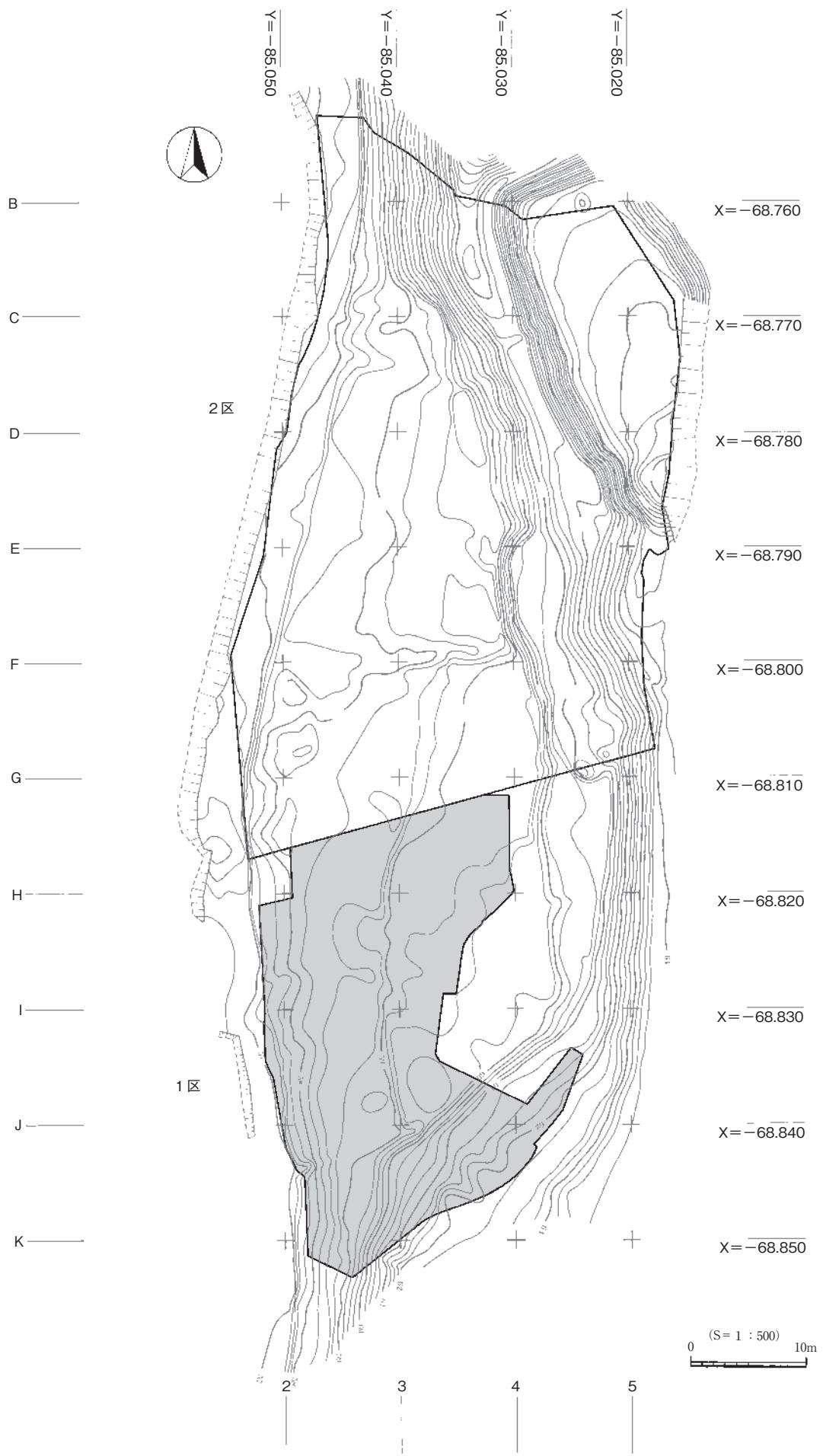
第2節 遺跡の立地と層位

坂長尻田平遺跡1区は、越敷山から延びる丘陵尾根部とその西側へ傾斜する斜面部に位置している。丘陵部では、標高61m付近で平坦地形が認められるが、そこから西側の傾斜面から坂長ブジラ遺跡1区にかけての範囲では緩やかな斜面が続く。現状は草原と化していたが、調査前には耕作地として長らく利用されていたと考えられる。

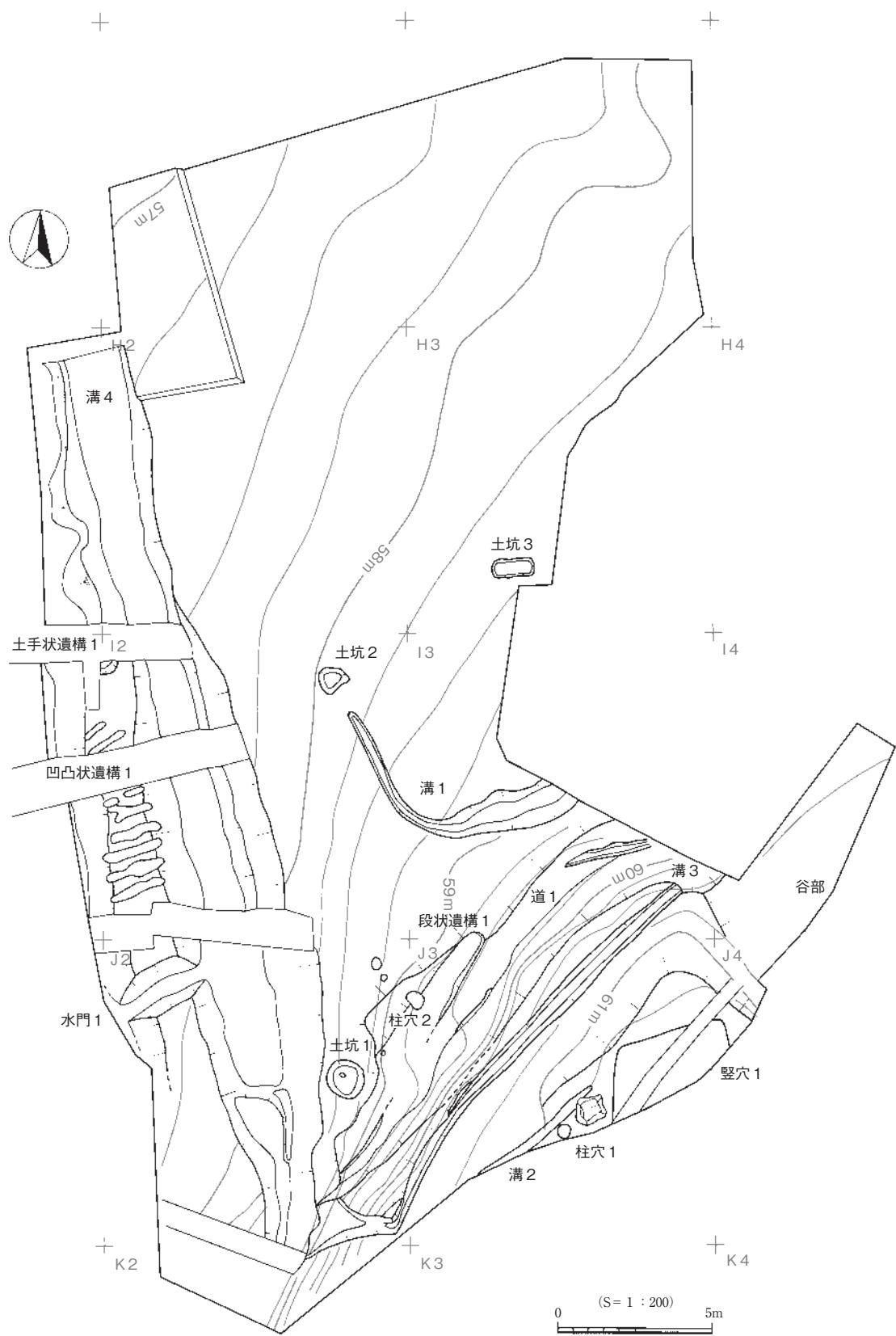
平成22年度に鳥取県教育文化財団によって実施された坂長尻田平遺跡2区の調査では、合計3面の遺構面が検出されていたが、今回の調査では1面しか見つけることが出来なかった。

遺跡の層位は、丘陵部で表土層の直下にクロボクと同様の黒色土層が厚く堆積し、ロームを基盤とする地山に至る。特に丘陵部の北東に位置している谷部の調査では、表土層の下に厚さ1.5mにわたって黒色土が堆積しており、この黒色土中から土師器の破片が多数出土した。調査区の大半を占める緩斜面では、表土層の下に堆積している黒色土層の直下に、Hラインよりも南側ではロームと砂礫層を基盤とする地山がベースとなっている。

Hラインよりも北側の地区では、黒色土層の直下に黒褐色土層を基盤とする面があり、この面が鳥取県教育文化財団の調査で見つかった第2遺構面に相当する面と考えられる。この緩斜面の包含層からは遺物の出土量は少なく、県財団の調査でも指摘されている通り、全体的に遺構の密度が薄くなる地点と考えられる。



第55図 坂長尻田平遺跡調査前測量図及び調査区割図



第56図 坂長尻田平遺跡 1区 遺構分布図

第3節 検出した遺構と遺物

土坑1（第57図）

土坑1は、段状遺構1と溝4に挟まれた斜面部で検出した。直径1.2mほどの円形土坑で、検出した面からの深さは45cmである。土坑の中央からやや北寄りに直径20cm、深さ15cmほどの小穴がある。

形態的な特徴から陥穴の可能性が考えられるが、単独で陥穴が分布する事例は珍しいことから、断定することが出来ない。この遺構内からの出土遺物は見られなかったため、遺構の時期の特定は困難である。

土坑2（第57図）

土坑2は、溝1の北西部の延長線上に位置している。外形はややいびつな三角形状を呈しており、東西に1.2m、南北0.9m、深さは40cmである。検出時には、長さ85cm、幅45cmの礫が水平に置かれた状態であった。また、大石の下には小さな角礫が根固め状に敷き詰められている。こうした状況から、検出した当初は礎石状の遺構ではないかと考えられたが、検出した土坑がこれ1基のみであることから建物に伴う遺構ではないと判断した。

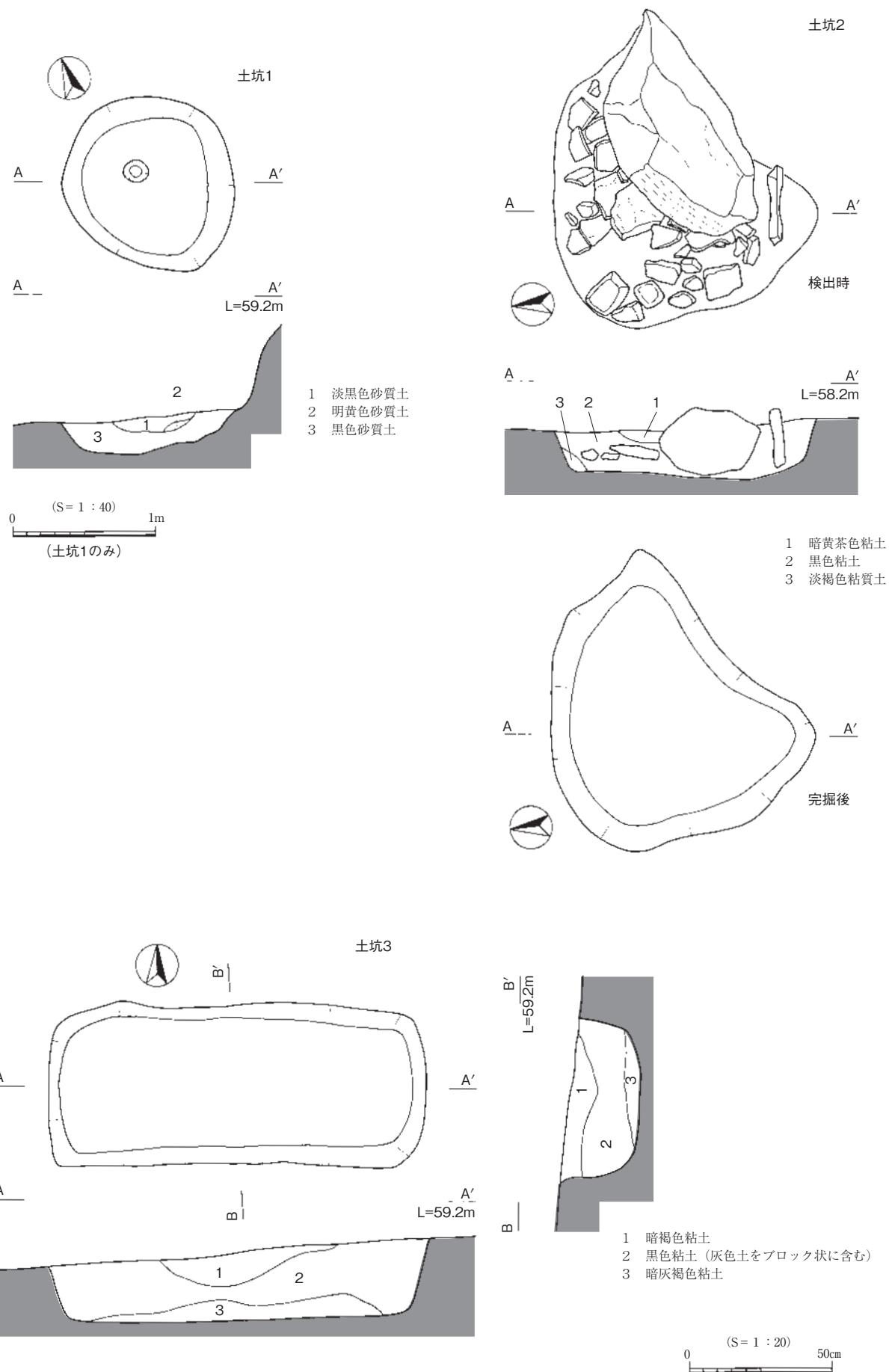
この遺構に伴う出土遺物は見られなかったため、遺構の年代については不明である。

土坑3（第57図）

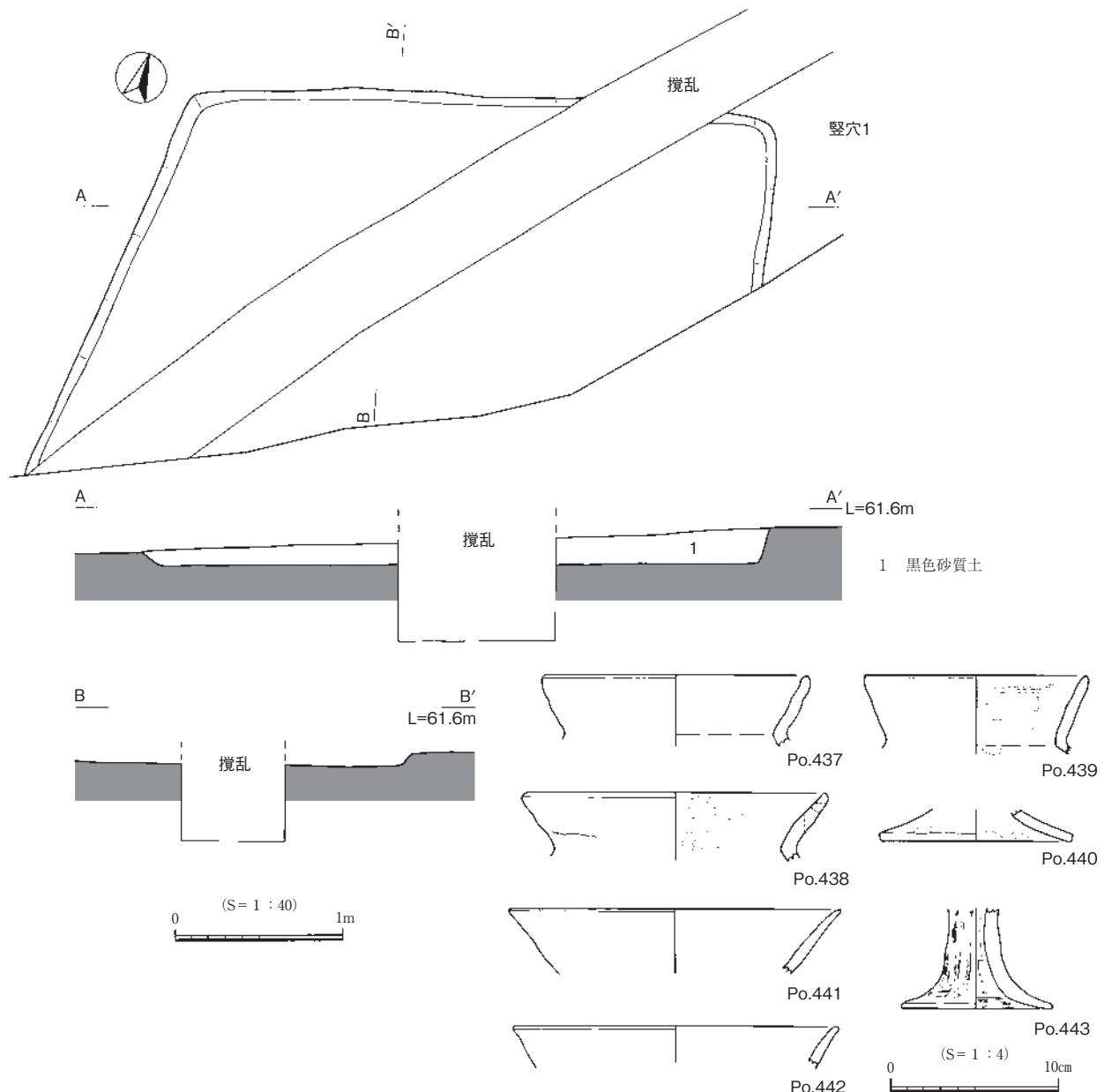
調査区の中央部より東側で検出した、長さ1.35m、幅55cm、深さ25cmの長方形の土坑である。

埋土は3層に分かれており、形態的な特徴から土壙墓などの埋葬施設の可能性が考えられるが、単独での検出であることから、ここでは性格不明の遺構とした。ただし、鳥取県教育文化財団の調査では、この土坑の北15mの地点で中世の掘立柱建物が確認されていることから、屋敷墓の可能性も否定できない。

この遺構に伴う出土遺物は見られなかったため、遺構の年代については不明である。



第57図 土坑 1～3 平・断面図

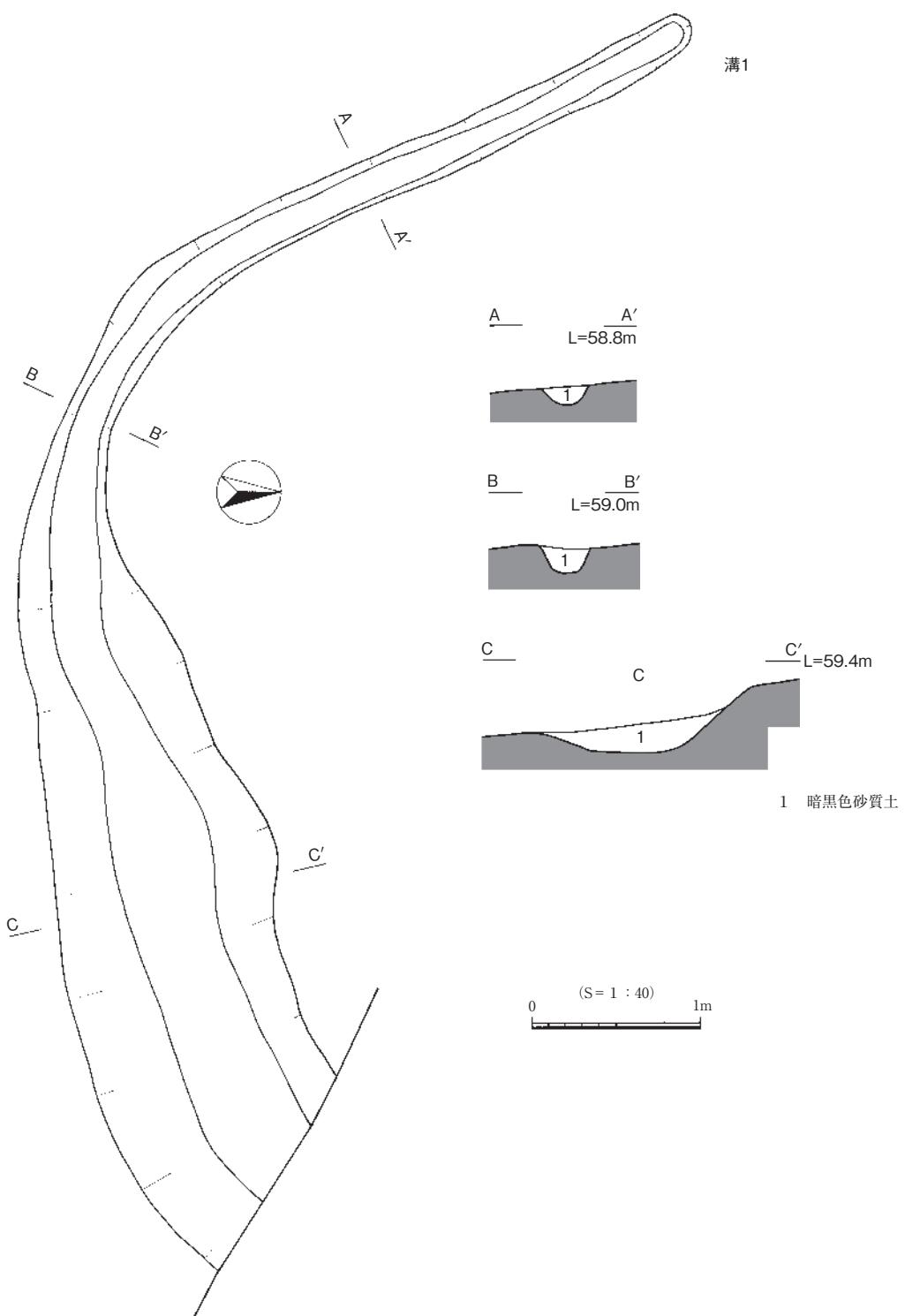


第58図 豊穴1 平・断面図・遺物図

豊穴1（第58図）

豊穴1は、調査区の南東部、丘陵平坦面で検出した方形の土坑である。遺構の規模は、東西4m、南北2m以上、深さは20cmあり、埋土は黒色砂質土一層のみである。遺構内に柱穴が見られないことから、建物に伴う遺構ではないと考えられる。

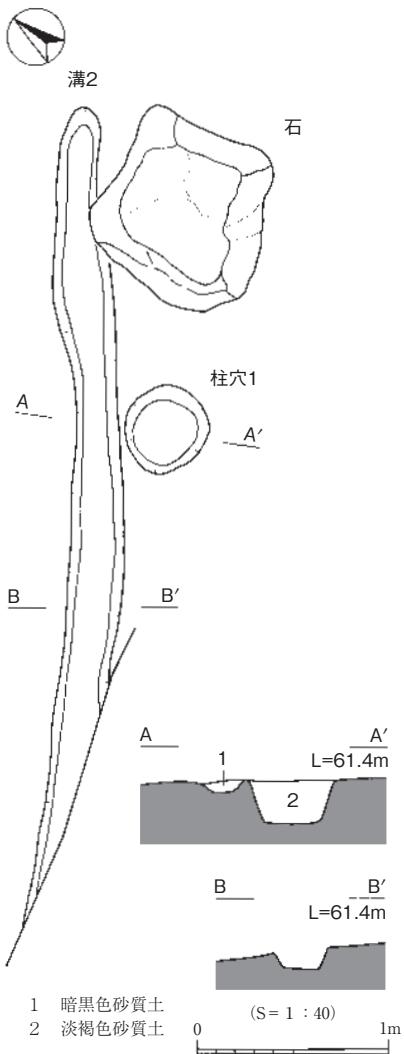
この遺構からの出土遺物は、Po.437～440が埋土中から、Po.441～443が擾乱土中から出土している。Po.437～439は口縁部が「く」字形を呈する甕の口縁部である。Po.438・439は口縁部の内面をヨコハケ調整している。Po.440は土師器の高坏脚端部である。Po.441は口縁部が外方に向かって直線的に伸びる土師器の高坏で、Po.442も同様の器形か。Po.443は外面をタテハケ、内面をケズリ後ヨコハケ調整する高坏の脚部である。この遺構の年代は、出土した遺物から古墳時代中期以降に埋没したものと考えられる。



第59図 溝1 平・断面図

溝1（第59図）

調査区の中央、東寄りの地点で検出した溝状の遺構である。東から西北方向へ「L」字形に屈曲しており、この方向に沿って水が流れていたものと考えられる。検出した溝の長さは9mで、西へ流れる方向では溝幅1.3m、深さ30cm程度、西北方向では幅30cm、深さ10~20cmで、急激に規模が小さくなっている。この溝1の年代については、遺構内からの出土遺物が見られなかったため、不明である。



第60図 溝2・柱穴1
平・断面図

溝2（第60図）

溝2は、標高61mの丘陵部平坦地の西端で検出した。遺構の大半は調査区外に伸びるが、検出した長さ4.5m、幅20~30cm、深さ10cmで、丘陵端部の地形に沿って、ほぼ一直線に伸びる溝である。溝の東南端には平坦面を持つ四角い大石があり、当初は礎石建物の痕跡かと考えたが、石を置くための掘形が見られないことから、建物に伴う石ではないと判断した。

柱穴1（第60図）

柱穴1は、溝2の南側に掘られた直径45cm、深さ20cmの円形土坑である。遺構の埋土は、淡褐色砂質土一層のみであり、柱の痕跡は見られない。また、底面にも柱当たりの痕跡はなかった。柱穴とするにはやや浅すぎる上に、これに対応する柱穴を検出することが出来なかったが、調査区外に存在する可能性があるため、ここでは柱穴とした。この遺構の年代については、遺構に伴う出土遺物が無かつたため不明である。

溝3（第61図）

溝3は丘陵の平坦部端に位置しており、西側の一部は道路1によって削られた部分もある。検出した長さは15mあり、北側は道路1によって削られているものと考えられる。溝の底面は、南から北へ向かって緩やかに下っており、この方向に沿って水が流れていたものと考えられる。また、溝の南端は西へ屈曲しながら途切れており、この下の溝4の方向へと流れよう

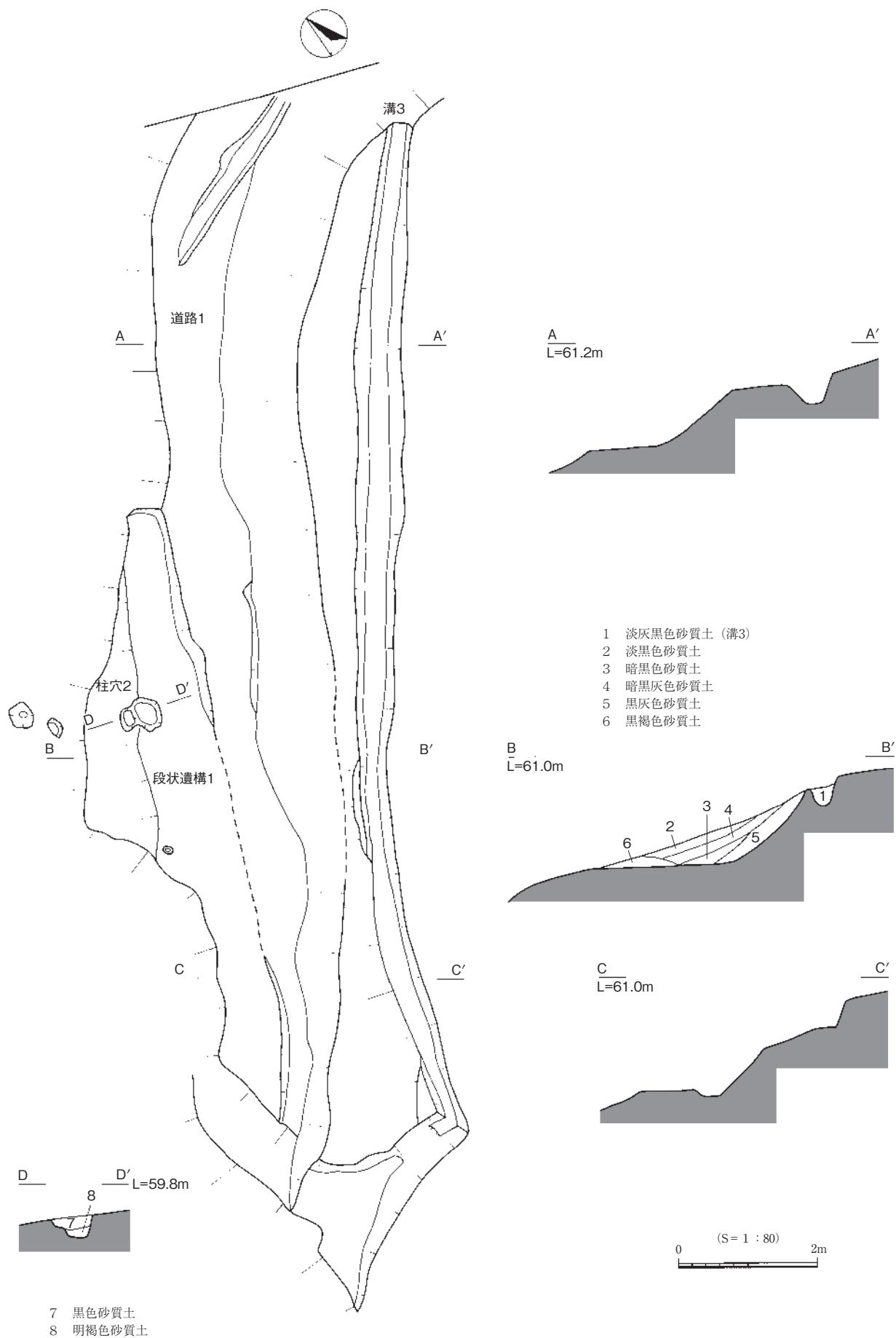
になっている。この遺構の年代については、出土した遺物が無いため不明だが、道路1によって切られていることから、近世後期以前には埋没していたものと考えられる。

道路1（第61図）

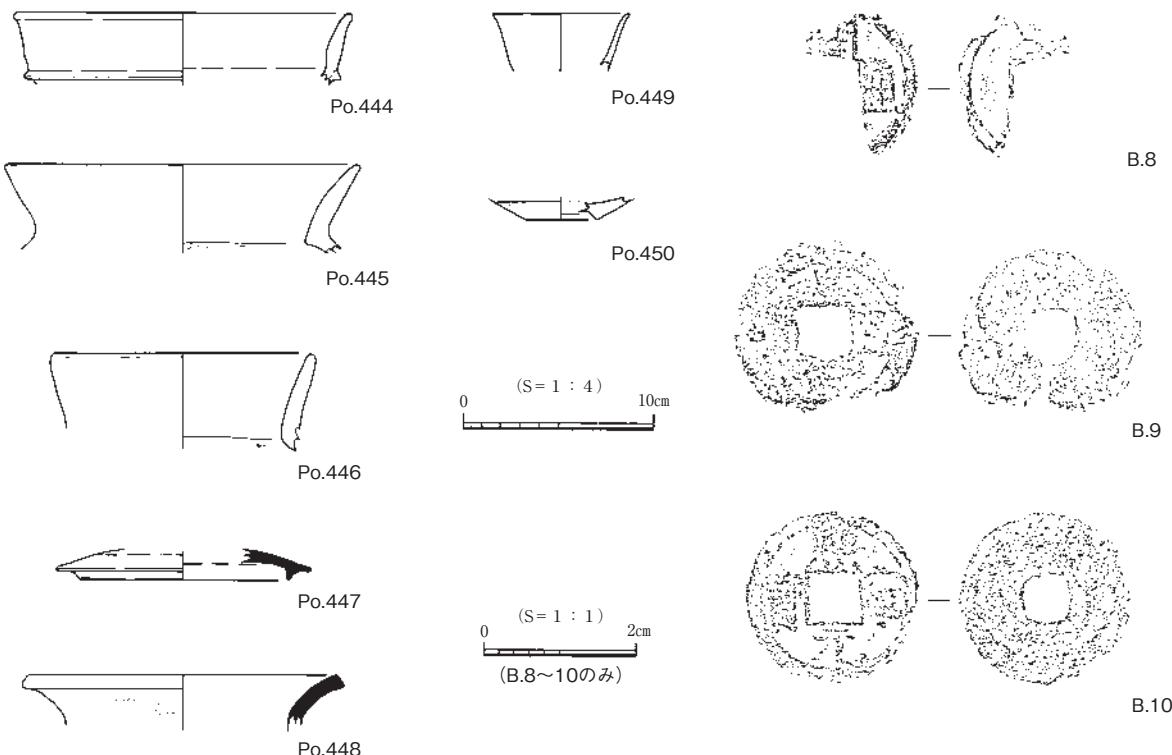
道路1は、南西から北東へ向かってスロープ状に伸びる遺構である。検出できた長さは15m、幅は狭い所で40cm、広い所で1.2m程度であるが、南側では一部溝状に掘り込まれた地点があり、断面観察では段状遺構1を掘り込んで作られていることが分かる。また、北側には溝状の搅乱が入るが、地形的に見て、道路はここから東へ向かって屈曲すると考えられる。

ここから出土した遺物は、Po. 444・445は土師器の甕。Po. 446は土師器の壺。Po. 447は須恵器の蓋で、壺の蓋か。Po. 448は外面にハケ目の残る須恵器壺。Po. 449は口縁部が外反する伊万里焼の小杯である。Po. 450は底部を碁笥底状に削り、見込みを丸く釉剥ぎする青花皿で、漳州窯系の製品と考えられる。

この遺構が埋没した年代は、出土した遺物から18世紀以降と考えられる。



第61図 溝3・道路1・段状遺構1・柱穴2 平・断面図



第62図 道路1・段状遺構1・柱穴2 出土遺物図

段状遺構1（第61図）

溝4の東、標高59.5m付近に位置している。現存する長さ9m、幅1.2mの平坦地である。明確な遺構については、柱穴2があるのみで、それ以外の遺構については分からなかった。

柱穴2（第61図）

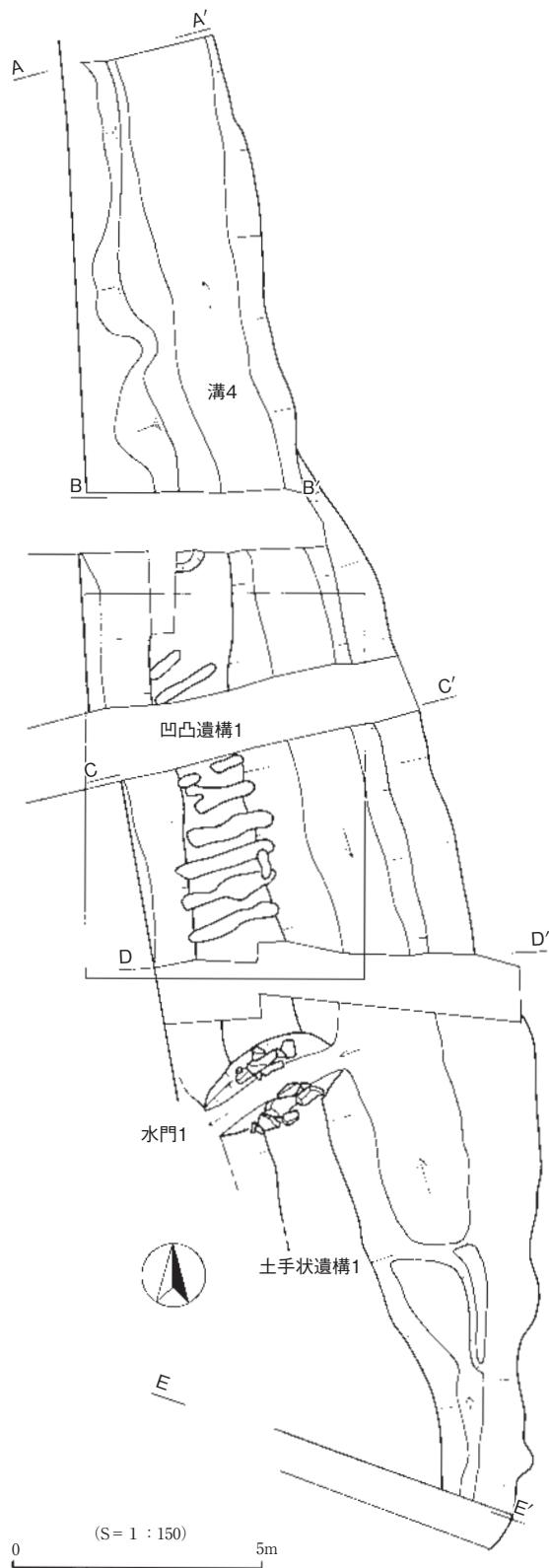
段状遺構1で見つかった、直径40cm、深さ30cmの円形土坑である。柱痕を見つけることは出来なかつたが、埋土は二層に分かれており、この上層から3枚の銅錢が出土した。この遺構に対応する柱穴が見つからなかつたため、建物跡かどうかは断定できないが、地鎮具として埋納されたものか。

この柱穴内から出土した遺物は、銅錢3枚のみである。B.8は半分以上が欠損部しているため、「□□通□」しか読み取れない。初字が「門」に見えることから、「開元通寶」か。B.9は「皇宋通寶」（北宋・1038年初鑄）。B.10は「熙寧元寶」（北宋・1068年初鑄）である。

この遺構の年代は、出土した銅錢から11世紀後半以降のものと考えられる。

溝4（第63・64図）

溝4は、調査区の西側で検出した、長さ30m、幅4m、深さ0.8mの溝状遺構である。水門1や土手状遺構と一連の遺構と考えられる。溝4の埋土中から出土した遺物は、Po. 451は土師器の壺口縁部片。Po. 425が土師器の高壺口縁部。Po. 453が須恵器の甕。Po. 454が底部を糸切する須恵器の壺底部である。



第63図 溝4・土手状遺構1・凹凸遺構1・
水門1 平面図

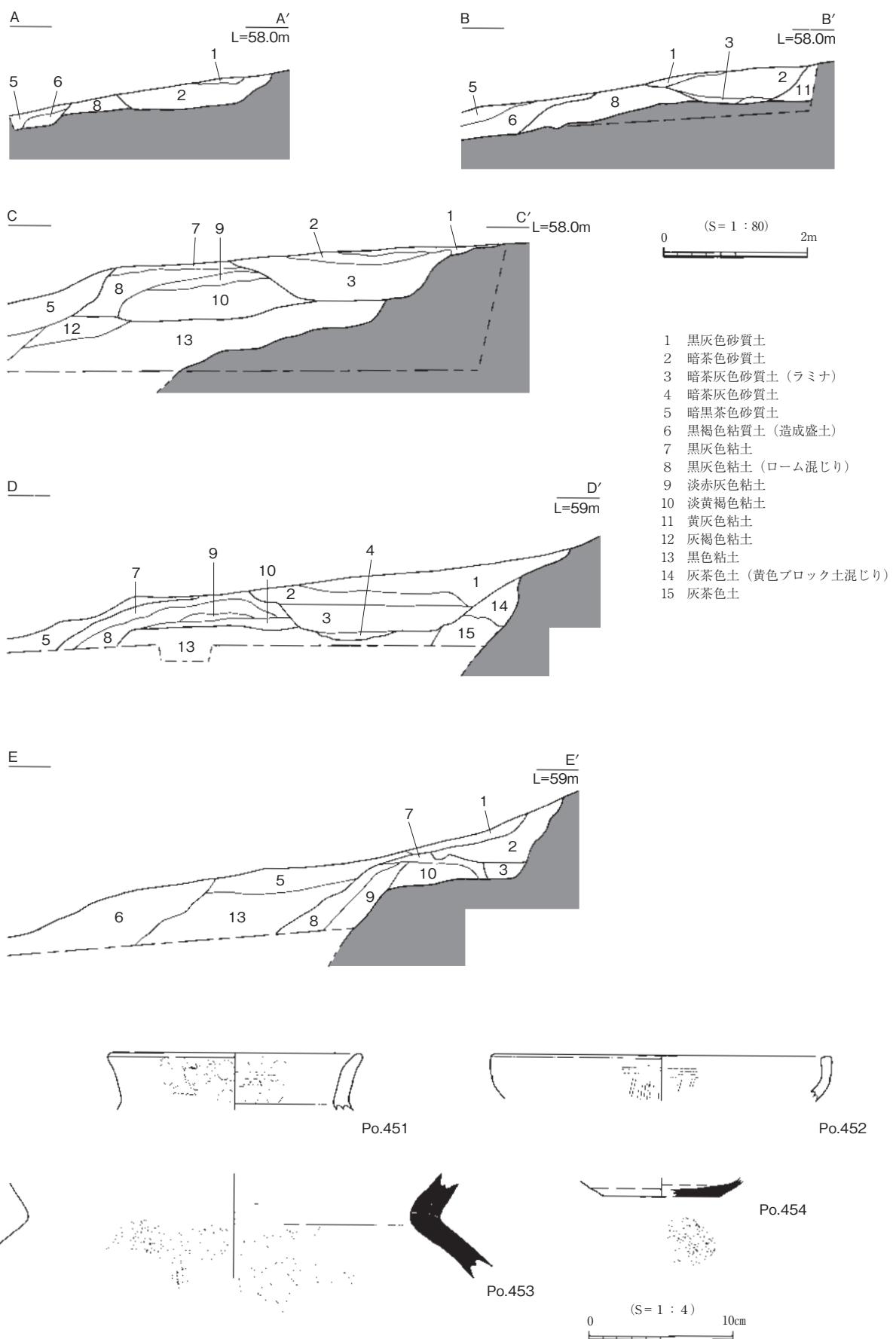
土手状遺構1（第63・64図）

土手状遺構1は、溝4の西側に構築された堤防状の遺構で、北側は上面が大きく削平されていた。土手の途中に凹凸状遺構が掘り込まれた部分と、水門1によって途切れた部分があるが、概ね30m程の長さを確認できた。土手の幅は底面で3m、上面で1.5~2mあり、断面形はカマボコ状を呈する。この土手は盛土によって構築されており、盛土中からの遺物の出土は見られなかったが、土手の上面から陶器片などが出土した。また、水門1の南側には小礫が溝状に埋め込まれた部分があり、道路として利用されていたものと考えられる。

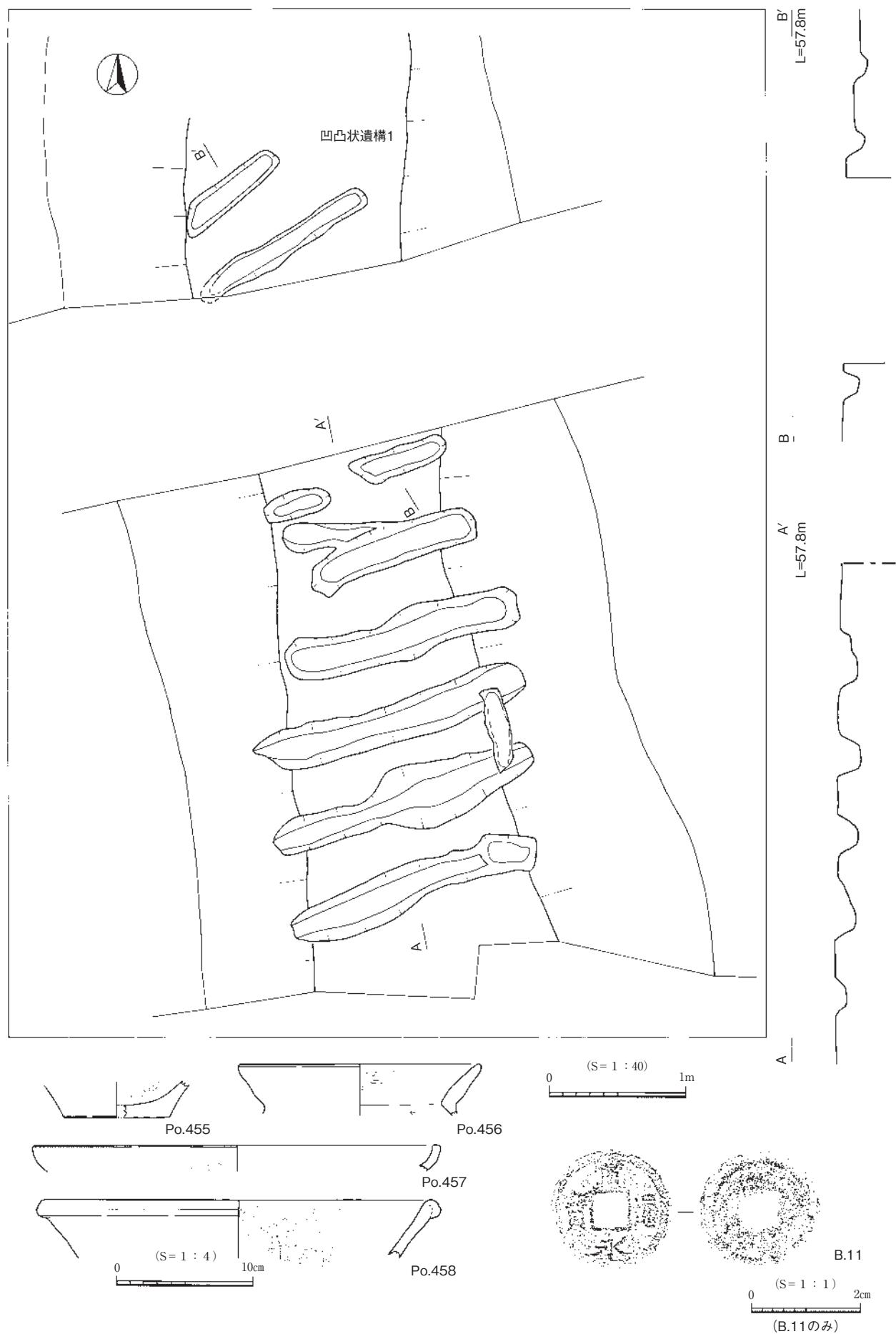
この遺構に伴う遺物は、Po. 455は弥生土器の底部である。Po. 456は口縁部の内面をハケ調整する土師器の甕。Po. 457は土師器の鍋の口縁部片である。Po. 458は口縁端部を玉縁状に肥厚させる陶器の擂鉢。B. 11は「寛永通宝」である。

凹凸状遺構1（第63・65図）

土手状遺構の上面に、長さ5.5mにわたって掘り込まれた凹凸状の遺構である。凹凸部の長さは、0.5~2mと一定していないが、凹凸は1m前後の間隔で掘り込まれている。この遺構の埋土は、黄褐色のローム層を使用しており、硬くしまった状態であったことから、地固めの用途で造られたものと考えられる。



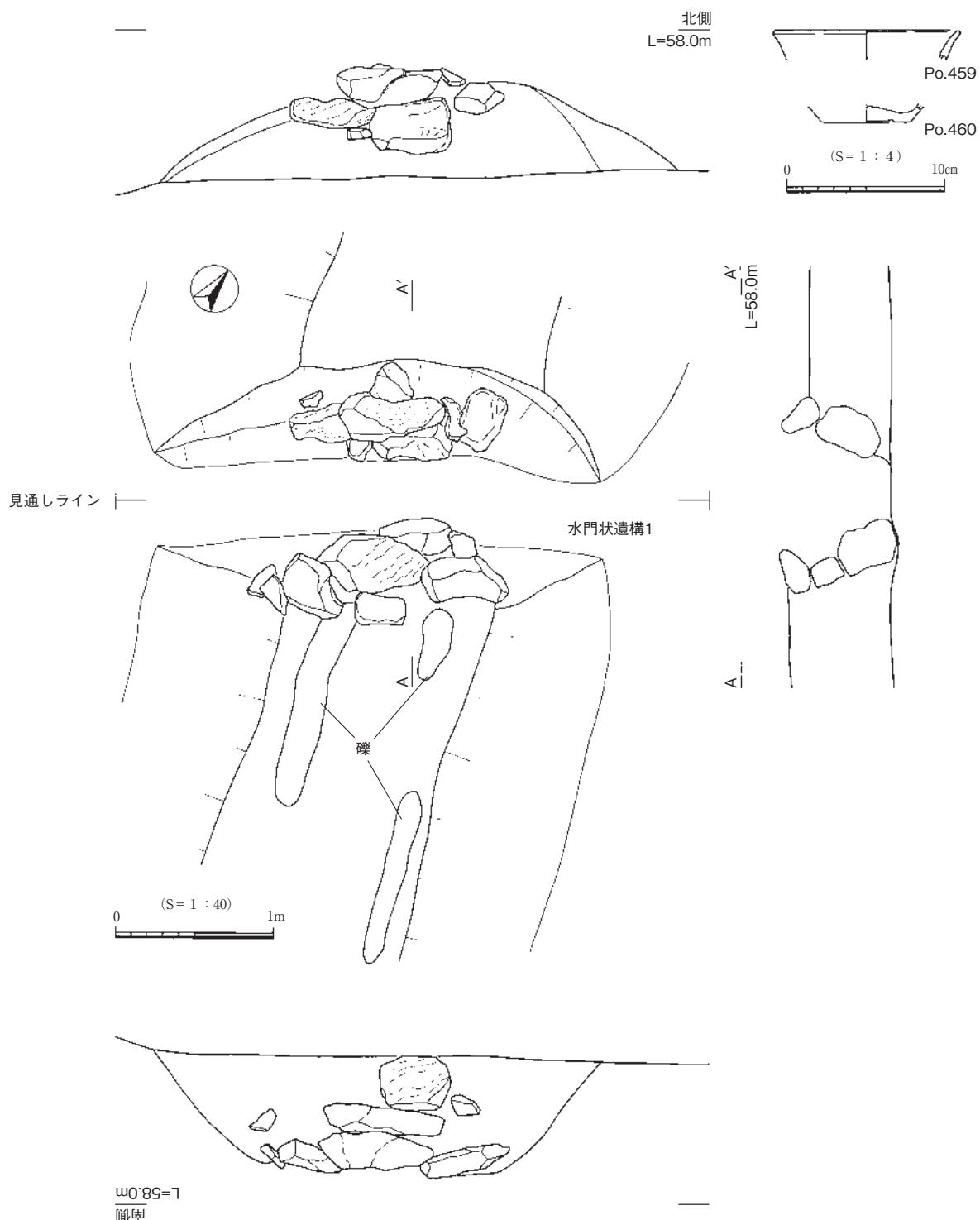
第64図 溝4・土手状遺構1 断面図・遺物図



第65図 凸状遺構1 平・断面図・遺物図

水門1（第63・66図）

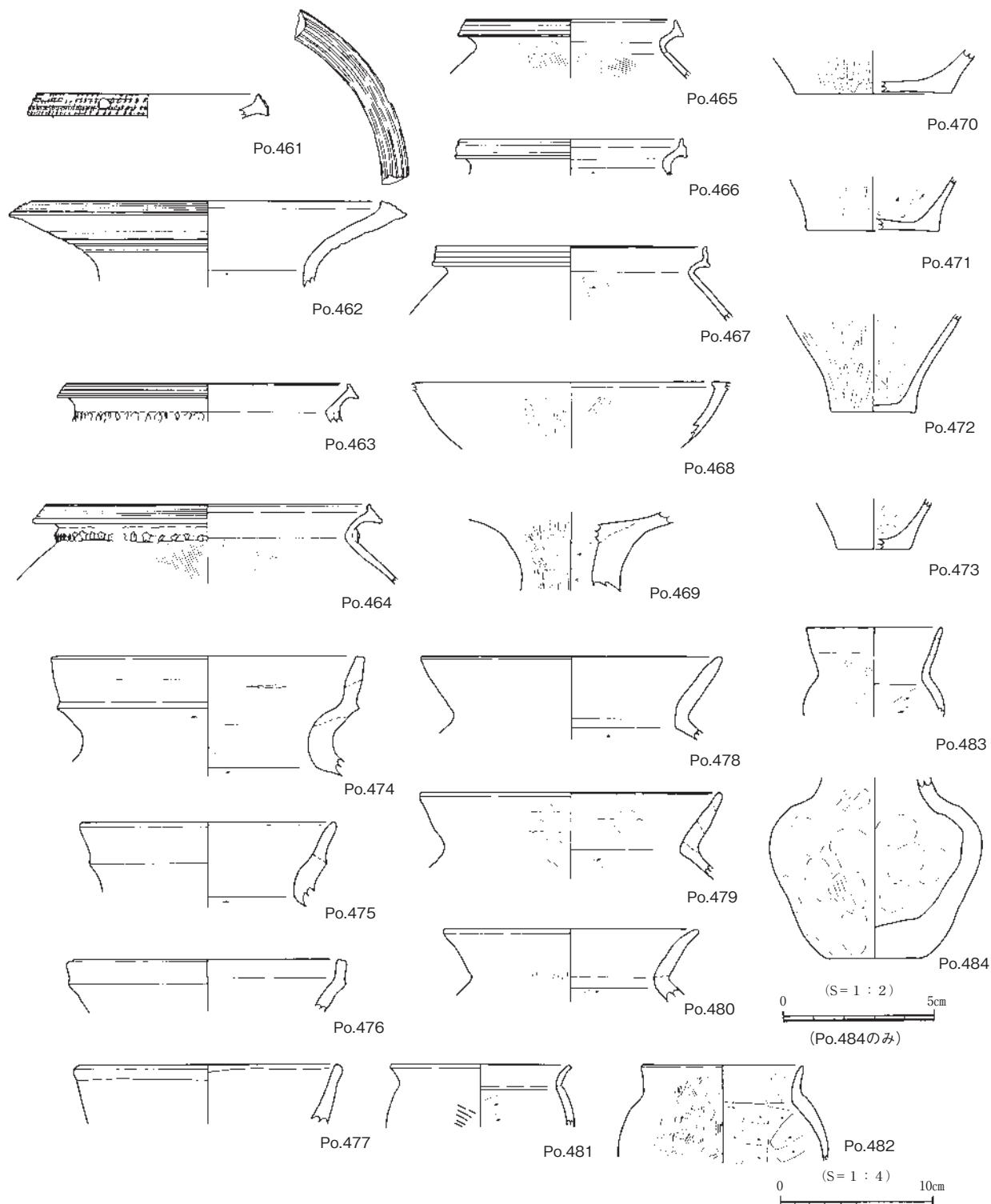
溝4から土手状遺構1を貫く石組の護岸である。石は長さ80cm程の長方形石材を2段から3段に分けて積み上げられている。また、水門の全面を石で護岸するような工作は見られず、土手の中心部に向かって石を積み上げている。このような状況から、水門で切られた部分の上に、板材を渡して橋にした際の土固めとして設置された可能性が高いと考えられる。この遺構に伴う遺物は、Po.459は土師器の坏口縁部。Po.460は高台を丸く削る備前焼壺の底部片である。



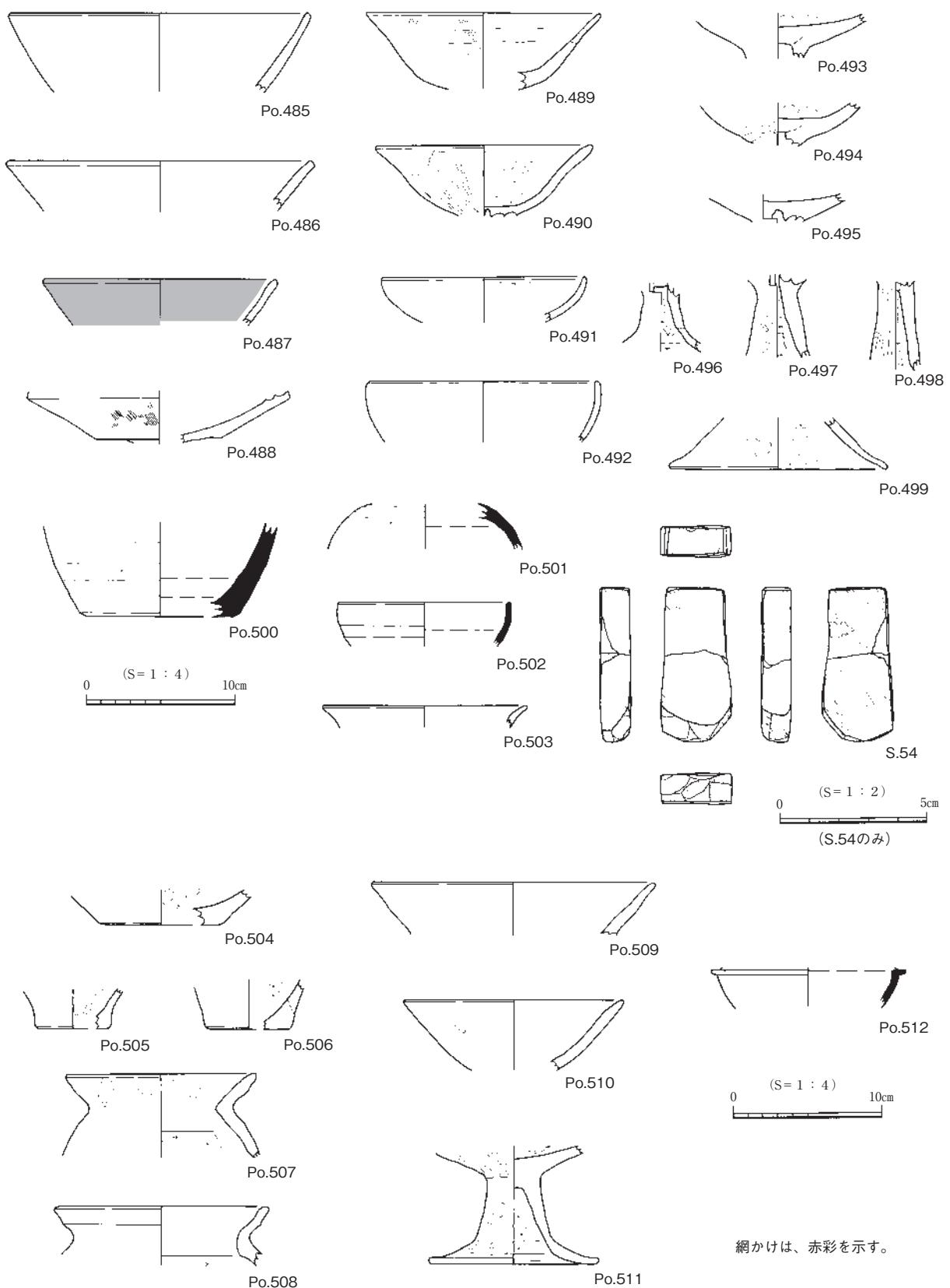
第66図 水門1 平・立面図・遺物図

第4節 包含層出土遺物

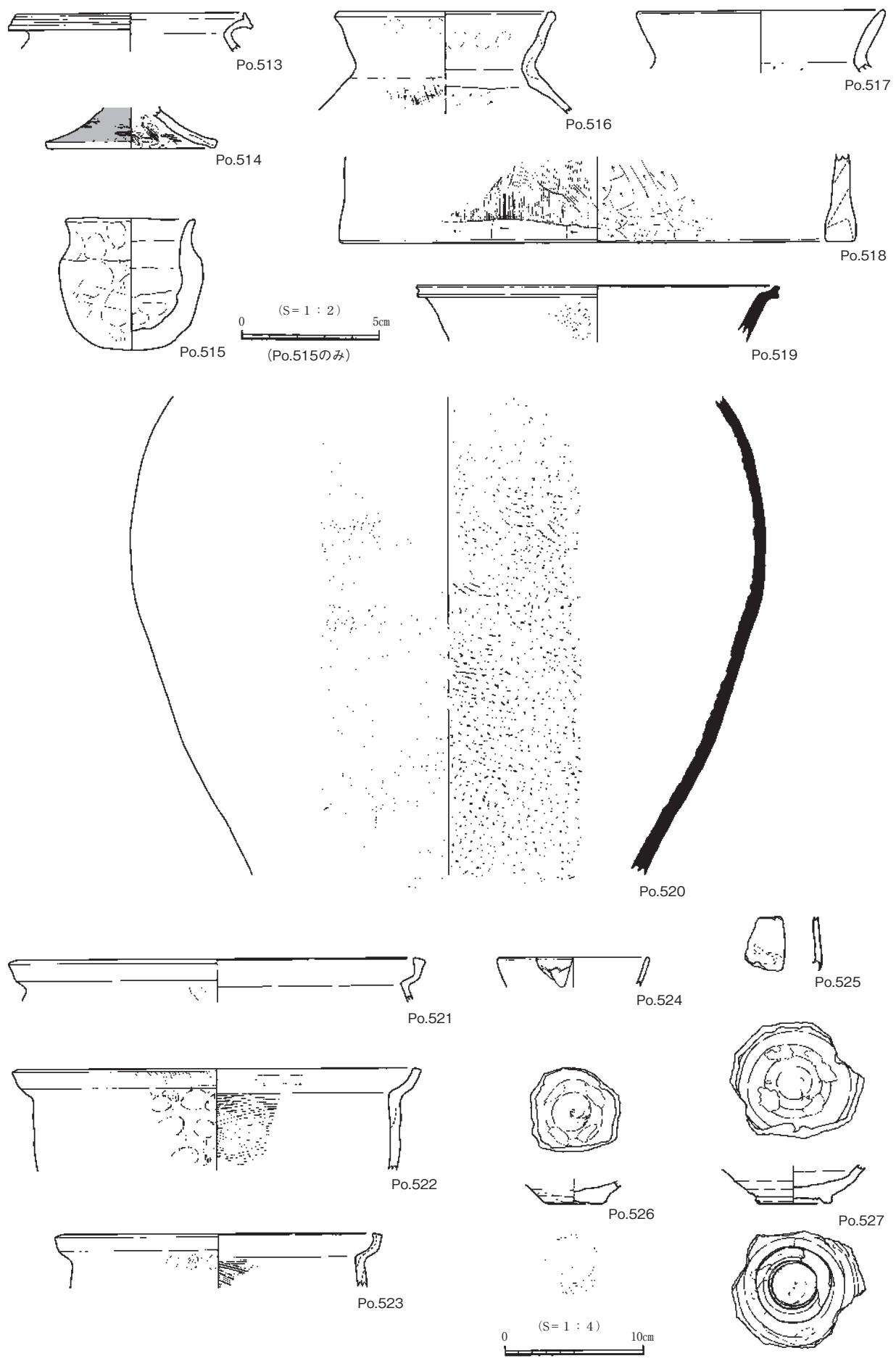
包含層から出土した遺物は、平坦地の黒色土から出土したものと、谷部の黒色土から出土したもの、表土層から出土したものの三種に大別できる。年代的に見て、黒色土層からは弥生時代中期から古墳時代後期までであるが、古墳時代前期の資料はほとんど含まれていない。表土層からは弥生時代中期から近代までであるが、中世後半から近世前期の遺物が目立っている。



第67図 黒色土層出土遺物図①



第68図 黒色土層出土遺物図②



第69図 表土層出土遺物図①

平坦地の黒色土出土遺物（第67・68図、Po. 461～Po. 503、S. 48）

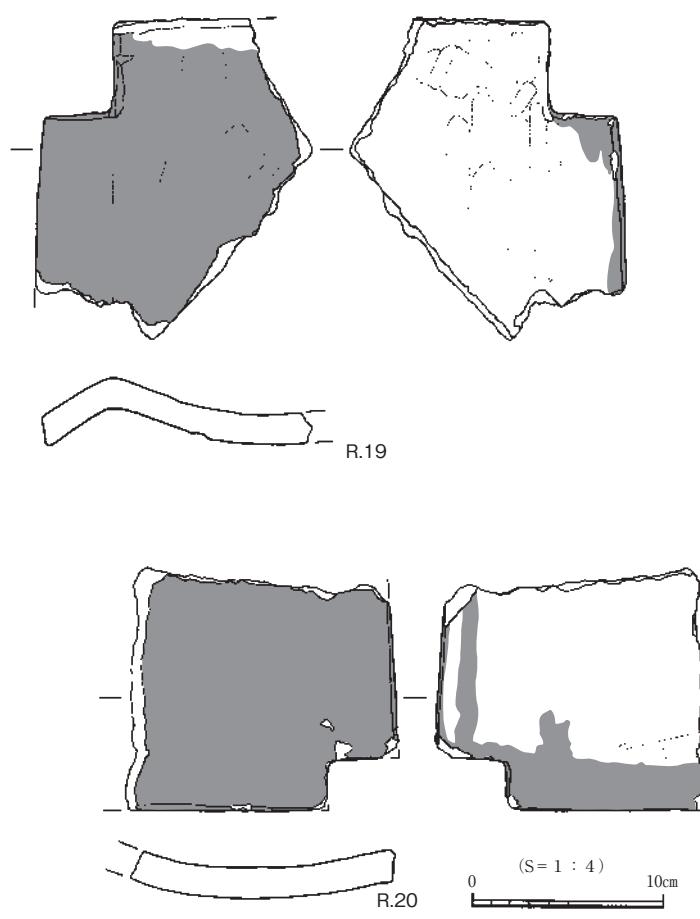
Po. 461は弥生土器の壺口縁部である。Po. 462は口縁部がラッパ状に大きく広がる壺で、口縁端部に凹線紋、口縁直下にも凹線が巡る。Po. 463～467は弥生土器の甕である。Po. 468は高坏の碗部で口縁端部が水平方向に伸びるタイプである。Po. 469は高坏の碗と脚の接合部である。粘土板を充填するタイプである。Po. 470～473は弥生土器の底部である。Po. 474・475は土師器の壺口縁部片。Po. 476～482は土師器の甕。Po. 483は小型丸底壺。Po. 484はてづくねで整形された小型壺である。Po. 485～499は土師器の高坏である。Po. 500は須恵器の壺底部。Po. 501は須恵器の坏蓋。Po. 502は須恵器の坏身口縁部。Po. 503は白色の胎土でやや黒化している。土師器の坏口縁部として実測したが、屈曲する角度がきついため、高台坏の脚部の可能性もある。S. 48は長方形の砥石である。

谷部の黒色土出土遺物（第68図、Po. 504～Po. 512）

Po. 504～506は弥生土器の底部である。Po. 507・508は土師器の甕。Po. 509～511は土師器の高坏。Po. 512は須恵器の坏身である。

表土層出土遺物（第69・70図、Po. 513～Po. 527、R. 19・20）

Po. 513は、弥生土器の甕口縁部。Po. 514は高坏の脚部。Po. 515はてづくねの壺。Po. 516は土師器の甕。Po. 518は移動式カマドの底部である。Po. 519は須恵器の甕口縁部。Po. 520は須恵器の甕体部片。Po. 521～523は土師器の鍋。Po. 524は青磁碗。Po. 525は唐津焼の向付か。Po. 526は底部の高台を三日月状に浅く削る唐津焼の皿で、見込みには砂目積みの痕跡が残る。Po. 527も砂目積みの痕跡が残る唐津焼の皿で、口縁部が外方に屈曲するタイプか。R. 19・20は施釉瓦の棧瓦である。



第70図 表土層出土遺物図②

第5章 坂長ブジラ・尻田平遺跡の調査の総括

第1節 遺構の変遷

坂長ブジラ・尻田平遺跡の調査では、弥生時代から近代まで長期間に亘る時期の遺構を検出した。まず、ブジラ遺跡1区では、鳥取県教育文化財団が調査したブジラ遺跡2区の自然河川の南側の延長部を検出した。検出した河川は複数時期の流路が交錯しており、狭小な谷部に川が流れていることを示している。また、河川内から弥生時代中期の遺物が多数出土したことから、この周辺に当該期の集落が存在することは明らかである。そのほかに検出した弥生時代中期の遺構は、3基の貯蔵穴のみであったが、調査区の南側に弥生時代の集落が広がっていると推測される。また、弥生時代後期の遺物は出土量が少なく、古墳時代中期に再び増加することから、集落活動が低下する時期があったことも判明した。

古墳時代中期には、自然河川の埋没後に新たな水路1が形成されており、埋土中から多量の土器が出土した。ここから出土した遺物は完形品に近いものが多く、集落内で使用されたものが一括して廃棄されたものと考えられる。更に、この水路1を被覆するIV-1層からは、祭祀具と見られる鏡形土製品が出土していることから、祭祀に用いられた水路であった可能性も捨てきれない。

平安時代の遺構では、ブジラ3区で水路を検出した。この水路は、ブジラ遺跡2区の調査で検出されたものと同一の水路で、この調査では土馬や木製の形代が出土している。

次に、中世の遺構については明確なものは確認できなかったが、白磁や青磁の破片、青花、瀬戸・美濃系陶器や備前焼など、14世紀から16世紀代の遺物が多数出土していることから、遺跡の周辺において当該期に活発な動きがあったことを窺わせる。本遺跡と同様の地形に立地している坂長第7遺跡では、中世の遺物包含層からプラント・オパールが検出され、中世以降に水田域として利用されていたことが明らかとなっていることから、本遺跡が位置している越敷山北麓から長者原台地の南側にかけて分布する狭小な谷地形を利用した水田が営まれていたのであろう。

近世以降では、ブジラ遺跡の西側に水路2が掘削されており、谷部に位置する水田の用水路と見られる。この水路から出土した遺物から、近世末から近代にかけて利用されたことが窺え、昭和期に行われた水田の構造改善で現行の用水路に付け替えられたと考えられる。一方、尻田平遺跡1区では、近世後半から近代にかけて使用された堤防状の道路と水門を確認した。

第2節 平安時代の土師器壺について

ブジラ遺跡3区の水路3から出土した底部に足高の高台が付く土師器壺は、底部に煤が付着した状態のものが複数見られたことから、天地逆の状態で灯火具に転用されたものであることが判明した。こうした使用例は、米子城跡6遺跡や米子市博労町遺跡から出土したものでも確認されるが、高台の付く土師器壺自体が中世には消滅することから、小形の皿、あるいは灯明皿が出現する以前の灯火具の変遷を考える上で重要な資料と考えられる。古代土器の灯火具としての使用例は、底部を糸切し、口縁端部を屈曲させた小型の須恵器壺の口縁端部に煤の付着したものが時折出土する事例があるが、

灯火具として専用に製作されたものか断定できない。本資料は明らかに転用品として使用されたものであることから、専用の灯火具として製作されたものではないことは明らかである。また、このような転用事例が一般の集落遺跡ではまとまって見られないことから、今回の調査で出土した資料が祭祀などに伴い一括して廃棄されたものである可能性を示唆している。

ところで、今回出土した土師器坏の製作技法を見ると、底部を糸切した後に高台を貼り付け、底部を強く撫でることによって高台が接合されており、底部の中心には糸切の痕跡が明瞭に残るものがある。同時に出土している無高台の坏は、口径、底部径、器高が高台坏の寸法と類似しており、両者は同時期に製作、使用されたものであろう。これらの土師器坏に後続すると見られる米子市古市宮ノ谷山遺跡の資料では、高台を貼り付けた後に坏の内面から高台部を押圧することによって整形されており、同じ高台坏でも技法上の差異が認められる。従来の編年では、器形の変化に着目したもののが多かったが、製作技法の変化からも時期差を見極める視点と考えられる。

これら土師器高台坏の具体的な年代観は示しがたいが、須恵器が消滅してから土師器坏の高台が消滅するまでの期間（10～11世紀代）に収まる資料と推測される。この段階の資料では、内面を黒色処理してミガキ調整を行う黒色土器を伴う事例が多く、本資料でも包含層から黒色土器の出土が見られたことから、当該期の資料と見て大過ないと考える。

第3節 施釉瓦の窯道具について

今回の調査では、石州瓦を生産する際に使用される窯道具の「ハセ」と「モミツチ」が出土した。石州瓦とは、島根県の西部地方で近世後半以降に生産された施釉瓦の総称であり、益田市の相生遺跡などで窯跡の発掘調査が行われている。この石州瓦の特徴は表面に掛けられた赤褐色の釉薬にあり、これは松江市玉湯町で採れる来待石の粉を釉薬として用いたものであった。「ハセ」とは、これらの施釉した瓦同士が融着しないように瓦の間に隙間を作るために挟み込むもので、出土品にはどれも釉薬が付着していた。「モミツチ」も同様に、軒瓦の紋様面や丸瓦の凸面など施釉された面に付着した例が知られている。こうした窯道具の出土例は、施釉瓦の生産遺跡以外ではほとんど見られないことから、ブジラ遺跡の周辺に石州系の瓦を生産する窯があったことを示す証拠であろう。

鳥取県西部地方の近世瓦生産については、昭和44年刊行の『山陰の陶窯』では、原典が不明ながら「一般の瓦は、岡成・大寺・天満・勝田・小篠津・米子・下黒坂・東村（日野）から産出され……」との記述から、ブジラ遺跡にほど近い大寺の地でも瓦が生産されていたことが判る。

また、文献以外にも南部町落合に所在する切明窯で瓦窯の発掘調査が行われているほか、米子市諏訪や米子市榎原でもハセが採集されている。このような消費地での窯道具の出土は、記録の残らない瓦窯が各地に所在していたことを示しているのか、あるいは窯道具が製品に融着したままの状態で流通していたのか解釈に迷うが、本資料の出現が、鳥取県内での石州系瓦の生産と流通について再検討を促すきっかけになると考えられる。

参考文献

伊藤菊之輔 1969年『山陰の陶窯』報光社

中森 祥ほか 2002年『古市遺跡群3』鳥取県教育文化財団

表1 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 1	土坑1	埋土中	突帯紋土器 深鉢	(26.9)		(2.8)	褐色	ナデ	ナデ、刻み	
Po. 2	土坑1	埋土中	弥生土器 甕	(19.4)		(8.5)	茶褐色	ナデ	ハケ	
Po. 3	土坑1	埋土中	弥生土器 甕			(15.4)	淡橙色	ナデ	ハケ	
Po. 4	土坑3	埋土中	突帯紋土器 深鉢			(2.3)	褐色	ケズリ	刺突紋	
Po. 5	土坑3	埋土中	弥生土器 壺	(11.7)		(9.2)	淡褐色	ナデ	刺突紋、ハケ	
Po. 6	土坑3	埋土中	弥生土器 無頸壺	(7.6)		(10.5)	橙褐色	ケズリ、ナデ	ハケ	
Po. 7	土坑3	埋土中	土器片 加工品			(3.0)	灰褐色	ナデ	ナデ	穿孔
Po. 8	土坑3	埋土中	弥生土器 壺	(19.3)		(3.8)	橙色	ナデ	ナデ	
Po. 9	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(20.3)		(5.9)	淡褐色	ナデ	ハケ	
Po. 10	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(16.0)		(9.5)	灰褐色	ナデ	ハケ	
Po. 11	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(17.7)		(7.8)	灰茶色	ナデ	ミガキ	
Po. 12	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(15.0)		(5.2)	淡褐色	ハケ後ナデ	ハケ	
Po. 13	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(22.5)		(4.3)	淡褐色	ハケ後ナデ	風化	
Po. 14	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(18.9)		(4.5)	灰色	ナデ	ナデ	
Po. 15	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(19.4)		(3.8)	灰褐色	ナデ	ハケ	
Po. 16	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(16.2)		(6.3)	淡褐色	ハケ	ハケ	
Po. 17	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(15.0)		(2.3)	橙褐色	ナデ	ナデ	
Po. 18	土坑3	埋土中	弥生土器 甕	(9.2)		(2.0)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 19	土坑3	埋土中	弥生土器 高环	(17.6)		(2.3)	褐色	ナデ	ナデ	
Po. 20	土坑3	埋土中	弥生土器 高环			(5.2)	灰褐色	ナデ	ハケ	
Po. 21	土坑3	埋土中	弥生土器 底部		4.9	(3.5)	橙褐色	ケズリ	ミガキ	
Po. 22	土坑3	埋土中	弥生土器 底部		5.0	(7.0)	灰褐色	ケズリ	ミガキ	
Po. 23	土坑3	埋土中	弥生土器 底部		(6.5)	(6.8)	外：褐色 内：灰色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 24	土坑3	埋土中	弥生土器 底部		4.4	(2.7)	灰茶色	ケズリ	ミガキ、ナデ	
Po. 25	土坑3	埋土中	弥生土器 底部		7.4	(11.8)	赤茶色	ハケ、ナデ	ミガキ	
Po. 26	掘立柱建物1	柱穴内	弥生土器 甕	(14.0)		(6.5)	褐色	ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 27	河川1	埋土中	突帯紋土器 深鉢	(26.0)		(12.7)	外：黒茶色 内：灰褐色	ナデ	ケズリ	
Po. 28	河川1	埋土中	突帯紋土器 深鉢	(20.4)		(4.4)	灰褐色	ナデ	ケズリ	
Po. 29	河川1	埋土中	突帯紋土器 深鉢	(32.3)		(10.1)	淡褐色	ナデ	ケズリ、キザミ	
Po. 30	河川1	埋土中	条痕紋土器 深鉢			(10.6)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ケズリ	

表2 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構遺構	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 31	河川1	埋土中	条痕紋土器 深鉢			(10..0)	褐色	ケズリ	ケズリ	
Po. 32	河川1	埋土中	条痕紋土器 深鉢			(6.1)	淡褐色	ケズリ	ケズリ、沈線紋	
Po. 33	河川1	埋土中	弥生土器 壺	(18. 4)		(2.8)	茶灰色	ハケ、ナデ	凹線紋、刺突紋	
Po. 34	河川1	埋土中	弥生土器 壺	(21. 6)		(3.6)	灰褐色	ハケ	凹線紋、ナデ	
Po. 35	河川1	埋土中	弥生土器 壺			(11. 4)	黄灰褐色	ナデ	突帶、ハケ	
Po. 36	河川1	埋土中	弥生土器 壺			(9.6)	褐色	ハケ、ナデ	ハケ、櫛描紋	
Po. 37	河川1	埋土中	弥生土器 壺			(7.8)	淡褐色	ナデ	凹線紋、風化	
Po. 38	河川1	埋土中	弥生土器 壺	(18. 8)		(6.0)	灰褐色	ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 39	河川1	埋土中	弥生土器 壺	(24. 0)		(5.5)	暗茶褐色	ハケ、ナデ	凹線紋、刺突紋 円形浮紋、ナデ	
Po. 40	河川1	埋土中	弥生土器 壺			(3.2)	黒褐色	ナデ	櫛描紋、ハケ	
Po. 41	河川1	埋土中	弥生土器 壺			(12. 8)	茶褐色	ハケ、ナデ	刺突紋、ハケ	
Po. 42	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(18. 3)		(9.8)	茶褐色	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ミガキ 刺突紋	
Po. 43	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(19. 4)		(8.2)	黄橙褐色	ナデ、ミガキ	タテハケ	
Po. 44	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(18. 3)		(7.4)	褐色	ナデ	ハケ	
Po. 45	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(18. 8)		(6.3)	灰褐色	ハケ後ナデ	ハケ	
Po. 46	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(16. 8)		(5.0)	淡褐色	ナデ	タテハケ	
Po. 47	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(17. 1)		(2.8)	灰茶色	ナデ	ハケ	
Po. 48	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(16. 2)		(5.2)	暗褐色	ナデ	ハケ	
Po. 49	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(15. 0)		(3.9)	褐色	ハケ後ナデ	ハケ	
Po. 50	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(20. 8)		(3.4)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 51	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(18. 0)		(4.3)	褐色	ハケ後ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 52	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(15. 0)		(6.7)	灰褐色	ハケ後ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 53	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(16. 8)		(3.6)	淡褐色	ハケ	凹線紋、ハケ	
Po. 54	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(21. 0)		(6.7)	褐色	ハケ	凹線紋、ハケ 円形浮紋	
Po. 55	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(16. 6)		(3.1)	褐色	ハケ	凹線紋、ハケ	
Po. 56	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(16. 0)		(4.5)	淡褐色	ハケ	凹線紋、ハケ	
Po. 57	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(16. 6)		(2.5)	茶褐色	ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 58	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(14. 4)		(8.5)	茶色	ハケ、ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 59	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(16. 7)		(6.0)	褐色	ハケ	凹線紋、ハケ	
Po. 60	河川1	埋土中	弥生土器 甕	(15. 9)		(5.0)	黄灰褐色	ハケ	凹線紋、ハケ	

表3 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 61	河川1	埋土中	弥生土器甕	(15.2)		(4.4)	褐色	ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 62	河川1	埋土中	弥生土器甕	(17.0)		(6.7)	黄灰褐色	ハケ、ナデ	凹線紋、刺突紋 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 63	河川1	埋土中	弥生土器甕	(16.9)		(6.8)	茶褐色	ナデ	凹線紋、刺突紋 指頭圧痕貼付突 帶、円形浮紋	
Po. 64	河川1	埋土中	弥生土器甕	(19.8)		(4.4)	暗茶色	ナデ	凹線紋、刺突紋 指頭圧痕貼付突 帶、円形浮紋	
Po. 65	河川1	埋土中	弥生土器甕	(23.6)		(3.6)	橙褐色	ナデ	凹線紋、刺突紋 指頭圧痕貼付突 帶、ハケ	
Po. 66	河川1	埋土中	弥生土器甕	(25.6)		(3.9)	淡褐色	ナデ	凹線紋、刺突紋 指頭圧痕貼付突 帶、ハケ	
Po. 67	河川1	埋土中	弥生土器甕	(29.0)		(5.2)	褐色	ナデ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 68	河川1	埋土中	弥生土器甕	(27.7)		(3.3)	褐色	ナデ	凹線紋、ナデ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 69	河川1	埋土中	弥生土器甕	(20.0)		(5.1)	灰褐色	ハケ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 70	河川1	埋土中	弥生土器甕	(19.2)		(3.7)	灰茶色	ナデ	凹線紋、ナデ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 71	河川1	埋土中	弥生土器甕	(16.8)		(7.0)	淡黒灰褐色	ハケ、ナデ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 72	河川1	埋土中	弥生土器甕	(17.0)		(7.8)	褐色	ナデ	凹線紋、ナデ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 73	河川1	埋土中	弥生土器甕	(23.1)		(2.9)	茶褐色	ナデ	凹線紋、ナデ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 74	河川1	埋土中	弥生土器甕	(20.2)		(5.3)	茶褐色	ハケ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 75	河川1	埋土中	弥生土器甕	(18.5)		(3.8)	褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 76	河川1	埋土中	弥生土器甕	(16.8)		(5.4)	灰褐色	ハケ	ハケ	
Po. 77	河川1	埋土中	弥生土器底部		7.2	(5.2)	外：黒灰褐色 内：黄灰褐色	ケズリ後ナデ	ミガキ	
Po. 78	河川1	埋土中	弥生土器底部		(6.2)	(4.5)	茶灰色	ケズリ	ミガキ	
Po. 79	河川1	埋土中	弥生土器底部		6.4	(3.6)	外：黒褐色 内：褐色	ナデ	ミガキ	
Po. 80	河川1	埋土中	弥生土器底部		(6.6)	(3.5)	茶色	ミガキ	ミガキ	
Po. 81	河川1	埋土中	弥生土器底部		5.6	(3.4)	灰褐色	ナデ	ミガキ	
Po. 82	河川1	埋土中	弥生土器底部		6.2	(2.6)	灰褐色	ケズリ	ナデ	
Po. 83	河川1	埋土中	弥生土器底部		(6.2)	(3.0)	茶灰色	ケズリ	ミガキ	
Po. 84	河川1	埋土中	弥生土器高环	(20.2)		(4.1)	黄灰褐色	風化	刺突紋、風化	
Po. 85	河川1	埋土中	弥生土器高环	(22.2)		(3.4)	褐色	ナデ	刺突紋、ナデ	

表4 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 86	河川1	埋土中	弥生土器 高环	(23.4)		(6.5)	黄灰褐色	ハケ後ナデ	ハケ後ミガキ 刺突紋	
Po. 87	河川1	埋土中	弥生土器 高环	(26.3)		(3.8)	黄橙灰色	ハケ、ナデ	刺突紋、風化	
Po. 88	河川1	埋土中	弥生土器 高环	(15.7)		(2.9)	茶褐色	ナデ	凹線紋、ナデ	外面赤色塗彩
Po. 89	河川1	埋土中	弥生土器 高环			(6.65)	黄灰褐色	風化	凹線紋、風化	
Po. 90	河川1	埋土中	弥生土器 高环			(5.1)	褐色	ナデ	ミガキ	
Po. 91	河川1	埋土中	弥生土器 高环			(7.0)	茶褐色	ナデ	凹線紋、ハケ 透かし	
Po. 92	河川1	埋土中	弥生土器 高环		(12.3)	(4.5)	褐色	ナデ	風化、透かし	
Po. 93	河川1	埋土中	弥生土器 高环		(13.2)	(6.1)	褐色	ナデ	風化、透かし 凹線紋	
Po. 94	河川1	埋土中	弥生土器 高环		(14.4)	(7.4)	黄灰白色	風化	風化、透かし 凹線紋	
Po. 95	河川1	埋土中	弥生土器 高环		(14.2)	(6.3)	灰茶色	ナデ	凹線紋、ハケ 透かし	
Po. 96	河川1	埋土中	弥生土器 高环		(10.6)	(4.3)	茶褐色	ナデ	凹線紋、風化 透かし	赤色塗彩
Po. 97	河川1	埋土中	弥生土器 高环		(9.8)	(2.6)	褐色	ケズリ後ナデ	凹線紋、ナデ	
Po. 98	河川1	埋土中	土器片 加工品			(3.7)	茶褐色	ハケ	ハケ	研磨
Po. 99	河川1	埋土中	土器片 加工品			(3.6)	赤褐色	ハケ	ハケ	研磨
Po. 100	河川1	埋土中	土師器 甕	(14.9)		(5.0)	褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	
Po. 101	河川1	埋土中	土師器 甕	(12.2)		(4.2)	褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	
Po. 102	河川1	埋土中	土師器 甕	(13.8)		(5.5)	淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	
Po. 103	河川1	埋土中	土師器 甕	(16.2)		(7.3)	褐色	ナデ、ケズリ	ケズリ、ナデ	
Po. 104	河川1	埋土中	土師器 甕	(16.4)		(5.2)	褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	
Po. 105	河川1	埋土中	土師器 甕	(16.6)		(4.6)	褐色	ハケ後ナデ	ナデ	
Po. 106	河川1	埋土中	土師器 甕	(15.6)		(5.0)	赤茶色	ナデ、ケズリ	ナデ	
Po. 107	河川1	埋土中	土師器 甕	(16.4)		(4.4)	橙褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	
Po. 108	河川1	埋土中	土師器 甕	(13.7)		(7.3)	褐色	ナデ、ケズリ	ハケ、ナデ	
Po. 109	河川1	埋土中	土師器 甕	(16.8)		(12.0)	橙褐色	ナデ、ケズリ	ハケ、ナデ	
Po. 110	河川1	埋土中	土師器 高环		(13.8)	(9.3)	橙褐色	ハケ、ミガキ	ハケ後ナデ 透かし	
Po. 111	河川1	埋土中	土師器 环身	(14.0)		(3.2)	褐色	ミガキ	ナデ	
Po. 112	河川1	埋土中	土師器 环身	(13.9)		5.2	淡褐色	ナデ	ナデ	
Po. 113	河川1	埋土中	土師器 环身	16.0		6.1	褐色	ハケ後ナデ	粘土紐巻上げ ナデ、ヘラ記号	
Po. 114	河川1	埋土中	白磁 碗	(18.2)		(1.7)	白灰色	ナデ	ナデ	
Po. 115	河川1	埋土中	唐津焼 皿	(13.2)		(1.6)	灰茶色	ナデ	ナデ	
Po. 116	河川1	埋土中	カマド	(17.0)		(2.5)	褐色	ナデ	ナデ	

表5 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 117	河川1	埋土中	焰烙	(31.2)		(4.0)	橙褐色	ナデ	ナデ	
Po. 118	河川1分流	埋土中	弥生土器無頸壺	(16.4)		(9.3)	黒茶色	ハケ後ナデ	凹線紋、刺突紋 粘土帶貼付	
Po. 119	河川1分流	埋土中	弥生土器鉢	8.2	4.0	8.2	黒灰茶色	ケズリ後ナデ	ハケ	
Po. 120	河川1分流	埋土中	弥生土器甕	(23.6)		(9.6)	褐色	ハケ後ナデ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 121	河川1分流	埋土中	弥生土器高坏	(19.8)		(7.3)	黒茶色	ミガキ	ミガキ	
Po. 122	河川1分流	埋土中	弥生土器高坏		(14.2)	23.2	灰褐色	ミガキ	ミガキ、櫛描紋 透かし	黒漆
Po. 123	河川1分流	埋土中	弥生土器高坏		(14.8)	(11.7)	淡褐色	ケズリ、ミガ キ	凹線紋、ミガキ 透かし	
Po. 124	河川1分流	埋土中	弥生土器高坏		(11.6)	(3.3)	灰褐色	ケズリ	凹線紋、透かし	
Po. 125	河川1分流	埋土中	弥生土器高坏			(10.9)	淡灰褐色	絞り痕	凹線紋、透かし	
Po. 126	河川1分流	埋土中	弥生土器底部		(7.2)	(15.1)	外：褐色 内：暗褐色	風化	ミガキ	
Po. 127	河川1分流	埋土中	弥生土器底部		8.9	(9.7)	黄橙褐色	ミガキ	ミガキ	
Po. 128	河川1分流	埋土中	土師器高坏	(24.8)		(7.3)	橙褐色	ミガキ	ナデ	
Po. 129	河川1分流	埋土中	土師器高坏	20.3	10.2	12.0	赤茶色	ミガキ	ハケ後ミガキ	
Po. 130	河川1分流	埋土中	土師器高坏	(17.7)		(5.8)	赤褐色	ミガキ	ミガキ	赤色塗彩
Po. 131	河川1分流	埋土中	須恵器高坏		(9.0)	(3.0)	灰色	ナデ	ナデ	
Po. 132	J4区	IV-2層	突帶紋土器深鉢	(27.4)		(7.6)	灰褐色	ケズリ	ケズリ	
Po. 133	J5区	IV-2層	条痕紋土器深鉢			(14.7)	灰褐色	ケズリ	ケズリ	
Po. 134	J5区	IV-2層	弥生土器壺	(21.2)		(2.0)	暗灰褐色	ナデ	凹線紋、突帶	
Po. 135	G2区	IV-2層	弥生土器壺	(25.8)		(1.9)	暗褐色	ナデ	凹線紋、突帶	
Po. 136	H5区	IV-2層	弥生土器壺	(34.2)		(4.5)	褐色	ナデ	ハケ後ナデ	
Po. 137	J5区	IV-2層	弥生土器甕	(20.0)		(4.9)	灰褐色	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
Po. 138	J5区	IV-2層	弥生土器甕	(19.3)		(5.7)	灰褐色	ナデ	タテハケ	
Po. 139	J5区	IV-2層	弥生土器甕	(16.4)		(5.0)	灰褐色	ナデ	タテハケ	
Po. 140	J5区	IV-2層	弥生土器甕	(12.8)		(6.7)	黒茶色	ハケ、ミガキ	タテハケ 刺突紋	刺突紋は途中 まで
Po. 141	J5区	IV-2層	弥生土器甕	(14.0)		(4.3)	灰褐色	ハケ	凹線紋、ハケ	
Po. 142	G3区	IV-2層	弥生土器甕	(19.3)		(5.8)	褐色	ハケ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 143	G2区	IV-2層	弥生土器甕	(18.3)		(5.7)	淡褐色	ミガキ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帶	
Po. 144	H3区	IV-2層	弥生土器底部		9.7	(4.1)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ミガキ	
Po. 145	G3区	IV-2層	弥生土器底部		4.6	(5.8)	褐色	ナデ	ミガキ	

表6 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 146	J5区	IV-2層	弥生土器 底部		5.2	(2.5)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 147	I4区	IV-2層	弥生土器 底部		5.5	(2.6)	灰褐色	風化	ナデ	
Po. 148	G3区	IV-2層	土師器 壺			(7.1)	褐色	ケズリ	羽状紋	
Po. 149	H5区	IV-2層	土師器 小型壺	(11.2)		14.9	黄灰白色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 150	I5区	IV-2層	土師器 小型壺	(12.0)		15.5	黄褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 151	H5区	IV-2層	土師器 小型壺	8.2		9.8	黄橙褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 152	H5区	IV-2層	土師器 小型壺	9.4		10.0	茶褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 153	J5区	IV-2層	土師器 小型壺	(11.8)		(5.7)	暗褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 154	I5区	IV-2層	土師器 小型壺	7.9		8.1	黄灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 155	I5区	IV-2層	土師器 小型壺	7.0		7.2	黄灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 156	I5区	IV-2層	土師器 小型壺	(6.9)		8.7	灰褐色	ケズリ、ナデ	刺突紋、ナデ	
Po. 157	I5区	IV-2層	土師器 小型壺	(7.6)		9.7	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 158	H5区	IV-2層	土師器 小型壺	9.0		7.9	灰茶色	ケズリ、ナデ	ミガキ、ナデ	
Po. 159	H5区	IV-2層	土師器 小型壺			(6.3)	淡褐色	ナデ	ナデ	
Po. 160	J5区	IV-2層	土師器 小型壺	(10.0)		(3.9)	暗褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 161	I5区	IV-2層	土師器 小型壺	10.5	5.4	9.6	暗褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 162	I5区	IV-2層	土師器 小型壺	6.2	4.0	6.7	黄灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 163	I5区	IV-2層	手捏土器	6.6		5.7	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 164	H5区	IV-2層	土師器 甕	(11.6)		(8.1)	褐色	ケズリ、ナデ	ナデ、爪痕	
Po. 165	J5区	IV-2層	土師器 甕	(15.6)		(4.6)	暗褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 166	H5区	IV-2層	土師器 甕	(13.4)		(5.7)	茶褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 167	I5区	IV-2層	土師器 甕	(16.4)		28.9	黄灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	朱記号
Po. 168	I5区	IV-2層	土師器 甕	(14.6)		24.4	黄褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 169	I5区	IV-2層	土師器 甕	(14.3)		19.8	黄灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 170	I5区	IV-2層	土師器 甕	(11.9)		(19.6)	黄灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	穿孔
Po. 171	H5区	IV-2層	土師器 甕			(23.2)	黄褐色	ケズリ	ハケ	
Po. 172	I5区	IV-2層	土師器 甕	(17.4)		(14.8)	外：褐色 内：灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 173	I5区	IV-2層	土師器 甕	(18.6)		(7.8)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 174	H5区	IV-2層	土師器 甕	(16.2)		(5.7)	茶褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 175	H5区	IV-2層	土師器 甕	(12.5)		(8.2)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 176	I5区	IV-2層	土師器 甕	(14.8)		(8.1)	橙褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	

表7 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 177	I5区	IV-2層	土師器 甕	(15.2)		(5.2)	褐色	ケズリ、ナデ	風化	
Po. 178	I5区	IV-2層	土師器 甕	(24.3)		(6.6)	橙褐色	ナデ	ナデ	
Po. 179	I5区	IV-2層	土師器 高坏	(25.4)		(8.0)	褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 180	I5区	IV-2層	土師器 高坏	(18.8)		(6.4)	茶褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	
Po. 181	H5区	IV-2層	土師器 高坏	(20.3)		(10.7)	橙褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	
Po. 182	H5区	IV-2層	土師器 高坏			(9.5)	橙褐色	ミガキ 暗紋状ハケ	ミガキ	
Po. 183	I5区	IV-2層	土師器 高坏	(17.6)		13.2	褐色	ナデ	ナデ、透かし	
Po. 184	I5区	IV-2層	土師器 高坏	17.5	9.7	12.6	橙褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 185	H5区	IV-2層	土師器 高坏	(18.6)	10.9	13.4	茶褐色	ミガキ	ミガキ、ナデ	赤色塗彩 接合部未調整
Po. 186	H5区	IV-2層	土師器 高坏	(20.0)	12.6	(13.1)	橙褐色	ハケ、ミガキ	ハケ、ミガキ	
Po. 187	I5区	IV-2層	土師器 高坏	15.8		(6.6)	暗褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 188	I5区	IV-2層	土師器 高坏		9.5	(11.7)	灰褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 189	H5区	IV-2層	土師器 高坏		(10.0)	(8.8)	淡褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 190	I5区	IV-2層	土師器 高坏		9.2	(6.2)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 191	I5区	IV-2層	土師器 高坏		9.2	(6.5)	暗褐色	ナデ	ナデ	
Po. 192	I5区	IV-2層	土師器 高坏		8.7	(5.3)	淡黄褐色	風化	ハケ、ナデ	
Po. 193	I5区	IV-2層	土師器 高坏		8.8	(5.6)	暗褐色	ナデ	ナデ	
Po. 194	I5区	IV-2層	土師器 高坏		(9.6)	(7.1)	黄灰白色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 195	I5区	IV-2層	土師器 高坏		(12.2)	(5.8)	赤褐色	ナデ	ナデ	穿孔
Po. 196	I5区	IV-2層	土師器 高坏		8.7	(5.2)	灰褐色	ナデ	ナデ	穿孔
Po. 197	I5区	IV-2層	土師器 高坏		10.9	(6.6)	橙褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 198	I5区	IV-2層	土師器 高坏	11.7	7.9	7.9	暗褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 199	H4区	IV-2層	移動式竈			(9.8)	橙褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 200	G2区	IV-2層	須恵器 环身	(11.4)		(3.4)	灰白色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 201	G2区	IV-2層	須恵器 环身	(10.4)		(3.5)	灰白色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 202	G3区	IV-2層	須恵器 环身			(2.2)	灰色	ナデ	ケズリ、ナデ	朱付着
Po. 203	L5区	IV-2層	須恵器 高坏			(5.4)	赤褐色	ナデ	ナデ	
Po. 204	H3区	IV-2層	須恵器 小型壺			(6.6)	灰白色	ナデ	ナデ	
Po. 205	H4区	IV-2層	須恵器 甌		4.2	(6.6)	灰色	ナデ	ケズリ、ナデ	穿孔
Po. 206	G2区	IV-2層	須恵器 高坏		(9.4)	(6.5)	灰色	ナデ	ナデ、透かし	
Po. 207	H3区	IV-2層	須恵器 提瓶			(15.1)	灰色	ナデ	カキメ、ナデ	

表8 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表 (残存・復元値は()で表示)

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 208	水路1	埋土中	弥生土器壺			(8.0)	灰色	ナデ	突帯、ハケ	
Po. 209	水路1	埋土中	弥生土器壺			(7.1)	外面灰褐色 内面黒茶色	ハケ	突帯、櫛描紋 ハケ	
Po. 210	水路1	埋土中	土師器小型壺	(9.8)		(10.4)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 211	水路1	埋土中	土師器小型壺	(8.6)		(6.3)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 212	水路1	埋土中	土師器小型壺	(8.4)		(3.8)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 213	水路1	埋土中	土師器小型壺			(6.1)	黒茶色	ケズリ	ハケ、ナデ	
Po. 214	水路1	埋土中	土師器小型壺	(8.2)		7.6	灰白色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 215	水路1	埋土中	土師器小型壺	(10.0)		(5.6)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 216	水路1	埋土中	土師器壺	(19.2)		(6.4)	黒茶色	ナデ	ナデ	
Po. 217	水路1	埋土中	土師器壺	(13.8)		(6.6)	暗灰白色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 218	水路1	埋土中	土師器壺	(15.0)		(5.5)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 219	水路1	埋土中	土師器甕	(14.2)		(5.7)	灰色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 220	水路1	埋土中	土師器甕	(20.4)		(6.3)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 221	水路1	埋土中	土師器甕	(21.6)		(9.0)	褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 222	水路1	埋土中	土師器甕	(16.6)		(6.9)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 223	水路1	埋土中	土師器甕	(18.0)		(6.5)	褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 224	水路1	埋土中	土師器甕	(14.4)		(5.3)	黒茶色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 225	水路1	埋土中	土師器甕	17.4		28.3	黄灰褐色	ケズリ、ハケ ナデ	ハケ、ナデ	ススコグ痕有り
Po. 226	水路1	埋土中	土師器甕	(13.8)		(9.3)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 227	水路1	埋土中	土師器甕	(14.3)		(13.1)	褐色	ケズリ、ハケ ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 228	水路1	埋土中	土師器甕	13.3		(15.8)	暗灰白色	ケズリ、ハケ ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 229	水路1	埋土中	土師器甕	(16.0)		(9.4)	橙褐色	ケズリ、ハケ ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 230	水路1	埋土中	土師器甕	(16.2)		(20.8)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 231	水路1	埋土中	土師器甕	(20.0)		(8.1)	黒茶色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 232	水路1	埋土中	土師器甕	(22.8)		(10.8)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 233	水路1	埋土中	土師器甕	(16.6)		(5.2)	橙褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 234	水路1	埋土中	土師器甕	(17.4)		(4.2)	黒茶色	ナデ	ナデ	
Po. 235	水路1	埋土中	土師器甕			(6.0)	灰褐色	ケズリ	刺突紋、ナデ	
Po. 236	水路1	埋土中	土師器高坏	(18.6)		(5.5)	灰褐色	ミガキ、ナデ	ミガキ	
Po. 237	水路1	埋土中	土師器高坏	(15.8)		(4.8)	灰褐色	ミガキ	ナデ	

表9 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 238	水路1	埋土中	土師器 高坏			(4.6)	褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 239	水路1	埋土中	土師器 高坏	(13.8)		(3.7)	灰白色	ナデ	ナデ	
Po. 240	水路1	埋土中	土師器 高坏	(16.6)		(4.8)	橙褐色	ミガキ	ミガキ	
Po. 241	水路1	埋土中	土師器 高坏			(7.4)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 242	水路1	埋土中	土師器 高坏			(5.5)	灰褐色	ケズリ	ナデ	
Po. 243	水路1	埋土中	土師器 高坏			(6.3)	灰褐色	ケズリ	ハケ、ナデ	
Po. 244	水路1	埋土中	土師器 高坏		(10.8)	(9.0)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 245	水路1	埋土中	土師器 高坏		(10.2)	(9.0)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 246	水路1	埋土中	土師器 高坏		9.8	(6.8)	灰褐色	ケズリ	ハケ	
Po. 247	水路1	埋土中	土師器 高坏		9.5	(7.0)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 248	水路1	埋土中	土師器 高坏		(11.0)	(6.8)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 249	水路1	埋土中	土師器 高坏		(9.8)	(7.4)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 250	水路1	埋土中	土師器 高坏		10.2	(6.8)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 251	水路1	埋土中	土師器 高坏		(10.4)	(3.3)	褐色	ハケ、ナデ	ナデ	穿孔
Po. 252	水路2	埋土中	弥生土器 壺	(16.5)		(6.4)	赤褐色	ナデ	格子紋、突帶 キザミ	
Po. 253	水路2	埋土中	須恵器 壺蓋			(2.4)	暗赤褐色	ナデ	ナデ	
Po. 254	水路2	埋土中	須恵器 皿	(17.3)	(11.3)	4.2	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 255	水路2	埋土中	須恵器 皿		(9.0)	(1.2)	青灰色	ナデ	糸切	
Po. 256	水路2	埋土中	須恵器 大甕			(17.7)	灰色	当て具痕	タタキ、ナデ	
Po. 257	水路2	埋土中	土師器 皿	(9.9)		1.5	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切	
Po. 258	水路2	埋土中	瓦質土器 甕			(6.1)	灰色	ハケ	格子目タタキ	
Po. 259	水路2	埋土中	白磁 皿	(12.5)		(1.0)	乳白色	ナデ	ナデ	
Po. 260	水路2	埋土中	青花 皿		(6.2)	(1.5)	淡青白色	ナデ	ナデ	
Po. 261	水路2	埋土中	青花 碗	(9.8)		(2.1)	暗青白色	ナデ	ナデ	
Po. 262	水路2	埋土中	青花 碗	(14.3)		(2.2)	淡青白色	ナデ	ナデ	
Po. 263	水路2	埋土中	肥前系磁器 碗	(10.0)		(2.0)	暗乳白色	ナデ	ナデ	
Po. 264	水路2	埋土中	伊万里焼 仏飯器		4.1	(2.8)	乳白色	ケズリ	ナデ	
Po. 265	水路2	埋土中	陶胎染付 碗		4.4	(2.8)	暗灰色	ナデ	ナデ	
Po. 266	水路2	埋土中	陶器 皿		(4.8)	(2.4)	外：淡緑灰色 内：銅緑色	蛇目釉剥ぎ	ケズリ	
Po. 267	水路2	埋土中	陶器 皿		3.1	(1.3)	茶褐色	ナデ、目跡	糸切	

表10 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 268	水路2	埋土中	陶器皿		2.8	(1.8)	茶色	ナデ、目跡	糸切	
Po. 269	水路2	埋土中	須佐焼擂鉢	(27.0)		(7.0)	淡茶色	ナデ、擂目	ケズリ、ナデ	
Po. 270	水路2	埋土中	石見系陶器鉢	(30.6)		(6.2)	淡緑灰色	ナデ	ナデ	
Po. 271	K5区	IV-1層	繩紋土器深鉢			(5.3)	淡褐色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 272	I4区	IV-1層	弥生土器壺			(7.1)	灰褐色	ナデ	突帯、ハケ	
Po. 273	J5区	IV-1層	弥生土器甕	(22.4)		(6.4)	外：黄灰白色 内：暗灰白色	ナデ	指頭圧痕貼付突 帯、ナデ	
Po. 274	L5区	IV-1層	弥生土器高环		(12.6)	(2.9)	褐色	風化	凹線紋、透かし	
Po. 275	L5区	IV-1層	弥生土器高环		(12.0)	(3.0)	灰褐色	ナデ	凹線紋、ナデ	
Po. 276	L5区	IV-1層	弥生土器底部		5.1	(2.6)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 277	I4区	IV-1層	土師器甕	(16.6)		(14.3)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 278	I4区	IV-1層	土師器甕	(14.0)		(12.2)	黄灰白色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 279	I4区	IV-1層	土師器甕	(15.2)		(4.9)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 280	G3区	IV-1層	土師器甕	(33.7)		(6.7)	淡褐色	ケズリ、ハケ ナデ	ハケ	
Po. 281	I5区	IV-1層	土師器高环		(9.8)	(10.1)	灰褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 282	H4区	IV-1層	土師器高环			(6.0)	赤褐色	ナデ	ミガキ	
Po. 283	H4区	IV-1層	土師器高环			(9.3)	橙褐色	ハケ、ナデ	ミガキ、透かし	
Po. 284	I5区	IV-1層	土師器高环	(16.5)		(6.1)	褐色	ナデ	ナデ	
Po. 285	I4区	IV-1層	土師器高环	(17.7)		(5.2)	灰褐色	ナデ	下半部未調整	
Po. 286	S5区	IV-1層	鏡形土製品	4.8	4.2	1.7	褐色		ナデ	穿孔
Po. 287	G2区	IV-1層	須恵器坏蓋	(12.3)		(3.3)	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 288	G3区	IV-1層	須恵器坏蓋			(2.7)	灰色	ナデ	ケズリ後ナデ	
Po. 289	J4区	IV-1層	須恵器坏蓋	(7.7)		(2.8)	灰色～ 暗灰色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 290	G2区	IV-1層	須恵器坏身	(11.0)		(3.2)	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 291	G2区	IV-1層	須恵器坏身	(11.0)	(8.5)	(4.5)	青灰色	ナデ	ナデ、糸切	
Po. 292	H3区	IV-1層	須恵器坏蓋			(1.4)	灰色	ナデ	ナデ	墨痕？
Po. 293	K4区	IV-1層	陶器小杯	(8.0)		(2.6)	明緑灰色	ナデ	ナデ	
Po. 294	K4区	III層	突帯紋土器深鉢			(3.5)	外：淡褐色 内：暗褐色	風化	キザミ、風化	
Po. 295	J5区	III層	弥生土器無頸壺	(14.2)		(4.0)	灰褐色	風化	風化、穿孔	
Po. 296	K5区	III層	弥生土器壺	(17.2)		(3.5)	淡褐色	風化	突帯、キザミ 風化	
Po. 297	J5区	III層	土師器高环	(15.0)	(10.1)	(12.0)	褐色	ナデ	ナデ	
Po. 298	J4区	III層	須恵器壺	(17.5)		(1.7)	灰色	ナデ	波状紋	

表11 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構遺構	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 299	K4区	Ⅲ層	須恵器壺			(8.0)	灰色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 300	L5区	Ⅲ層	須恵器坏身			(2.1)	灰色～青灰色	ナデ	ナデ	高台打欠き
Po. 301	I4区	Ⅲ層	須恵器坏身		(10.1)	(3.4)	青灰色～赤褐色	ナデ	ナデ、糸切	
Po. 302	H3区	Ⅲ層	須恵器坏身		(7.1)	(1.0)	青灰色	ナデ	ナデ、糸切	
Po. 303	H3区	Ⅲ層	土師器皿	(8.5)	5.3	(1.3)	黄灰白色	ナデ	糸切	
Po. 304	H4区	Ⅲ層	瓦質土器甕			(3.0)	暗灰白色	ナデ	格子目タタキ	
Po. 305	K5区	Ⅲ層	土師器鍋	(31.5)		(4.7)	淡褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 306	K5区	Ⅲ層	土師器鍋	(34.4)		(4.0)	暗灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 307	H3区	Ⅲ層	土師器擂鉢	(28.9)		(6.2)	橙褐色	風化、擂目	風化	
Po. 308	H3区	Ⅱ層	須恵器皿	(18.4)	(12.2)	(4.1)	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 309	H4区	Ⅱ層	須恵器壺		(14.0)	(2.3)	青灰色	当て具痕	タタキ、ナデ	
Po. 310	H3区	Ⅱ層	陶器片加工品	3.7	4.2	1.0	灰褐色	ナデ	ナデ	打欠き
Po. 311	H3区	Ⅱ層	瓦質土器甕			(13.2)	黒茶色	ナデ	格子目タタキ	
Po. 312	H3区	Ⅱ層	瓦質土器甕			(13.2)	黒茶色	ハケ後ナデ	格子目タタキ	
Po. 313	Kライン以南	I層	土師器甕	(15.8)		(4.3)	淡褐色	風化	風化	
Po. 314	Kライン以南	I層	土師器坏身	(11.6)		(4.3)	褐色	ナデ	ナデ	
Po. 315	Kライン以南	I層	須恵器高坏			(5.0)	灰色	ナデ	カキメ	
Po. 316	Kライン以南	I層	須恵器坏蓋			(1.1)	灰色	ナデ	ナデ	
Po. 317	I4区	I層	須恵器坏身		(11.3)	(1.8)	灰褐色	ナデ	糸切	
Po. 318	Kライン以南	I層	須恵器坏身		(9.3)	(1.8)	青灰色	ナデ	糸切	
Po. 319	Kライン以南	I層	須恵器坏身		(10.4)	(1.6)	赤褐色	ナデ	糸切	
Po. 320	J5区	I層	瓦質土器鉢	(26.0)		(4.3)	灰色	ハケ	風化	
Po. 321	Kライン以南	I層	瓦質土器鉢	(25.0)		(5.2)	灰色～暗灰色	ナデ、擂目	ナデ	
Po. 322	Kライン以南	I層	土師器鍋	(28.6)		(4.3)	淡褐色	ハケ、ナデ	ハケ	
Po. 323	Kライン以南	I層	土師器鍋			(6.8)	淡褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 324	Kライン以南	I層	青磁碗	(16.1)		(2.0)	淡緑色	ナデ	蓮弁紋	
Po. 325	H3区	I層	白磁碗		(6.3)	(2.7)	乳白色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 326	Kライン以南	I層	白磁皿		(5.2)	(1.3)	乳白色	ナデ	ナデ	高台砂付着
Po. 327	H5区	I層	天目茶碗			(3.7)	黒茶色	ナデ	ケズリ、ナデ	褐色釉
Po. 328	H3区	I層	青花皿	(9.2)		(1.5)	淡青白色	ナデ	ナデ	
Po. 329	G3区	I層	青花皿		(7.0)	(1.4)	淡青白色	ナデ	ナデ	

表12 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 330	Kライン以南	I層	瀬戸・美濃皿	(11.4)		(2.1)	淡緑灰色	ナデ	ナデ	
Po. 331	Kライン以南	I層	瀬戸・美濃皿	(10.2)		(1.8)	淡緑灰色	ナデ	ナデ	
Po. 332	Kライン以南	I層	瀬戸・美濃皿		(6.2)	(1.1)	淡緑灰色	ナデ	ケズリ	
Po. 333	Kライン以南	I層	唐津焼向付			(2.4)	暗灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 334	Kライン以南	I層	唐津焼皿		4.5	(2.0)	淡茶灰色	ナデ	糸切、ケズリ	
Po. 335	Kライン以南	I層	唐津焼碗		(4.2)	(2.4)	暗灰色	ナデ	糸切、ケズリ	
Po. 336	Kライン以南	I層	唐津焼碗	(9.4)		(5.3)	暗灰色	ナデ	ナデ	
Po. 337	H3区	I層	陶器皿	(12.6)		(2.2)	銅緑色	ナデ	ナデ	
Po. 338	Kライン以南	I層	備前焼擂鉢	(27.4)		(5.9)	暗褐色	ナデ、擂目	ナデ	
Po. 339	H3区	I層	伊万里焼紅皿	5.3	2.2	(1.4)	乳白色	ナデ	型打、露胎	
Po. 340	G3区	I層	伊万里焼小壺	(7.3)	(2.8)	(3.9)	暗青白色	ナデ	ナデ	
Po. 341	Kライン以南	I層	陶器器種不明		4.0	(1.8)	茶褐色		ナデ、糸切	
Po. 342	Kライン以南	掘削中	繩紋土器深鉢	(33.6)		(9.8)	淡褐色	ケズリ、ナデ	ケズリ	
Po. 343	I4区	掘削中	弥生土器壺	(15.0)		(2.4)	灰褐色	ナデ	ナデ、キザミ	
Po. 344	H4区	掘削中	弥生土器壺	(24.8)		(2.5)	褐色	ナデ	凹線紋、櫛描紋	
Po. 345	Kライン以南	掘削中	弥生土器壺	(27.2)		(3.0)	褐色	ナデ	凹線紋、ナデ	
Po. 346	H4区	掘削中	弥生土器壺	(32.2)		(2.1)	暗褐色	ナデ	凹線紋、刺突紋 ナデ	
Po. 347	I5区	掘削中	弥生土器甕	(16.8)		(6.4)	灰茶色	ナデ	凹線紋、ハケ	
Po. 348	J5区	掘削中	弥生土器甕	(18.6)		(4.0)	灰褐色	ナデ	凹線紋、ハケ 指頭圧痕貼付突 帯	
Po. 349	I4区	掘削中	弥生土器甕	(27.0)		(2.7)	灰褐色	ナデ	凹線紋、刺突紋 指頭圧痕貼付突 帯	
Po. 350	H4区	掘削中	弥生土器高壺	(21.4)		(3.8)	灰褐色	ミガキ	ミガキ、ナデ	
Po. 351	I4区	掘削中	弥生土器高壺		(16.0)	(3.4)	灰褐色	ナデ	凹線紋、ナデ 透かし	
Po. 352	I5区	掘削中	弥生土器底部		(6.3)	(6.4)	暗褐色	ナデ	ミガキ	
Po. 353	L5区	掘削中	弥生土器底部		7.0	(1.9)	褐色	ナデ	ナデ	
Po. 354	H5区	掘削中	土師器甕	(16.2)		(9.2)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 355	I5区	掘削中	土師器甕	12.6		(13.2)	淡褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 356	I5区	掘削中	土師器甕	11.5		(7.8)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 357	I5区	掘削中	土師器甕	(14.5)		(3.9)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 358	H4区	掘削中	土師器甕	(14.4)		(4.9)	褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	

表13 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 359	Kライン以南	掘削中	土師器 高环	(23.5)		(6.5)	淡橙褐色	ナデ	ナデ	
Po. 360	I5区	掘削中	土師器 高环	18.0		(7.1)	褐色	風化	ナデ	
Po. 361	J5区	掘削中	土師器 高环	(13.7)		(4.7)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 362	H5区	掘削中	土師器 高环			(3.1)	橙褐色	暗紋	ハケ、ナデ	
Po. 363	I5区	掘削中	土師器 高环		11.2	(6.4)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 364	H5区	掘削中	土師器 高环			(7.0)	褐色	ケズリ	ハケ	
Po. 365	H5区	掘削中	土師器 高环		(8.7)	(4.6)	橙褐色	ハケ、ナデ	ナデ	
Po. 366	L5区	掘削中	土師器 高环		(10.8)	(5.9)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 367	Kライン以南	掘削中	土師器 高环		(12.0)	(7.8)	褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ミガキ	
Po. 368	H5区	掘削中	須恵器 壺	(24.5)		(2.5)	黒茶色	ナデ	ナデ	
Po. 369	L5区	掘削中	須恵器 环身	(15.8)		(3.2)	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 370	Kライン以南	掘削中	須恵器 环身		(10.9)	(4.8)	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 371	J5区	掘削中	須恵器 环身			(1.8)	灰色～ 青灰色	ナデ	ケズリ	
Po. 372	H4区	掘削中	須恵器 高环		(8.8)	(4.1)	青灰色	ナデ	ナデ、透かし	
Po. 373	I3区	掘削中	唐津焼 皿	(14.3)		(2.6)	白茶色	ナデ	ナデ	
Po. 374	Kライン以南	掘削中	陶器 灯明皿受皿	(6.8)	(3.5)	(2.5)	茶褐色	ナデ	ナデ	底部タール付着
Po. 375	水路3	埋土中	土師器 环身	11.4	6.5	4.95	黑灰褐色	ナデ	ナデ	高台煤付着
Po. 376	水路3	埋土中	土師器 环身	(14.3)	(8.2)	(5.55)	淡橙灰色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 377	水路3	埋土中	土師器 环身	14.0	8.0	6.3	橙褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 378	水路3	埋土中	土師器 环身	(14.2)	7.8	(5.9)	橙褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	高台煤付着
Po. 379	水路3	埋土中	土師器 环身	14.0	8.4	6.0	橙褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 380	水路3	埋土中	土師器 环身	(14.8)	(7.6)	(6.2)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 381	水路3	埋土中	土師器 环身	14.8	7.2	5.8	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	高台煤付着
Po. 382	水路3	埋土中	土師器 环身	(14.0)		(6.1)	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	高台断面にも煤付着
Po. 383	水路3	埋土中	土師器 环身			(4.1)	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	高台打欠き
Po. 384	水路3	埋土中	土師器 环身			(3.1)	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	高台打欠き
Po. 385	水路3	埋土中	土師器 环身		8.2	(3.8)	黄灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 386	水路3	埋土中	土師器 环身		(9.0)	(2.6)	茶褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	両面に煤付着
Po. 387	水路3	埋土中	土師器 环身		(9.6)	(2.9)	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 388	水路3	埋土中	土師器 环身		(8.2)	(2.4)	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	高台煤付着

表14 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構造	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 389	水路3	埋土中	土師器 环身		(8.0)	4.4)	橙褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 390	水路3	埋土中	土師器 环身		8.8	(3.4)	褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	内面に煤付着
Po. 391	水路3	埋土中	土師器 环身		8.0	(2.65)	橙灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 392	水路3	埋土中	土師器 环身		6.0	(1.7)	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 393	水路3	埋土中	土師器 环身	(10.8)	(5.8)	(4.5)	褐色	ナデ	ナデ、糸切	
Po. 394	水路3	埋土中	土師器 环身	10.6	5.2	4.8	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切	
Po. 395	水路3	埋土中	土師器 环身	(14.8)	6.3	6.1	褐色	ナデ	ナデ、糸切	底部黒斑
Po. 396	水路3	埋土中	土師器 环身	(16.5)	7.0	6.4	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切	黒斑
Po. 397	水路3	埋土中	土師器 环身		(6.0)	(4.1)	橙褐色	ナデ	ナデ、糸切	
Po. 398	水路3	埋土中	土師器 环身	(13.0)		(2.9)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 399	水路3	埋土中	土師器 环身	(13.4)		(3.9)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 400	水路3	埋土中	土師器 环身	(18.6)		(6.5)	暗褐色	ナデ	ナデ	
Po. 401	水路3	埋土中	土師器 甕	(15.6)		(10.2)	灰褐色	ケズリ、ハケ ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 402	水路3	埋土中	土師器 甕	(17.8)		(13.7)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 403	水路3	埋土中	土師器 甕	(23.5)		(7.0)	黒茶色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 404	水路3	埋土中	土師器 甕	(31.6)		(5.2)	橙褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 405	水路3	埋土中	土師器 甕	(29.2)		(8.1)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 406	水路3	埋土中	土師器 甕	(24.2)		(7.9)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 407	水路3	埋土中	土師器 甑	(19.8)	(10.4)	18.0	灰褐色	ケズリ、ハケ ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 408	水路3	埋土中	土師器 把手			(9.3)	灰褐色	ケズリ	ハケ、ナデ	
Po. 409	水路3	埋土中	移動式竈			(6.2)	灰褐色	ケズリ	ナデ	
Po. 410	水路3	埋土中	輔羽口			(6.3)	灰白色		ナデ	
Po. 411	水路3	埋土中	須恵器 环蓋	10.2		3.5	灰色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 412	水路3	埋土中	須恵器 环身		(4.0)	(2.3)	灰色	ナデ	ヘラ起し後ナデ	
Po. 413	水路3	埋土中	須恵器 环身		(7.0)	(1.8)	暗灰色	ナデ	糸切	
Po. 414	水路3	埋土中	須恵器 壺		(9.6)	(3.5)	灰褐色	ナデ	糸切	
Po. 415	水路3	埋土中	弥生土器 高坏			(8.4)	褐色	ケズリ、ナデ	櫛描紋、ハケ	
Po. 416	水路5	埋土中	須恵器 鉢	(19.0)		(4.9)	灰色	ナデ	ナデ	
Po. 417	水路5	埋土中	土師器 高台坏		4.6	(2.4)	橙褐色	ナデ	糸切、ナデ	
Po. 418	水路5	埋土中	輔羽口			(2.9)	白灰色	被熱	ナデ	
Po. 419	3区	Ⅲ層	土師器 环身	14.5	6.0	5.5	灰褐色	ナデ	ナデ、糸切	

表15 坂長ブジラ遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表 (残存・復元値は()で表示)

遺物番号	地区構遺構	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 420	3区	Ⅲ層	黒色土器 碗	(15.2)		(3.2)	灰褐色	ミガキ	ミガキ	
Po. 421	3区	Ⅲ層	黒色土器 碗			(1.6)	橙褐色	ミガキ	ナデ	
Po. 422	3区	Ⅲ層	土師器 环身		(7.0)	(1.7)	灰茶色	ミガキ	ナデ、糸切後高台貼付	
Po. 423	3区	Ⅲ層	瓦質土器 碗	(13.2)		(3.5)	暗灰色	ナデ	ナデ	
Po. 424	3区	Ⅲ層	須恵器 环身	(13.8)		(2.3)	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 425	3区	Ⅲ層	須恵器 环身	(14.6)		(3.4)	暗赤灰色	ナデ	ナデ	
Po. 426	3区	Ⅲ層	須恵器 瓶	(7.8)		(5.0)	灰色	ナデ	ナデ	
Po. 427	3区	Ⅲ層	弥生土器 底部		6.5	(5.0)	灰茶色	ナデ	ミガキ	
Po. 428	3区	Ⅲ層	土師器 甕	(19.2)		(5.0)	灰茶色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 429	3区	Ⅲ層	移動式竈			(5.8)	灰褐色	ケズリ	ケズリ	
Po. 430	3区	表土	須恵器 环身		(8.0)	(1.2)	灰色	ナデ	糸切	
Po. 431	3区	表土	須恵器 环身		(10.4)	(2.4)	灰色	ナデ	糸切	
Po. 432	3区	表土	須恵器 环身		(8.2)	(2.7)	灰色	ナデ	ナデ	
Po. 433	3区	表土	瀬戸・美濃 皿	(11.0)	(6.2)	2.5	淡緑灰色	ナデ	ナデ	
Po. 434	3区	表土	土師器 鉢	(31.8)	(29.4)	(10.7)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 435	4区	表土	陶器 鉢	(17.6)		(3.9)	暗緑色	ナデ	ナデ	
Po. 436	4区	表土	瀬戸 碗	(11.2)		(3.8)	青白色	ナデ	ナデ	

表16 坂長ブジラ遺跡出土瓦製品観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物 番号	地 区 遺 構	層位	種 別 器 種	法 量 (cm)			備 考
				最大長	最大幅	最大厚	
R. 1	水路2	埋土中	施釉瓦	(4.5)	(7.0)	1.6	
R. 2	水路2	埋土中	施釉瓦	(4.1)	(5.5)	1.5	
R. 3	水路2	埋土中	施釉瓦	(5.9)	(4.2)	1.6	
R. 4	水路2	埋土中	施釉瓦	(5.3)	(3.9)	1.4	
R. 5	水路2	埋土中	施釉瓦	(7.9)	(9.2)	1.7	
R. 6	水路2	埋土中	施釉瓦	(7.2)	(4.9)	1.8	
R. 7	水路2	埋土中	窯道具 モミツチ	(8.9)	(3.7)	2.9	欠損
R. 8	水路2	埋土中	窯道具 ハセ	6.5	3.0	1.9	
R. 9	水路2	埋土中	窯道具 ハセ	6.9	3.3	2.3	
R. 10	水路2	埋土中	窯道具 ハセ	5.0	2.7	2.1	
R. 11	Kライン以南	I層	軒丸瓦	(11.7)	(12.6)	(2.1)	
R. 12	Kライン以南	I層	施釉瓦	(6.4)	(5.8)	1.4	
R. 13	Kライン以南	I層	窯道具 ハセ	6.9	2.6	1.8	
R. 14	Kライン以南	I層	窯道具 ハセ	5.0	2.4	1.7	
R. 15	Kライン以南	I層	窯道具 ハセ	3.6	2.1	1.3	
R. 16	水路3	埋土中	丸瓦	(13.9)	(12.5)	2.3	
R. 17	水路3	埋土中	平瓦	(6.0)	(7.9)	2.3	
R. 18	3区	表土	丸瓦	(10.4)	(5.7)	1.5	

表17 坂長ブジラ遺跡出土石製品観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構	層位	種別	法量(cm)			重量	石材
				最大長	最大幅	最大厚		
S. 1	土坑1	埋土中	ハンマー	10.7	4.1	2.8	187.4	デイサイト
S. 2	土坑3	埋土中	穂摘具	5.4	(8.1)	0.6	30.6	安山岩
S. 3	河川1	埋土中	石鏃	1.9	1.3	0.4	0.7	サヌカイト
S. 4	河川1	埋土中	スクレイパー	3.6	5.9	1.1	25.4	黒曜石
S. 5	河川1	埋土中	スクレイパー	5.0	7.4	1.2	40.2	黒曜石
S. 6	河川1	埋土中	穂摘具	6.1	12.7	1.2	111.8	安山岩
S. 7	河川1	埋土中	穂摘具	4.9	(8.4)	1.0	58.9	閃綠岩
S. 8	河川1	埋土中	磨製石斧	(10.1)	(4.1)	3.2	168.1	緑色片岩
S. 9	河川1	埋土中	磨製石斧	(7.8)	6.1	4.8	386.2	花崗閃綠岩
S. 10	河川1	埋土中	ハンマー	12.1	5.4	4.1	420.3	閃綠岩
S. 11	河川1	埋土中	石斧	(17.0)	8.0	5.6	1384.8	閃綠岩
S. 12	河川1	埋土中	石斧	(12.4)	6.5	4.3	655.7	玄武岩
S. 13	河川1	埋土中	打欠石錐	6.8	6.1	1.8	116.3	デイサイト
S. 14	河川1	埋土中	打欠石錐	8.2	5.7	1.9	117.1	デイサイト
S. 15	河川1	埋土中	磨石	9.3	7.3	4.1	390.2	花崗岩
S. 16	河川1	埋土中	凹石	10.8	7.0	3.9	379.6	デイサイト
S. 17	河川1分流	埋土中	磨製石斧	(12.4)	7.3	5.5	823.0	花崗閃綠岩
S. 18	河川1分流	埋土中	凹石？	(8.0)	(8.3)	(5.8)	241.2	デイサイト
S. 19	河川1分流	埋土中	磨石	(8.0)	(6.6)	3.7	229.8	デイサイト
S. 20	I4区	IV-2層	尖頭器	(3.2)	2.9	0.9	7.2	サヌカイト
S. 21	J5区	IV-2層	剥片	2.7	3.3	1.4	10.4	緑色凝灰岩
S. 22	H4区	IV-2層	磨製石斧	14.2	7.2	5.0	754.3	花崗閃綠岩
S. 23	G2区	IV-2層	磨石	9.2	7.5	5.0	510.0	デイサイト
S. 24	I5区	IV-2層	打欠石錐	7.1	4.4	1.4	67.4	デイサイト
S. 25	I5区	IV-2層	凹石	12.5	9.3	4.5	719.0	デイサイト
S. 26	J5区	IV-2層	凹石	9.5	8.0	4.6	488.1	デイサイト
S. 27	G2区	IV-2層	砥石	16.9	5.3	4.2	546.4	凝灰岩
S. 28	水路1	埋土中	磨製石斧	(9.7)	4.9	4.0	269.7	緑色片岩
S. 29	水路1	埋土中	磨製石斧	(12.5)	5.5	4.4	461.6	閃綠岩
S. 30	水路1	埋土中	磨製石斧	(5.8)	4.7	(1.4)	56.4	閃綠岩
S. 31	水路1	埋土中	凹石	11.0	7.1	3.4	307.0	デイサイト
S. 32	水路1	埋土中	砥石	10.5	2.8	2.9	63.9	凝灰岩
S. 33	水路2	埋土中	砥石	7.7	3.4	0.8	40.6	凝灰岩
S. 34	水路2	埋土中	砥石	(9.0)	4.3	1.5	109.4	凝灰岩
S. 35	H5区	IV-1層	石鏃	(3.0)	2.0	0.5	1.5	黒曜石

表18 坂長ブジラ遺跡出土石製品観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構	層位	種別	法量(cm)			重量	石材
				最大長	最大幅	最大厚		
S. 36	L5区	IV-1層	石鏸	2.0	1.4	0.5	1.2	黒曜石
S. 37	L5区	IV-1層	スクレイパー	4.2	4.8	1.0	26.2	黒曜石
S. 38	J5区	IV-1層	スクレイパー	4.5	8.1	0.6	35.9	サヌカイト
S. 39	J5区	III層	剥片	2.4	1.0	0.7	1.5	黒曜石
S. 40	J5区	I層	石鏸	2.0	1.5	0.25	0.6	サヌカイト
S. 41	Kライン以南	I層	石鏸	(2.0)	(1.7)	0.4	1.3	黒曜石
S. 42	Kライン以南	I層	磨製石斧	(12.6)	5.4	(3.7)	323.7	花崗岩
S. 43	Kライン以南	I層	磨製石斧	(3.1)	(5.7)	(2.3)	24.8	凝灰岩
S. 44	L5区	I層	勾玉	3.1	1.2	0.85	6.2	碧玉
S. 45	H4区	掘削中	石鏸	2.5	1.5	0.3	1.1	サヌカイト
S. 46	I5区	掘削中	磨製石斧	(9.1)	(7.0)	(5.4)	407.9	閃綠岩
S. 47	H4区	掘削中	磨製石斧	(12.2)	5.8	(4.2)	502.8	閃綠岩
S. 48	H4区	掘削中	磨石	10.3	9.8	5.3	733.9	デイサイト
S. 49	I5区	掘削中	凹石	10.6	7.2	3.5	345.2	デイサイト
S. 50	Kライン以南	掘削中	硯	(2.9)	6.1	(0.9)	21.1	粘板岩
S. 51	水路3	埋土中	凹石	11.4	9.6	4.4	579.7	デイサイト
S. 52	3区	III層	砥石	(10.8)	(13.4)	8.3	1350.9	花崗岩
S. 53	3区	III層	砥石	(11.0)	(11.1)	7.7	771.3	花崗岩

表19 坂長ブジラ遺跡出土金属製品観察表 (残存・復元値は()で表示)

遺物番号	地区 遺構	層位	種別 器種	法量(cm)			備考
				最大長	最大幅	最大厚	
F. 1	河川1	埋土中	鉄・鎌	(8.2)	(2.1)	2.0	刃部欠損
F. 2	K4区	IV層	鉄・青銅・小柄	(8.5)	1.4	0.4	半分欠損
B. 1	H4区	III層	銅錢・元□通寶	2.5	2.5	0.1	
B. 2	H4区	III層	銅錢・元豊通寶	2.4	2.4	0.2	
B. 3	H4区	III層	銅錢・開元通寶	(2.2)	(2.1)	0.1	三つに分割
B. 4	G4区	II層	銅錢・祥符通寶	2.4	2.4	0.1	
B. 5	H3区	I層	銅錢・元豊通寶	2.4	2.4	0.1	
B. 6	H3区	I層	銅錢・元祐通寶	2.4	2.4	0.1	
B. 7	1区	I層	銅錢・寛永通寶	2.3	2.3	0.1	

表20 坂長尻田平遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区遺構	層位	種別器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 437	豎穴1	埋土中	土師器甕	(16.0)		(4.3)	褐色	ナデ	ナデ	
Po. 438	豎穴1	埋土中	土師器甕	(18.4)		(4.1)	黒茶色	ハケ後ナデ	ナデ	外面黒化
Po. 439	豎穴1	埋土中	土師器甕	(13.2)		(4.75)	橙褐色	ハケ後ナデ	ナデ	
Po. 440	豎穴1	埋土中	土師器高坏			(1.9)	褐色	ナデ	ナデ	一部黒斑
Po. 441	豎穴1 (攪乱溝)	攪乱土中	土師器高坏	(19.9)		(3.9)	灰褐色	風化	風化	
Po. 442	豎穴1 (攪乱溝)	攪乱土中	土師器高坏	(19.6)		(2.5)	褐色	風化	風化	
Po. 443	豎穴1 (攪乱溝)	攪乱土中	土師器高坏		(9.1)	(6.0)	灰茶色	ハケ、ケズリ	ナデ、ハケ	
Po. 444	道路1 段状遺構1	埋土中	土師器甕	(17.2)		(3.8)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 445	道路1 段状遺構1	上面	土師器甕	18.4		(4.7)	褐色	体部ケズリ 口縁部ナデ	ナデ	
Po. 446	道路1 段状遺構1	埋土中	土師器直口壺	(13.3)		(5.1)	橙褐色	体部ケズリ 口縁部ナデ	ナデ	
Po. 447	道路1 段状遺構1	埋土中	須恵器蓋	(11.0)		(1.6)	暗灰色	回転ナデ	回転ナデ	
Po. 448	道路1 段状遺構1	埋土中	須恵器壺	(16.2)		(2.9)	青灰色	ナデ	ハケ後ナデ	
Po. 449	道路1 段状遺構1	埋土中	磁器小杯	(7.2)		(3.1)	白灰色	ナデ	ナデ	伊万里焼
Po. 450	道路1 段状遺構1	埋土中	青花皿		(3.8)	(1.2)	淡灰色	高台部釉剥ぎ	碁笥底	漳州窯系
Po. 451	溝4	埋土中	土師器壺	(17.2)		(4.0)	灰褐色	ハケ後ナデ	ナデ	
Po. 452	溝4	埋土中	土師器鍋	(23.8)		(3.1)	灰白色	風化	ナデ	外面煤付着
Po. 453	溝4	埋土中	須恵器甕			(7.3)	灰色	当て具、ナデ	タタキ、ナデ	
Po. 454	溝4	埋土中	須恵器皿		(7.8)	(1.4)	灰色	ナデ	糸切	
Po. 455	凹凸状遺構1	上面	弥生土器底部			(2.7)	灰白色	ナデ	ナデ	
Po. 456	凹凸状遺構1	上面	土師器甕	(18.0)		(3.8)	灰茶色	体部ケズリ 口縁ハケ、ナデ	ナデ	
Po. 457	凹凸状遺構1	上面	土師器鍋	(30.0)		(1.9)	橙褐色	ナデ	ナデ	
Po. 458	凹凸状遺構1	上面	陶器擂鉢	(28.6)		(4.3)	茶色	擂目、ナデ	ナデ	在地産？
Po. 459	水門1	埋土中	土師器坏身	(11.8)		(1.9)	褐色	ナデ	ナデ	煤付着
Po. 460	水門1	埋土中	備前焼壺			(5.5)	内：灰色外 赤褐色	ナデ	高台内ケズリ	窯印あり

表21 坂長尻田平遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構	層位	種別 器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 461	北区	黑色土	弥生土器壺	(14.6)		(1.6)	褐色	ナデ	凹線紋、キザミ 円形浮紋、ナデ	
Po. 462	南区	黑色土	弥生土器壺	(23.0)		(5.7)	灰褐色	ナデ	凹線紋、風化	
Po. 463	北区	黑色土	弥生土器甕	(18.6)		(2.6)	褐色	ナデ	指頭圧痕 凹線紋、ナデ	
Po. 464	北区	黑色土	弥生土器甕	(21.4)		(5.3)	灰茶色	ナデ	指頭圧痕 凹線紋、ハケ	一部黒斑
Po. 465	北区	黑色土	弥生土器甕	(13.9)		(3.9)	褐色	ハケ、ナデ	凹線紋、 ハケ、ナデ	
Po. 466	南区	黑色土	弥生土器甕	(14.7)		(2.4)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 467	北区	黑色土	弥生土器甕	(17.8)		(4.8)	灰茶色	風化	ハケ、ナデ	
Po. 468	北区	黑色土	弥生土器高坏	(21.1)		(4.4)	橙褐色	ナデ	ミガキ、ナデ	
Po. 469	南区	黑色土	弥生土器高坏			(5.3)	黑茶色	ナデ	ハケ	
Po. 470	北区	黑色土	弥生土器底部		(10.2)	(2.9)	灰茶色	ナデ	底部ナデ 体部ミガキ	
Po. 471	北区	黑色土	弥生土器底部		(8.7)	(3.6)	灰茶色	ケズリ	底部ナデ 体部ミガキ	
Po. 472	北区	黑色土	弥生土器底部		(5.7)	(6.5)	褐色	ケズリ、ナデ	底部ナデ 体部ミガキ	内面コゲ
Po. 473	北区	黑色土	弥生土器底部		(5.0)	(3.4)	褐色	ナデ	風化	
Po. 474	北区	黑色土	土師器壺	(19.8)		(7.8)	灰茶色	体部ケズリ	ナデ	
Po. 475	北区	黑色土	土師器壺	(16.6)		(5.6)	黄灰白色	ナデ	ナデ	
Po. 476	南区	黑色土	土師器甕	(7.3)		(3.4)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 477	南区	黑色土	土師器甕	(17.0)		(3.9)	淡褐色	ナデ	ナデ	
Po. 478	北区	黑色土	土師器甕	(19.8)		(5.6)	橙褐色	体部ケズリ 口縁部ナデ	ナデ	
Po. 479	北区	黑色土	土師器甕	(19.7)		(5.7)	灰褐色	体部ケズリ 口縁部ナデ	ナデ	
Po. 480	北区	黑色土	土師器甕	(16.6)		(4.9)	灰褐色	体部ケズリ 口縁部ナデ	ハケ・ナデ	
Po. 481	北区	黑色土	土師器甕	(8.7)		(4.2)	黑茶色	体部ケズリ 口縁部ナデ	タタキ、ナデ	
Po. 482	南区	黑色土	土師器甕	(10.3)	(6.5)		褐色	体部ケズリ 口縁部ナデ	ハケ	
Po. 483	北区	黑色土	土師器小型丸底壺	(8.8)	(9.4)	(5.9)	褐色	体部ケズリ 口縁部ナデ	風化	
Po. 484	北区	黑色土	手捏ね			(6.0)	灰茶色	ナデ	ナデ	

表22 坂長尻田平遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構	層位	種別 器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 485	南区	黑色土	土師器 高坏	(20.1)		(5.4)	橙褐色	ナデ	ナデ	
Po. 486	北区	黑色土	土師器 高坏	(20.6)		(3.5)	褐色	ナデ	ナデ	
Po. 487	北区	黑色土	土師器 高坏	(15.6)		(3.2)	褐色	ナデ	ナデ	赤色塗彩
Po. 488	南区	黑色土	土師器 高坏			(3.6)	灰褐色	風化	ハケ、風化	
Po. 489	北区	黑色土	土師器 高坏	(15.8)		(5.2)	橙褐色	風化	ハケ、ナデ	
Po. 490	北区	黑色土	土師器 高坏	14.6		(4.8)	褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	
Po. 491	北区	黑色土	土師器 高坏	(13.7)		(3.1)	橙褐色	風化	風化	
Po. 492	南区	黑色土	土師器 高坏	(15.30)		(4.2)	褐色	ナデ	風化	
Po. 493	南区	黑色土	土師器 高坏			(3.0)	橙褐色	風化	風化	
Po. 494	南区	黑色土	土師器 高坏			(3.0)	灰褐色	風化	ハケ	
Po. 495	北区	黑色土	土師器 高坏			(2.2)	黄灰白色	風化	風化	
Po. 496	北区	黑色土	土師器 高坏			(4.7)	橙褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 497	北区	黑色土	土師器 高坏			(5.7)	褐色	ケズリ	ミガキ	
Po. 498	北区	黑色土	土師器 高坏			(6.0)	赤褐色	ケズリ、ナデ	ミガキ	赤色塗彩
Po. 499	北区	黑色土	土師器 高坏		(14.8)	(3.5)	灰茶色	ハケ、ナデ	ナデ	
Po. 500	北区	黑色土	須恵器 壺			(6.4)	灰色	ナデ	ケズリ	
Po. 501	北区	黑色土	須恵器 壺蓋			(3.1)	青灰色	ナデ	ケズリ、ナデ	
Po. 502	北区	黑色土	須恵器 壺身	(11.4)		(3.0)	暗褐色	ナデ	ナデ	
Po. 503	北区	黑色土	土師器 壺身？	(13.7)		(1.5)	灰白色	ナデ	ナデ	
Po. 504	I-5区	黑色土	弥生土器 底部		(8.4)	(2.4)	黑茶色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 505	I-5区	黑色土	弥生土器 底部		(5.0)	(2.7)	灰褐色	ナデ	ケズリ後ナデ	
Po. 506	I-5区	黑色土	弥生土器 底部		(5.6)	(3.4)	灰褐色	ナデ	ナデ	
Po. 507	I-5区	黑色土	土師器 甕	(12.8)		(5.7)	灰褐色	ケズリ、ナデ	風化	一部黒斑
Po. 508	I-5区	黑色土	土師器 甕	(14.6)		(4.0)	黑茶色	体部ケズリ 口縁部ナデ	ナデ	

表23 坂長尻田平遺跡出土土器・土製品・陶磁器観察表（残存・復元値は（ ）で表示）

遺物番号	地区構	層位	種別 器種	法量(cm)			色調	調整		備考
				口径	底径	器高		内面	外面	
Po. 509	I-5区	黑色土	土師器 高坏	(19.2)		(3.6)	褐色	ナデ	ナデ	一部黒斑
Po. 510	I-5区	黑色土	土師器 高坏	(15.0)		(4.8)	褐色	風化	ナデ	
Po. 511	I-5区	黑色土	土師器 高坏		(11.6)	(8.0)	橙褐色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	
Po. 512	I-5区	黑色土	須恵器 坏身	(13.3)		(2.7)	青灰色	ナデ	ナデ	
Po. 513	G-3区	表土	弥生土器 甕	(16.7)		(2.8)	黄灰白色	ナデ	凹線紋、ナデ	
Po. 514	南区	表土	土師器 高坏脚		(12.6)	(3.0)	褐色	ハケ	ナデ	赤色塗彩
Po. 515	南区	表土	手捏ね	(4.6)	(1.8)	4.9	黒茶色	ナデ	ナデ	一部黒斑
Po. 516	南区	表土	土師器 甕	(15.6)		(7.5)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 517	I-2区	表土	土師器 甕	(17.7)		(4.6)	褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	
Po. 518	南区	表土	土師器 カマド		(37.8)	(6.3)	橙褐色	ケズリ	ハケ	
Po. 519	南区	表土	須恵器 壺	(26.0)		(4.2)	暗青灰色	ナデ	波状紋、ナデ	
Po. 520	G-3区	表土	須恵器 甕	(46.2)		(34.8)	灰色	当て具	平行タタキ	
Po. 521	南区	表土	瓦質 鍋	(28.8)		(3.2)	灰色	ナデ	ナデ	
Po. 522	南区	表土	土師器 鍋	(29.0)		(7.4)	灰褐色	ハケ	ナデ	
Po. 523	南区	表土	土師器 鍋	(23.0)		(3.9)	灰褐色	ハケ	ナデ	
Po. 524	南区	表土	青磁 碗	(10.8)		(2.2)	淡綠灰色	ナデ	蓮弁紋	貫入
Po. 525	南区	表土	陶器 向付			(3.9)	綠灰色	ナデ	ナデ	唐津焼
Po. 526	南区	表土	陶器 皿			(1.7)	暗綠灰色	ナデ、砂目	高台ケズリ	唐津焼
Po. 527	南区	表土	陶器 皿			(2.7)	白褐色	ナデ、砂目	高台ケズリ	唐津焼

表24 坂長尻田平遺跡出土瓦類觀察表 (残存・復元値は()で表示)

遺物番号	地区遺構	層位	種別器種	法量(cm)			備考
				最大長	最大幅	最大厚	
R. 19	南区	表土	石州瓦 棟瓦	(17.0)	(14.6)	1.6	
R. 20	南区	表土	石州瓦 棟瓦	(12.9)	(14.4)	1.7	焼き台痕

表25 坂長尻田平遺跡出土石製品觀察表 (残存・復元値は()で表示)

遺物番号	地区遺構	層位	種別	法量(cm)			重量(g)	石材
				最大長	最大幅	最大厚		
S. 54	1区	黒色土	砥石	5.3	2.4	1.1	24.8	凝灰岩

表26 坂長尻田平遺跡出土銅製品觀察表 (残存・復元値は()で表示)

遺物番号	地区遺構	層位	種別器種	法量(cm)			備考
				最大長	最大幅	最大厚	
B. 8	柱穴2	埋土中	銅錢・開元通寶	(1.9)	(1.5)	0.1	半分欠損
B. 9	柱穴2	埋土中	銅錢・皇宋通寶	(2.2)	2.4	0.1	
B. 10	柱穴2	埋土中	銅錢・熙寧元寶	2.2	2.2	0.1	
B. 11	凹凸状遺構1	上面	銅錢・寛永通寶	2.3	2.3	0.1	

写 真 図 版



1. 調査地遠景 (東上空より)



2. 調査地遠景 (北上空より)

写真図版2



1. ブジラ遺跡1区
土坑1・遺物出土状況
(西より)



2. ブジラ遺跡1区
土坑1・小穴断面
(南より)



3. ブジラ遺跡1区
土坑1・完掘
(南より)



1. ブジラ遺跡 1 区
土坑 2 ・ 断面
(南より)



2. ブジラ遺跡 1 区
土坑 2 ・ 石出土状況
(南より)



3. ブジラ遺跡 1 区
土坑 2 ・ 完掘
(南より)

写真図版 4



1. ブジラ遺跡 1 区
土坑 3・南東部断面
(南より)



2. ブジラ遺跡 1 区
土坑 3・完掘
(西より)



3. ブジラ遺跡 1 区
掘立柱建物 1・完掘
(南東より)



1. ブジラ遺跡 1 区
河川 1 ・ K ライン以南・完掘
(北より)



2. ブジラ遺跡 1 区
河川 1 ・ K4 区分流地点・完掘
(北より)



3. ブジラ遺跡 1 区
河川 1 ・ J ライン以南・完掘
(北より)

写真図版6



1. ブジラ遺跡1区
河川1・Hライン以南・完掘
(北より)



2. ブジラ遺跡1区
河川1・H5区分流地点・完掘
(北より)



3. ブジラ遺跡1区
河川1・Hライン以北・完掘
(西より)



1. ブジラ遺跡 1 区
河川 1 ・ J ライン・西側断面
(北西より)



2. ブジラ遺跡 1 区
河川 1 ・ S. 7 出土状況
(西より)



3. ブジラ遺跡 1 区
IV-2 層・S. 20 出土状況
(北より)

写真図版8



1. ブジラ遺跡1区
水路1・遺物出土状況
(北より)



2. ブジラ遺跡1区
水路1・Po. 225出土状況
(南より)



3. ブジラ遺跡1区
水路1・Po. 227出土状況
(東より)



1. ブジラ遺跡 1 区
水路 1 ・ Po. 229 出土状況
(西より)



2. ブジラ遺跡 1 区
水路 1 ・ 遺物出土状況
(北より)



3. ブジラ遺跡 1 区
敷石・検出状況
(北より)

写真図版10



1. ブジラ遺跡1区
敷石・南側遺物出土状況
(北より)



2. ブジラ遺跡1区
敷石・完掘
(西より)



3. ブジラ遺跡1区
敷石・除去後
(北より)



1. ブジラ遺跡1区
水路2・南側検出
(南東より)



2. ブジラ遺跡1区
水路2・南側完掘
(南東より)



3. ブジラ遺跡1区
水路2・護岸杭
(北東より)

写真図版12



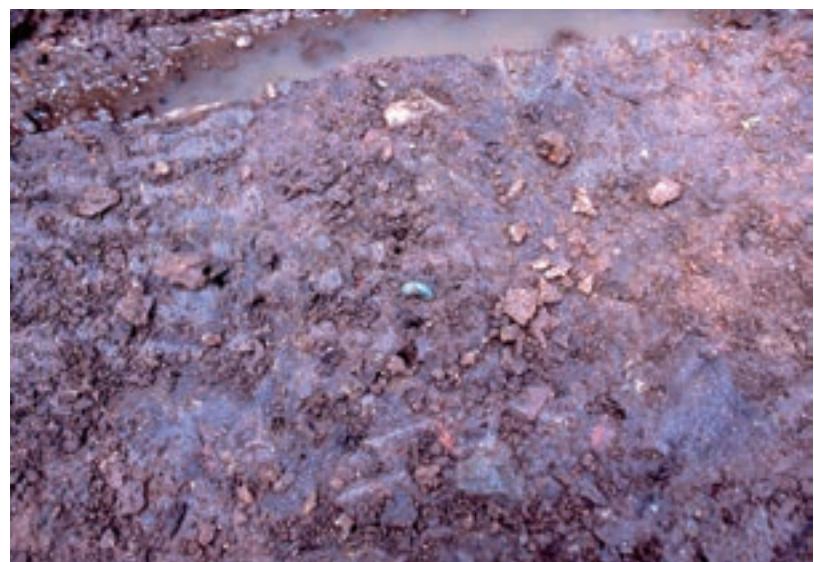
1. ブジラ遺跡1区
水路2・分岐点検出
(北東より)



2. ブジラ遺跡1区
水路2・北側護岸
(北西より)



3. ブジラ遺跡1区
水路2・北側護岸
(北より)



写真図版14



1. ブジラ遺跡3区
水路5・6・検出
(北より)



2. ブジラ遺跡3区
水路5・6・完掘
(北より)



3. ブジラ遺跡3区
水路3・土器出土状況
(北より)

1. ブジラ遺跡3区
水路3・完掘
(南より)



2. ブジラ遺跡3区
水路4・完掘
(北より)



3. ブジラ遺跡3区
水路3・断面
(南より)



写真図版16



1. ブジラ遺跡4区
トレンチ1・断面
(北西より)



2. ブジラ遺跡4区
調査区・完掘
(北東より)



3. ブジラ遺跡4区
調査区・完掘
(南より)



1. 土坑1・3・掘立柱建物1出土遺物 (1 : 3)



2. 河川1出土遺物 (1 : 3)

写真図版18



1. 河川1出土遺物 (1 : 3)



2. 河川1出土遺物 (1 : 3)



3. 河川1出土遺物 (1 : 3)



1. 河川1出土遺物 (1 : 2)



2. 河川1出土遺物 (S. 11の長さ17cm)

写真図版20



1. 河川1 分流部分出土遺物 (1 : 3)



2. 河川1 分流部分出土遺物裏面 (1 : 3)



3. 河川1 分流部分出土遺物 (1 : 3)



Po.119

1. 河川1 分流部分
出土遺物 (1 : 3)



Po.129

2. 河川1 分流部分出土遺物 (1 : 3)



Po.149

3. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



Po.151

5. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



Po.156

8. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



Po.152

6. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



Po.157

9. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



Po.150

4. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



Po.155

7. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



Po.158

10. IV-2層出土遺物 (1 : 3)

写真図版22



1. IV-2層出土遺物 (1 : 3) 2. IV-2層出土遺物 (1 : 3) 3. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



4. IV-2層出土遺物 (1 : 3)

6. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



5. IV-2層出土遺物 (1 : 3)

7. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



1. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



2. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



3. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



4. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



5. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



7. IV-2層出土遺物 (1 : 1)



6. IV-2層出土遺物 (1 : 3)



8. IV-2層出土遺物 (1 : 1)

写真図版24



1. IV-2層出土遺物 (S. 22の長さ14.2cm)



2. 水路1出土遺物 (1 : 3)



1. 水路1出土遺物(1:3)



3. 水路1出土遺物(1:3)



2. 水路1出土遺物(1:3)



4. 水路1出土遺物(1:3)



5. 水路1出土遺物(Po.240の口径16.6cm)

写真図版26



1. 水路2出土遺物 (1 : 3)



2. IV-1層出土遺物 (1 : 3)



3. IV-1層出土遺物 (1 : 1)



4. I層出土遺物 (1 : 1)



5. IV-1層出土遺物 (1 : 1)



1. II・III層出土遺物 (1 : 3)



2. I層出土遺物 (1 : 3)

写真図版28



1. 水路3出土遺物 (1 : 3)



4. 水路3出土遺物 (1 : 3)



5. 水路3出土遺物 (1 : 3)

7. 水路3出土遺物(1 : 3)

9. 水路3出土遺物 (1 : 3)



10. 水路3出土遺物 (1 : 3)



11. 水路3出土遺物裏面 (1 : 3)



1. 尻田平遺跡1区 調査地全景（西上空より）

写真図版30



1. 尻田平遺跡1区
土坑1・検出
(北西より)



2. 尻田平遺跡1区
土坑1・断面
(北より)



3. 尻田平遺跡1区
土坑1・完掘
(北より)



1. 尻田平遺跡 1 区
土坑 2・検出
(西より)



2. 尻田平遺跡 1 区
土坑 2・礫検出
(西より)



3. 尻田平遺跡 1 区
土坑 3・検出
(南より)

写真図版32



1. 尻田平遺跡1区
土坑3・断面
(南西より)



2. 尻田平遺跡1区
土坑3・完掘
(北より)



3. 尻田平遺跡1区
竪穴1・検出
(北西より)

1. 尻田平遺跡1区
道路1・断面
(北より)



2. 尻田平遺跡1区
柱穴2・断面
(北より)



3. 尻田平遺跡1区
溝3・道路1・段状遺構1・完掘
(北より)



写真図版34



1. 尻田平遺跡1区
段状遺構1・柱穴2・完掘
(北より)



2. 尻田平遺跡1区
道路1・完掘
(南より)



3. 尻田平遺跡1区
段状遺構1周辺・完掘
(西より)



1. 尻田平遺跡 1 区
溝 4・土手状遺構 1・検出
(南西より)



2. 尻田平遺跡 1 区
溝 4・土手状遺構 1・検出
(南西より)



3. 尻田平遺跡 1 区
水門 1・断面
(東より)

写真図版36



1. 尻田平遺跡1区
水門1・完掘
(西より)



2. 尻田平遺跡1区
水門1・北側
(南より)



3. 尻田平遺跡1区
水門1・南側
(北より)



1. 尻田平遺跡 1 区
溝 4・土手状遺構 1・検出
(北より)



2. 尻田平遺跡 1 区
凹凸状遺構 1・完掘
(北西より)



3. 尻田平遺跡 1 区
凹凸状遺構・完掘
(北より)

写真図版38



1. 尻田平遺跡1区
土手状遺構・断面
(北東より)



2. 尻田平遺跡1区
溝4・断面
(南西より)



3. 尻田平遺跡1区
溝4・断面
(南西より)



1. 尻田平遺跡1区
溝4・断面
(北より)

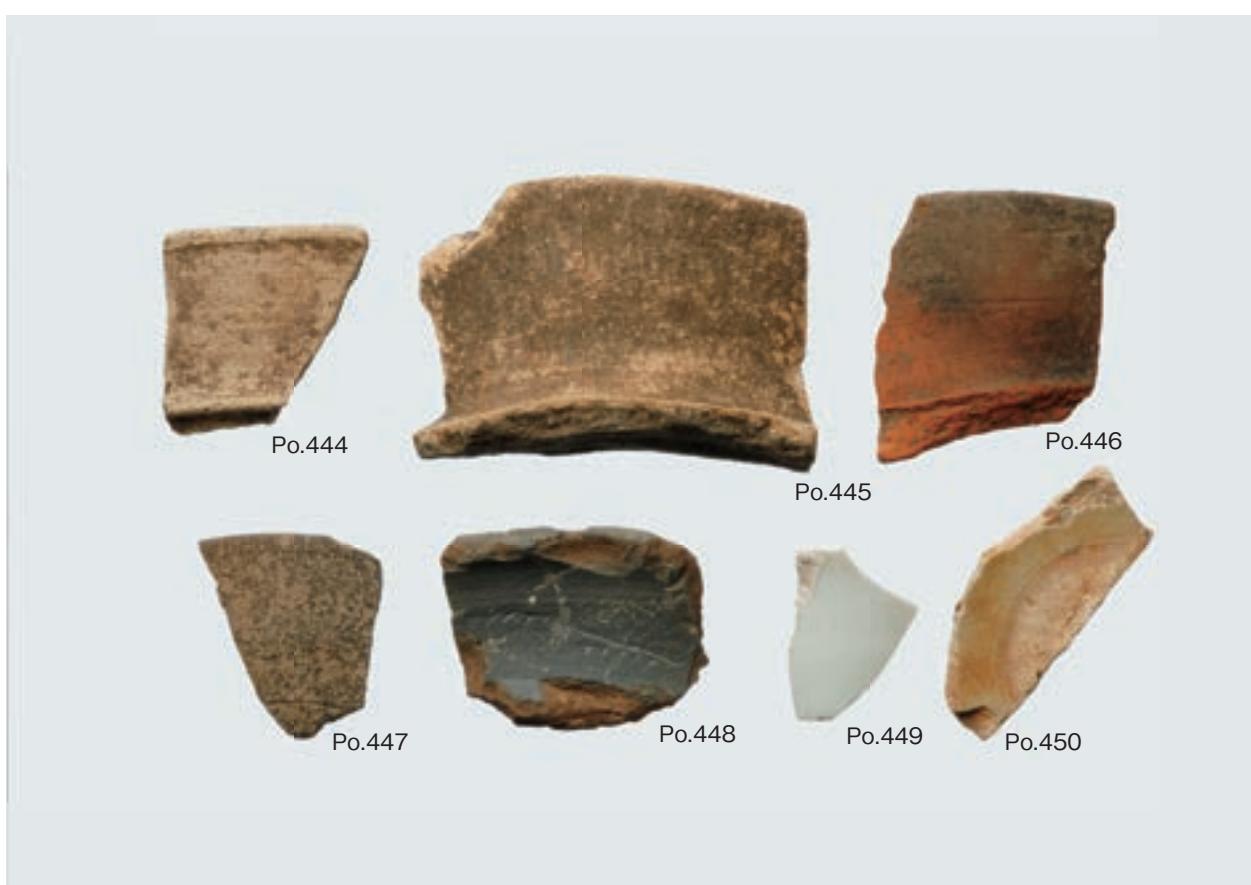


2. 尻田平遺跡1区
調査後・全景
(南西より)

写真図版40



1. 穫穴1出土遺物（2：3）



2. 道路1・段状遺構1出土遺物（2：3）

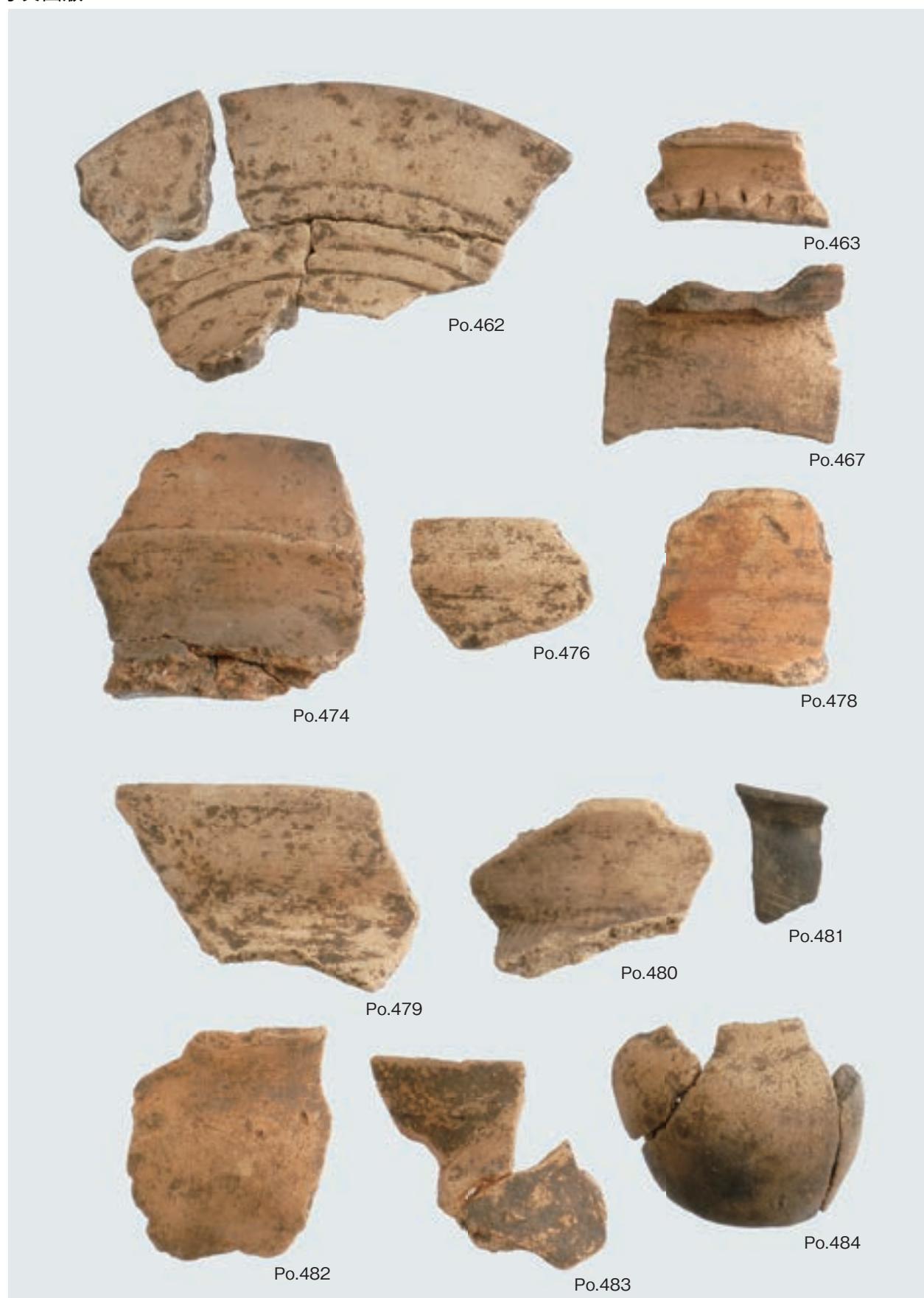


1. 溝4・土手状遺構1・凹凸状遺構1出土遺物（2：3）



2. 柱穴2・凹凸状遺構1
出土銅錢（1：1）

写真図版42



1. 黒色土層出土遺物 1 (3 : 5)



1. 黒色土層出土遺物2 (3 : 5)



2. 黒色土層出土遺物Po. 490 (3 : 5)



3. 黒色土層出土遺物 Po. 511 (3 : 5)

写真図版44



1. 表土層出土遺物1 (3 : 5)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	さかちょうぶじらいせき・さかちょうしりたびらいせき							
書名	坂長ブジラ遺跡・坂長尻田平遺跡							
副書名	一般国道181号（岸本バイパス）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	10							
編著者名	佐伯純也							
編集機関	一般財団法人 米子市文化財団 埋蔵文化財調査室							
所在地	〒683-0011 鳥取県米子市福市281番地 TEL・FAX 0859-26-0455 eメールアドレス yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村		遺跡番号						
坂長ブジラ遺跡	西伯郡伯耆町坂長字ブジラ	31371	1-376	35° 22' 34"	133° 23' 49"	平成24年 4月18日～ 平成24年 12月13日	2,372m ²	道路建設工事
坂長尻田平遺跡	西伯郡伯耆町坂長字尻田平	31371	1-376	35° 22' 34"	133° 23' 51"	平成24年 6月3日～ 平成24年 11月12日	2,960m ²	道路建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
坂長ブジラ遺跡	集落跡 その他	弥生時代 古墳時代から古代 中世 近世以降	自然河川、貯蔵穴、掘立柱建物、水路			縄紋土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器、土製品、陶磁器、石器、鉄器、銅錢、瓦、近代瓦	天地逆にした状態で灯明具に転用した土師器壊が出土。	
坂長尻田平遺跡	集落跡	弥生時代 古墳時代 近世以降	土坑、竪穴、柱穴、溝、段状遺構、道路、土手状遺構、凹凸状遺構、水門			弥生土器、土師器、須恵器、土製品、陶磁器、砥石、銅錢、近代瓦	なし	

一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財発掘調査報告書10

鳥取県西伯郡伯耆町

坂長ブジラ遺跡・坂長尻田平遺跡

2016年3月

編集・発行 一般財団法人 米子市文化財団

〒683-0011 鳥取県米子市福市281番地

TEL 0859-26-0455

印 刷 勝美印刷株式会社